

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE
長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第56地点

NISHINOHARA SITE
西ノ原遺跡第150地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第12集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE
長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第56地点

NISHINOHARA SITE
西ノ原遺跡第150地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、權現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることを証明ともいえます。

本報告書は、民間の開発業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長職務代理者 高山 稔

例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査4件の報告書である。
2. 民間開発を原因として行なった4ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

| 遺跡名・地点名 | 委託者 | 協定期間 |
|-------------|---------|------------------------|
| 長宮遺跡第34地点 | 宮寺　聖治 | 平成23年11月2日～平成26年3月31日 |
| 長宮遺跡第36地点 | 横山　公一 | 平成23年10月21日～平成26年3月31日 |
| 松山遺跡第56地点 | 木崎　長子 | 平成23年4月11日～平成26年3月31日 |
| 西ノ原遺跡第150地点 | 株式会社 住協 | 平成24年2月20日～平成26年3月31日 |

3. 調査組織

| | | | |
|---------------------------|----------------------------|-------------|--------------------------|
| 調査主体者 | ふじみ野市教育委員会 | 文化財保護係調査担当者 | 高崎直成 |
| 担当課 | 生涯学習課 文化財保護係 | 調査担当者 | 鍋島直久 |
| 教諭 | 矢島秀一 (2010.3.19～2014.3.18) | 庶務担当 | 橋本鶴人 |
| 教育長職務代理者 | 高山 稔 (2014.3.19～2014.3.31) | | 国分英良 |
| 生涯学習部長 | 高梨敦太郎 (2010.4.1～2012.3.31) | | 柳澤健司 |
| 統部 | 誠 (2012.4.1～2013.3.31) | | 岡 健二 |
| 高山 稔 (2013.4.1～2014.3.31) | 発掘調査員補 | 越村 雅 | |
| 生涯学習課長兼参事 | 統部 誠 (2010.4.1～2012.3.31) | 嘱託員 | 藤牧守絵(2003.4～2012.3.31) |
| 生涯学習課長兼副事 | (2012.4.1～) | | 配島結華(2012.4.1～2013.3.31) |
| 文化財保護係長 | 坪田幹男 (2007.4.1～2011.3.31) | 臨時の任用職員 | 高橋京子 |
| | 橋本鶴人 (2011.4.1～) | | |

4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本文・遺構検定：鍋島直久、遺物観察表：越村篤、第2・3章出土遺物：笛森健一、文字データ入力：大久保明子
図版作成の一部を(株)東京航業研究所に委託した。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)
 会田明、天ヶ嶺岳、荒井幹一、上田竜、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁憲、國見徹、隈本健介、小出輝雄、飼澤潔、酒井智晴、佐藤啓子、佐藤良博、塙野敏和、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治
 埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、(有)文化財C O M、(有)アルケーリサーク、(株)東京航業研究所
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 《発掘調査参加者》(敬称略) 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、白井孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、小林こずい、西城満期子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、森崎忠三、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝美、山内康代、米田昇三、若林紀美代《整理作業参加者》(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平靜

凡　例

1. 本書の遺構・遺物押印の指示は以下のとおりである。

(1)縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60, 1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4, 2.3 級 1:1

(2)遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3)遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。

複雑 ■■■ 地山(ローム) ■■■■ 燃土 ■■■■ 朱 ■■■■ 土器 ● 石器 ★

黒曜石 ▲ チャート▲ ■

(4)土器断面図は、■が磁性含有、●が雲母粒を含有する繩文土器を表わす。

(5)土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 11 目次

| | |
|----------------------------|-----|
| はじめに | i |
| 例　　言 | ii |
| 凡　　例 | ii |
| 目　　次 | iii |
| 挿図目次 | iv |
| 表　　目　次 | iv |
| 写真図版目次 | iv |
| | |
| 第1章　ふじみ野市の遺跡 | 1 |
| I　ふじみ野市の立地と環境 | 1 |
| II　市内の遺跡 | 2 |
| 第2章　長宮遺跡第34 地点の本調査 | 5 |
| I　遺跡の立地と環境 | 5 |
| II　本調査に至る経過と調査の概要 | 5 |
| III　遺構と遺物 | 7 |
| 第3章　長宮遺跡第36 地点の本調査 | 21 |
| I　本調査に至る経過と調査の概要 | 21 |
| II　遺構と遺物 | 21 |
| 第4章　松山遺跡第56 地点の本調査 | 34 |
| I　遺跡の立地と環境 | 34 |
| II　本調査に至る経過と調査の概要 | 36 |
| III　遺構と遺物 | 36 |
| 第5章　西ノ原遺跡第150 地点の本調査 | 40 |
| I　遺跡の立地と環境 | 40 |
| II　本調査に至る経過と調査の概要 | 40 |
| III　遺構と遺物 | 44 |
| 第6章　まとめ | 52 |
| 写真図版 | 53 |
| 抄　　録 | 73 |

挿図目次

| | | |
|------|---|----|
| 第1図 | ふじみ野市の位置と周辺の地形 | 1 |
| 第2図 | ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000) | 3 |
| 第3図 | 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 5 |
| 第4図 | 長宮遺跡第34地点遺構配置図(1/300) | 7 |
| 第5図 | 長宮遺跡第34地点J 9号住居跡(1/60) | 8 |
| 第6図 | 長宮遺跡第34地点J 9号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、炉(1/30) | 9 |
| 第7図 | 長宮遺跡第34地点J 9号住居跡出土遺物①(1/4) | 11 |
| 第8図 | 長宮遺跡第34地点J 9号住居跡出土遺物②(1/4) | 12 |
| 第9図 | 長宮遺跡第34地点炉穴①・土坑①(1/60) | 14 |
| 第10図 | 長宮遺跡第34地点炉穴②・井戸①・落し穴 (1/60) | 15 |
| 第11図 | 長宮遺跡第34地点井戸②・土坑②・ピット ①(1/60) | 16 |
| 第12図 | 長宮遺跡第34地点土坑③・ピット②(1/60) | 17 |
| 第13図 | 長宮遺跡第34地点溝(1/80) | 18 |
| 第14図 | 長宮遺跡第34地点出土遺物①(1/4) | 19 |
| 第15図 | 長宮遺跡第34地点出土遺物②(1/4・2/3) | 20 |
| 第16図 | 長宮遺跡第36地点遺構配置図(1/300) | 21 |
| 第17図 | 長宮遺跡第36地点焼土(1/30)、井戸①(1/60) | 23 |
| 第18図 | 長宮遺跡第36地点井戸②(1/60) | 24 |
| 第19図 | 長宮遺跡第36地点土坑(1/60) | 25 |
| 第20図 | 長宮遺跡第36地点ピット(1/60) | 26 |
| 第21図 | 長宮遺跡第36地点溝①(1/100) | 27 |
| 第22図 | 長宮遺跡第36地点溝②(1/100) | 28 |
| 第23図 | 長宮遺跡第36地点出土遺物①(1/4) | 30 |
| 第24図 | 長宮遺跡第36地点出土遺物②(1/4・2/3・1/1) | 31 |
| 第25図 | 長宮遺跡第36地点出土遺物③(1/6) | 32 |
| 第26図 | 長宮遺跡第36地点出土遺物④(1/6) | 33 |
| 第27図 | 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 34 |
| 第28図 | 松山遺跡第56・57地点遺構配置図(1/300) | 37 |
| 第29図 | 松山遺跡第56地点土坑1 遺物出土状況図 (1/60) | 37 |
| 第30図 | 松山遺跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝 (1/60) | 38 |
| 第31図 | 松山遺跡第56地点出土遺物(1/4・1/2) | 39 |
| 第32図 | 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 40 |
| 第33図 | 西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000) | 42 |
| 第34図 | 西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)、 189号住居跡(1/60)、炉(1/30) | 46 |
| 第35図 | 西ノ原遺跡第150地点190号住居跡遺物 出土状況図(1/60)、炉(1/30) | 47 |
| 第36図 | 西ノ原遺跡第150地点191号住居跡・ピット (1/60)、埋甕(1/30) | 48 |
| 第37図 | 西ノ原遺跡第150地点炉穴・集石土坑1・2(1/30) | 49 |
| 第38図 | 西ノ原遺跡第150地点189・190号住居跡 出土遺物①(1/4) | 50 |
| 第39図 | 西ノ原遺跡第150地点191号住居跡集石土坑・ 遺構外出土遺物②(1/4) | 51 |

表 目 次

| | | |
|-----|------------------------|----|
| 第1表 | ふじみ野市遺跡一覧表 | 2 |
| 第2表 | 長宮遺跡調査一覧表 | 6 |
| 第3表 | 長宮遺跡第34地点J 9号住居跡ピット一覧表 | 12 |
| 第4表 | 長宮遺跡第34地点炉穴一覧表 | 13 |
| 第5表 | 長宮遺跡第34地点井戸・土坑・ピット一覧表 | 13 |
| 第6表 | 長宮遺跡第34地点溝一覧表 | 18 |
| 第7表 | 長宮遺跡第34地点出土遺物観察表 | 20 |
| 第8表 | 長宮遺跡第36地点井戸・土坑・ピット一覧表 | 22 |

写真図版目次

| | | |
|--------|-------------------------------|----|
| 写真図版1 | 長宮遺跡第34地点(1) | 53 |
| 写真図版2 | 長宮遺跡第34地点(2) | 54 |
| 写真図版3 | 長宮遺跡第34地点(3) | 55 |
| 写真図版4 | 長宮遺跡第34地点(4) | 56 |
| 写真図版5 | 長宮遺跡第34地点(5) | 57 |
| 写真図版6 | 長宮遺跡第34地点(6) | 58 |
| 写真図版7 | 長宮遺跡第34地点(7) | 59 |
| 写真図版8 | 長宮遺跡第36地点(1) | 60 |
| 写真図版9 | 長宮遺跡第36地点(2) | 61 |
| 写真図版10 | 長宮遺跡第36地点(3) | 62 |
| 写真図版11 | 長宮遺跡第36地点(4) | 63 |
| 写真図版12 | 長宮遺跡第36地点(5) | 64 |
| 写真図版13 | 松山遺跡第56地点(1) | 65 |
| 写真図版14 | 松山遺跡第56地点(2) | 66 |
| 写真図版15 | 西ノ原遺跡第150地点(1) | 67 |
| 写真図版16 | 西ノ原遺跡第150地点(2) | 68 |
| 写真図版17 | 西ノ原遺跡第150地点(3) | 69 |
| 写真図版18 | 西ノ原遺跡第150地点(4) | 70 |
| 写真図版19 | 長宮遺跡第34・36地点試掘調査 | 71 |
| 写真図版20 | 松山遺跡第56地点・西ノ原遺跡第150 地点試掘調査 | 72 |

第1章 ふじみ野市の遺跡

1 ふじみ野市の立地と環境

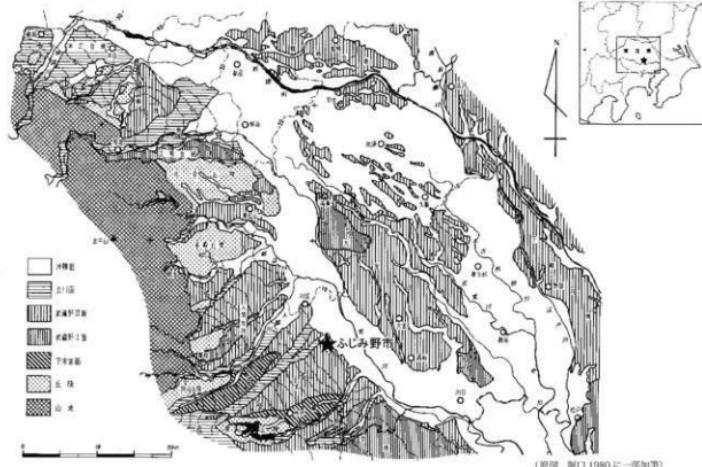
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武藏野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武藏野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と冲積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鎌齒状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中に低位台地

（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狹山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浮桜寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は深い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武藏野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、戸戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれている。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れている。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、史学上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が

丘上から流れ落ち滻となっていたため「滻地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滻跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滻跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期開山期の集落跡が確認されている。

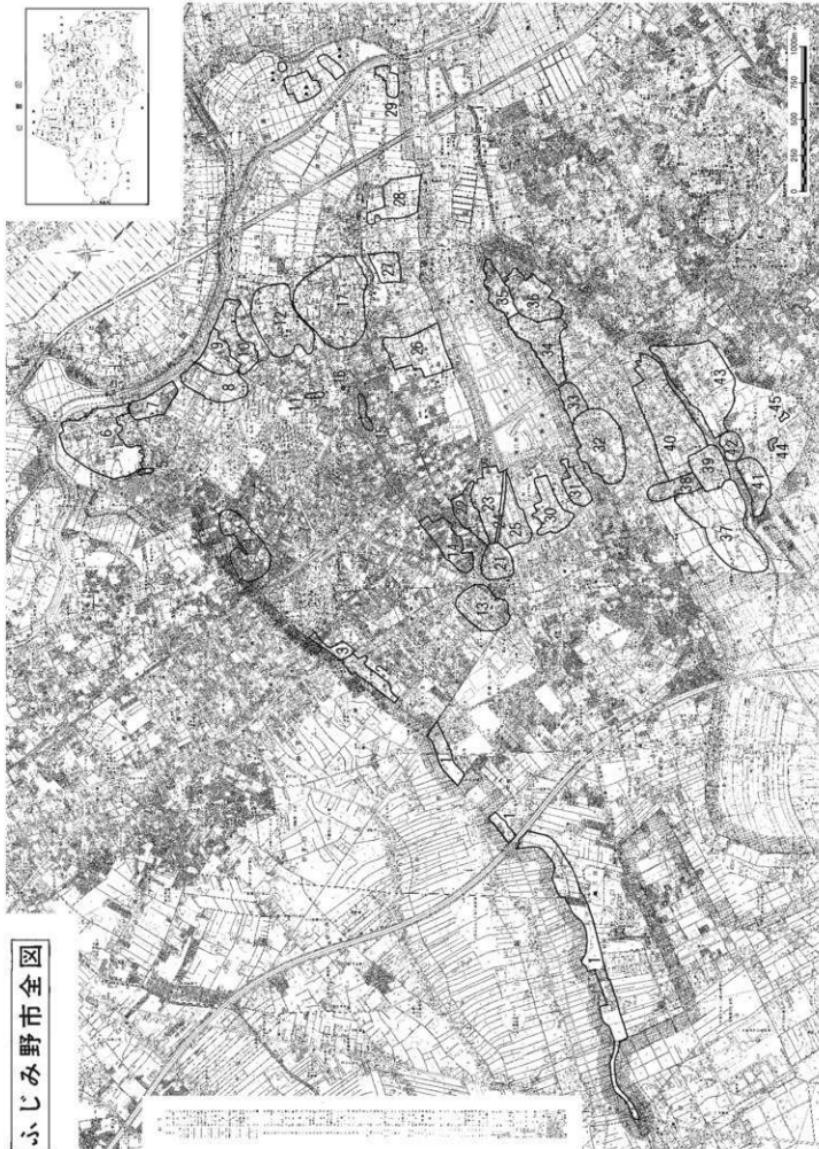
川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかいい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

| No | 遺跡名 | 主な時代 | 遺跡番号 |
|----|---------|-------------------------------|--------|
| 1 | 鶴ヶ岡外遺跡 | 旧石器、縄文早期の集落跡 | 30-036 |
| 2 | 鶴ヶ岡内遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期の集落跡 | 30-047 |
| 3 | 西遺跡 | 縄文中期の集落跡 | 25-001 |
| 4 | 北野遺跡 | 縄文中期、奈良・平安の集落 | 25-002 |
| 5 | 川崎横穴墓 | 古墳時代の横穴墓 | 25-004 |
| 6 | 川崎道跡 | 旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡 | 25-003 |
| 7 | ハケ遺跡 | 縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡 | 25-005 |
| 8 | 上福岡貝塚 | 縄文前期・古墳前期、奈良・平安の集落跡 | 25-006 |
| 9 | 椎現山遺跡群 | 古墳前期の集落跡、古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡 | 25-007 |
| 10 | 滻遺跡 | 縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡 | 25-008 |
| 11 | 西原遺跡 | 縄文の散在地 | 25-025 |
| 12 | 長宮遺跡 | 縄文前期・中・近世の集落跡 | 25-009 |
| 13 | 亀居遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期の集落跡 | 30-030 |
| 14 | 鶴ヶ舞遺跡 | 旧石器、縄文中期・奈良・平安の集落跡 | 30-046 |
| 15 | 富士見台横穴墓 | 古墳後期の横穴墓 | 25-011 |
| 16 | 福遺跡 | 古墳後期の横穴墓 | 25-023 |
| 17 | 松山遺跡 | 奈良・平安、中・近世の集落跡 | 25-010 |
| 18 | 天神廻遺跡 | 古墳中期の散在地 | 25-018 |
| 19 | 城山遺跡 | 中・近世の痕跡 | 25-019 |
| 20 | 川袋遺跡 | 奈良・平安の散在地 | 25-020 |
| 21 | 川南遺跡 | 旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡 | 30-007 |
| 22 | 江川東遺跡 | 奈良・平安、近世の集落跡 | 30-045 |
| 23 | 東久保遺跡 | 旧石器、縄文中期・近世の集落跡 | 30-009 |
| 24 | 亀久保堀跡遺跡 | 中世の堀跡 | 30-006 |

| No | 遺跡名 | 主な時代 | 遺跡番号 |
|----|---------|-------------------------------|--------|
| 25 | 東久保西遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-042 |
| 26 | 林道跡 | 近世の船跡・中世の墳墓 | 25-013 |
| 27 | 福岡新田遺跡 | 縄文時代の散布地、中・近世寺院 | 25-015 |
| 28 | 鷺森遺跡 | 縄文前期の集落跡 | 25-017 |
| 29 | 伊佐島遺跡 | 吉墳前期・平安の集落跡 | 25-021 |
| 30 | 東中学校西遺跡 | 縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-008 |
| 31 | 東久保南遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-032 |
| 32 | 西ノ原遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安・近世の集落跡 | 30-001 |
| 33 | 中沢前遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-044 |
| 34 | 神明後遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡 | 30-041 |
| 35 | 苗間東久保遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期 | 30-020 |
| 36 | 淨津寺跡遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡 | 30-022 |
| 37 | 小田久保遺跡 | 旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡 | 30-040 |
| 38 | 大井宿遺跡 | 近世～近代の宿場跡 | 30-010 |
| 39 | 大井戸遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡 | 30-037 |
| 40 | 本村遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡 | 30-034 |
| 41 | 西台遺跡 | 旧石器、縄文中期・奈良・平安、近世の集落跡 | 30-039 |
| 42 | 大井戸上遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡 | 30-014 |
| 43 | 東台遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡 | 30-024 |
| 44 | 大井宿木戸跡 | 近世～近代の宿場跡 | 30-048 |
| 45 | 石塔塼 | 中世の散在地 | 30-027 |



第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第2章 長宮遺跡第34地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に煙が残っている。

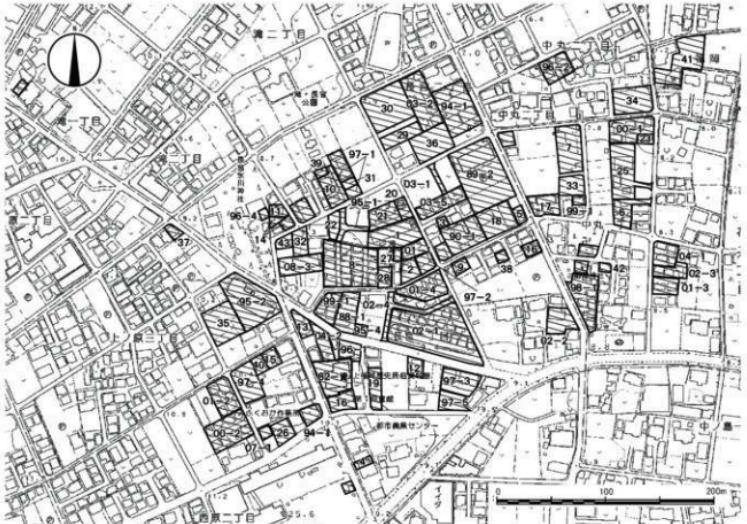
遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代・中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷跡と思われる

m遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年12月現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経緯と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年6月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年6月27日から7月16日まで行った。幅約1.5mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代早期の好みや前期の住居跡、土坑、ピット、近世以降の井戸や溝等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは、近



第3図 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第2表 長宮遺跡調査一覧表

| 地点 | 現 実 地 | 調査期間 () [試験調査] | 面積 (m ²) | 調査範囲 | 確認された遺物 | 所 取得品 |
|-----|------------------|---------------------------------|----------------------|------------|----------------------------------|--------------------|
| 1地 | 番地1-1-23 | (1977.10.3～20) | 1,000 | 備考欄 | 漢・土器、竹筒、瓦片 | [1966度量(築2年) 定量測定] |
| 2地 | 番地2-1-27 | (1978.4.25～5.15) | 225 | 定期宅地 | | [現1] |
| 3地 | 番地2-5-11 | (1978.7.24～30) | 111 | 定期宅地 | 土坑 | [現1] |
| 4地 | 番地1-1-14 | (1978.5.6～9) | 37 | | 柱脚跡、土質層、漆器、鉄製品 | [現1] |
| 5地 | 番地2-5-2 | (1979.1.16～20) | 110 | | 鍍金鉄製住居跡、鍍金土器片 | [現1](?) |
| 6地 | 中丸1-4-13 | (1990.4.21～30) | 515 | | 遺物なし、中世土器陶器 | [現1] |
| 7地 | 番地2-5-16 | (1990.5.1～5) | 865 | | 瓦、土器、瓦筒 | [現1] |
| 8地 | 番地2-1-10～13 | (1990.9.8～10.8) | 1,950 | 定期地帯 | 竹筒、鐵、土器、土筒、鍍金、陶器、瓦器、馬糞 | [現1] 資料集 |
| 9地 | 番地1-4-10 | (1990.9.21～30) | 200 | | | [現1] |
| 10地 | 番地2-3-4 | (1990.10.5～15) | 495 | | 漢・土器、鍍金鉄製火薬、石器、中世以降瓦器・陶器 | [現1](?) |
| 11地 | 番地2-2-10 | (1990.12.16～22) | 117 | | 漢・土器、土筒器、中世土器陶器 | [現1] |
| 12地 | 番地1-2-7 | (1991.5.26～30) | 160 | 個人所有 | 漢・中世瓦器、鍍金土器片 | [現1] |
| 13地 | 番地1-2-13 | (1991.6.3～11) | 251 | 個人所有 | 遺物なし、中世陶器 | [現1] |
| 14地 | 番地2-2-12 | | 1,000 | 歴史民家遺構 | | [現1] 資料 |
| 15地 | 番地2-2-18 | (1993.3.14～27) | 148 | 個人所有 | 漢・土器 | [現1] |
| 16地 | 番地2-5-5 | (1995.5.22～23) | 114 | | 土器 | [現1] |
| 17地 | 番地2-1-11 | (1998.8.16～18) | 450 | 定期地帯 | | [現1] 資料 |
| 18地 | 番地1-4-7 | (1998.6.5～17) | 173 | 個人所有 | 鍍金土器片 | [現1] |
| 19地 | 中丸1-3-11 | (1998.7.16～30) | 904 | | 鍍金鉄製住居跡市 | [現1] |
| 20地 | 番地1-3-8 | (1998.8.13～18) | 65 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 21地 | 番地1-3-9 | (1999.2.20～30) | 443 | 個人所有 | なし | [現1] |
| 22地 | 番地2-5-18 | (1999.11.1～24) | 1,775 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 23地 | 番地2-5-4 | (1999.12.17～30) | 919 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 24地 | 番地2-1-12 | (1999.12.25～1) | 324 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 25地 | 番地1-2-21 | (1999.12.17～19) | 467 | 定期地帯 | 中世瓦器1、中世瓦器2、漢・土器 | [現1] |
| 26地 | 番地2-4-20～25 | (1994.10.1～28) | 1,502 | 定期地帯 | 中世瓦器1、中世瓦器2、鍍金、土器、中世住居跡 | [現1] 資料 |
| 27地 | 西番地2-5-1 | (1994.12.29～2) | 314 | 定期地帯 | 中世瓦器1 | [現1] |
| 28地 | 番地2-1-22の一部 | (1995.4.10～5.9) | 170 | 個人所有 | 中世瓦器4 | [現1] |
| 29地 | 番地2-1-6385 | (1995.10.19～8.8) | 361 | 個人所有 | 中世瓦器1、青戸2 | [現1] |
| 30地 | 番地2-1-20.85 | (1995.9.29～29) | 421 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 31地 | 上(通1-1-6)4番 | (1995.10.4～12) | 1,525 | 定期地帯 | 漢・土器 | [現1] |
| 32地 | 番地2-1-40 | (1995.10.25～25) | 265 | 定期地帯 | 中世瓦器1、青戸4 | [現1] |
| 33地 | 番地2-1-13 | (1995.11.1～13) | 265 | 定期地帯 | 中世瓦器1、青戸2、鍍金、土器、瓦器、瓦筒 | [現1] |
| 34地 | 番地1-3-13 | (1995.12.1～13) | 150 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 35地 | 番地1-3-18 | (1996.1.12～30) | 343 | 定期地帯 | 中世瓦器 | [現1] |
| 36地 | 中丸2-2-9の3 | (1996.11.17) | 549 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 37地 | 番地1-2-4 | (1997.1.14～21) | 794 | 定期地帯 | 古墳～唐埴輪 | [現1] |
| 38地 | 番地2-2-4 | (1997.2.24) | 205 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 39地 | 番地2-3-3 | (1997.4.8～9) | 611 | 定期地帯 | 鍍金(頭部)1 | [現1] |
| 40地 | 番地2-1-40 | (1997.4.9～11) | 289 | 定期地帯 | 土器(10脚)半埋 | [現1] |
| 41地 | 番地2-2-26.37 | (1997.4.10～5) | 422 | 定期地帯 | 土器(10脚)半埋 | [現1] |
| 42地 | 番地2-1-18 | (1997.4.11～18) | 763 | 定期地帯 | 土器(6脚)1件破損 | [現1] |
| 43地 | 番地1-3-13 | (1998.11.26～27) | 1,014 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 44地 | 番地1-3-12 | (1999.1.1～9) | 895 | 個人所有 | 鍍金(頭部)2件破損 | [現1] |
| 45地 | 中丸1-4-7 | (2000.7.4～11) | 932 | 定期地帯(土地分譲) | 鍍金前頭(頭山)1件破損少、土器13 | [現1] |
| 46地 | 西番地2-4-8.10 | (2000.7.17～24) | 1,007 | 定期地帯(土地分譲) | なし | [現1] |
| 47地 | 番地2-1-17 | (2000.8.21～23) | 697 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 48地 | 番地1-3-34AA | (2001.1.17～23) | 1,119 | 定期地帯(土地分譲) | 近世以降土坑1 | [現1] |
| 49地 | 中丸1-4-7 | (2001.1.18～26) | 224 | 定期地帯 | 土坑(1脚)発見早稟塗1、頭塗4、正世山塗1 | [現1] |
| 50地 | 番地2-1-3 | (2001.2.1～24) | 224 | 定期地帯 | 土器(10脚)半埋 | [現1] |
| 51地 | 番地2-4-7 | (2001.2.1～28) | 834 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 52地 | 番地1-1-3 | (2001.3.7～24) | 513 | 定期地帯 | 定期社遺構1、鍍金鉄製土塗1 | [現1] |
| 53地 | 番地2-8-6 | (2001.6.1～6) | 130 | 個人所有 | なし | [現1] 資料 |
| 54地 | 番地1-3-2～6 | (2002.6.5～11) | 3,359 | 定期地帯(土地分譲) | 定期社2(土塗2) | [現1] |
| 55地 | 番地1-4-3 | (2002.6.20～27) | 575 | 定期地帯 | 定期社2 | [現1] |
| 56地 | 番地2-1-17 | (2002.8.3～11) | 622 | 定期地帯(土地分譲) | 定期社遺構1 | [現1] |
| 57地 | 番地1-3-31 | (2002.9.20～25) | 367 | 定期地帯(土地分譲) | 土器(10脚)半埋 | [現1] |
| 58地 | 番地2-1-3 | (2002.10.1～21) | 224 | 定期地帯 | 土器(10脚)半埋 | [現1] |
| 59地 | 番地2-5-6 | (2003.10.1～12) | 827 | 定期地帯 | 定期社2 | [現1] 資料 |
| 60地 | 番地2-5-30.33 | (2003.10.1～16) | 191 | 定期地帯 | 定期社1(土塗1) | [現1] |
| 61地 | 番地2-4-7 | (2003.12.6～18) | 1,123 | 定期地帯 | 定期社3 | [現1] |
| 62地 | 番地1-1-11 | (2004.1.12～8) | 489 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 63地 | 番地1-2-15 | (2004.2.7～9) | 466 | 定期地帯 | なし | [現1] |
| 64地 | 番地1-4-8 | (2004.7.18～18) | 1,191 | 個人所有 | 土器3、鍍金土器・石器他 | [現1] |
| 65地 | 西番地2-5-20～26 | (2005.7.22) | 594 | 個人所有 | 鍍金土器 | [現1] |
| 66地 | 番地2-1-4 | (2005.7.30～31) | 175 | 個人所有 | なし | [現1] |
| 67地 | 番地2-1-8 | (2005.8.31～9.6) | 183 | 個人所有 | 中世瓦器1、土坑1、瓦筒13個、鍍金土器・石器、中世瓦器 | [現1] |
| 68地 | 西番地2-5-31 | (2005.10.15) | 120 | 個人所有 | なし | [現1] |
| 69地 | 番地2-4-6の一部 | (2007.11.20～12.3) 124～5 | 612 | 定期地帯 | 土器1、井口2、罐1、鍍金1、ビト5、ビト10、鍍金土器、牛糞1 | [現1] |
| 70地 | 番地2-4-6 | (2009.6.28～11.2) 114～128 | 1,361 | 個人所有 | 中世瓦器1、瓦筒1、瓦筒2、鍍金土器・石器他 | [現1] 7.8 |
| 71地 | 番地2-3-22 | (2012.2.10) | 1,305 | 定期地帯 | 定期社1 | [現1] |
| 72地 | 番地2-1-16 | (2010.6.15～25) | 271 | 定期地帯 | 中世瓦器20、ビト42、鍍金1、鍍金土器、中世瓦器 | [現1] 7.8 |
| 73地 | 中丸1-3-2 | (2010.6.15～6.31) | 534 | 定期地帯 | 瓦筒1 | [現1] |
| 74地 | 中丸2-2-24 | (2010.6.27～7.16) 2011.1.12～12.1 | 914 | 定期地帯 | 鍍金時代早朝小刀、柄頭(頭山)1件破損1、近世瓦、鍍金土器 | [現1] 11 |
| 75地 | 上(通1-1-4) | (2010.9.19～27) | 1,157 | 定期地帯 | 鍍金時代中期土塗1 | [現1] |
| 76地 | 番地2-4-3 | (2011.10.4～17) 10.21～11.34 | 911 | 個人所有 | 中世瓦器15、土坑5、瓦筒15、ビト5多量、鍍金他 | [現1] 11 |
| 77地 | 番地2-6-6 | (2011.11.8) | 105 | 個人所有 | なし | [現1] |
| 78地 | 番地1-4-27 | (2011.11.24～25) | 101 | 個人所有 | なし | [現1] |
| 79地 | 番地2-3-22 | (2012.2.10) | 1,305 | 定期地帯 | 瓦筒1 | [現1] |
| 80地 | 番地2-1-26～28 | (2012.4.16) | 201 | 個人所有 | 定期社 | [現1] |
| 81地 | 福岡市東区931-1～3、909 | (2012.4.17～5.31) 6.11～7.23 | 1,152 | 定期地帯 | 中世瓦器1、鍍金土器・石器他 | [現1] 12 |
| 82地 | 福岡市東区931-1～3、909 | (2012.4.17～5.31) 6.11～7.23 | 1,152 | 定期地帯 | 中世瓦器1、鍍金土器・石器他 | [現1] 12 |

※用：上原市教育委員会公認文化財の調査報告書、土器類：上原市立高砂考古研究会報告書、瓦筒：上原市立高砂考古研究会報告書、内市：ふくみ村立ふくみ村立高砂考古研究会報告書

世以降の時期で約80cm、縄文時代では約120cmである。しかし造成のため表土層の削平が約60cm行われ、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。ただし南東と北西隅の二区画と通路（駐車場部分）については、雨水等の浸透トレーンの設計変更などにより工事立会とし、本調査の対象区域から除外した。

本調査は遺跡の確認された区画を、2011年11月2日から12月1日まで、重機により除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴7基、前期住居跡1軒、落とし穴1基、土坑11基、ピット25基、近世以降の井戸9基、溝3本などある。遺物は縄文時代早期から前期の土器、石器、近世以降の陶磁器などである。

III 遺構と遺物

（1）J9号住居跡

【位置】長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、北側に位置する。今回の調査区では中央部の南端に位置する。

【形状】住居跡の北西隅の約1/4を検出したため、全体の形状は不明である。

検出部の平面形態は隅丸方形を呈し、長軸（3.95m

m、短軸（3.3）m、確認面からの深さ0.92mである。住居跡の床面直上には炭化材・炭化物層が広範囲に広がり、上層には焼土層が堆積する。消失窓穴建物の可能性も考えられる。

【炉】住居の北側に2ヶ所の炉が位置する。平面形態は不整橈円形で一部が重複している。北側の炉は南北（52）cm、東西68cm、深さ8.6cmである。南側の炉は南北70cm、東西51cm、深さ9.6cmである。

【床・壁】床面は平坦で上屋消失時に被熱した焼土面が広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【ピット】主柱穴はP11・13・14・16・17である。壁際の壁柱穴は23基検出した。P12・15・24・25は主柱穴か壁柱穴か不明である。P1・26、P5・30、P10・22、P11・16は住居の拡張や建て替えに伴う新旧の柱穴とみられる。

【遺物出土状況】出土遺物は床面直上の炭化物層と焼土層のさらに上層の覆土層から集中して出土する。

【時期】時期は出土土器から関山I期である。

【出土遺物】（第7図・8図）

1は、二股波頭部の土器。風化が激しいが、口縁部文様は、鋸歯状に平行に沈線を描き、沈線間を梯子状に埋めている。鋸歯状文間は、沈線で渦巻きと半円を



第4図 長宮遺跡第34地点遺構配置図（1/300）

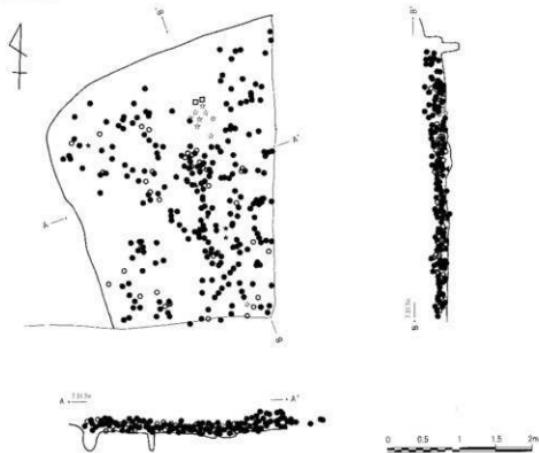
加飾。口縁部文様帯と胴部文様帯の境には、梯子状沈線で区画している。胴部文様は末端還付を多段に施す。2は、1/4程現存。波状口縁の土器。波頂部破片とそれ以下の破片は接合しないので、復元図に示した器形は実際は口縁部文様帯が短くなるかもしれない。口唇部には三角形状の粘土の貼付、波頂部に刻みを入れ

れた楕円形の貼付文を付ける。口縁部文様は幅7~8mmの半截竹箇による平行沈線で、始点や交叉点に円形貼付文が付く。胴部繩文はLRの末端還付（以下ループ文という）文を4段施し（多段ループ文）、その下にはループの0段3条のLRとRLの斜繩文で羽状繩文帯、その下にはループの0段3条のLRとRLを多

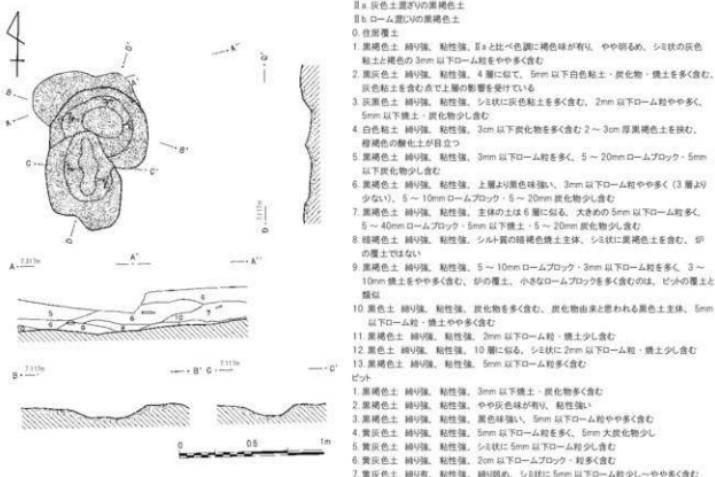


第5図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡(1/60)

J9号住居跡遺物出土状況図



炉



第6図 長宮遺跡第34地点 J9号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)

J9号住居跡

- J a ローム主体の盛土
- J b 黒色土
- J c 灰色土混ざりの黒褐色土
- J d ローム混じりの黒褐色土
- 住居跡土
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。J a と比べ色調に褐色味が有り、やや明るめ。シミ状の灰色粘土色地の3mm以下ローム粒をや多く含む。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。4層にして、5mm以下白色粘土・炭化物、灰土を多く含む。灰色粘土を含むので上層の影響を受けている。
- 灰褐色土 細粒強、粘性強。シミ状に灰色粘土を多く含む。2mm以下ローム粒やや多く、5mm以下白色粘土・灰土を少含む。
- 白色粘土 細粒強、粘性強。3cm以下炭化物を多く含む2~3cm厚灰褐色土を挟む。褐色粘土の層が立つ。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。3mm以下ローム粒を多く、5~20mmロームブロック・5mm以下白色粘土を含む。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。上層より黑色味強く、3mm以下ローム粒やや多く(3層より少々)、5~10mmロームブロック・5~20mm灰褐色土を少含む。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。全体の土は5層に見える。大きめの5mm以下ローム粒多く、5~10mmロームブロック・5mm以下白色粘土を含む。
- 灰褐色土 細粒強、粘性強、シルバーカーの暗褐色硬土主体、シミ状に黒褐色土を含む。炉の覆土ではない。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強、炭化物を多く含む。炭化物由来と思われる黑色土主体、5mm以下ローム粒・灰土をや多く含む。
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。2mm以下ローム粒・鐵土少し・含む
- 黑色土 細粒強、粘性強。10層にわたる。シミ状に2mm以下ローム粒・鐵土少し・含む
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。5mm以下ローム粒多く含む
- 黑色土 細粒強、粘性強。シミ状に5mm以下ローム粒少し・含む
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。2cm以下ロームブロック・粘多し・含む
- 黒褐色土 細粒強、粘性強。シミ状に5mm以下ローム粒少しやや多く含む

段化して施す。上からほぼ等間隔で、多段ループ文帯+羽状繩文帯+多段ループ文帯を構成している。

3は、1/4現存。4単位波状で、頂点直下に梢円形の貼付文が付く。口唇部には波頂部両脇に3個の粘土粒を加え、口縁部文様は幅6mmの半截竹管による平行沈線で鋸歯文様がつけられ、その直下に5~6段の多段ループ文と、先端ループにしたLRとRLの斜繩文による羽状繩文帯、幅6mmのコンパス文、上段と対になるようにRLとLRの斜繩文による羽状繩文帯、上段と連続的に対応した先端ループのRLとLRの羽状繩文帯が施される。およそループ文で区画された等間隔の文様帯からなる。

4は、約1/4現存。平縁の土器。口唇部には4個の小突起、その直下には円形の貼付。上から順に、先端をループのRLとLRの斜繩文による羽状繩文帯、4から5段の多段ループ文帯、先端ループのRLとLRの斜繩文による羽状繩文帯、8から9段の多段ループ文帯で構成される。上半は区画された各文様帯は等間隔で、図示した最下段の文様帯が他の文様帯の倍の間隔である。

5は、1/5現存。口縁部文様帯には、幅6mmの肉厚の半截竹管による平行線で集合沈線の鋸歯文を構成し円形の貼付文を付ける。その下、繩文帯はいずれも端末ループを上にして斜繩文で羽状繩文帯で構成する。上下の羽状繩文帯が対応する菱形繩文帯になるのは、図示した最下段のみである。菱形繩文になるのを避けているようにも思われる。3・4もそうなのだが、繩文帯がループ文やコンパス文で区画され、または多段ループ文帯によって、菱形繩文となるのを回避しているのではないか。

6は幅4mmの半截竹管で平行線を引き、梯子状に沈線を描き、その間に鋸へらで細かい刻み状に加えたもの。7も円形添付文を加え、半截竹管で平行線の文様を加えたもの。8は、比較的大きい円形の添付文、9は口縁部をループ文を施し、円形の添付文を付けたもの。10は半截竹管により鋸歯文に鋸歯状の起点に先端の尖る円形貼付。正反の合の繩文を施す。11は半截竹管によるかまぼこ状の爪形で鋸歯文を描いたもの。

12は、半截竹管の工具による集合沈線で鋸歯文を描き、鋸歯文の間を半円形の文様を交互に充填したもの。胸部文様帯の境には波状の文様。13は半截竹管による集合沈線を鋸歯文とし、その間を半截竹管を器

面に垂直に押したもの。14は、端末ループを上にして0段3条のLRとRLで羽状繩文。直下に多段ループ文を施す。補修孔が器面よりあけられている。

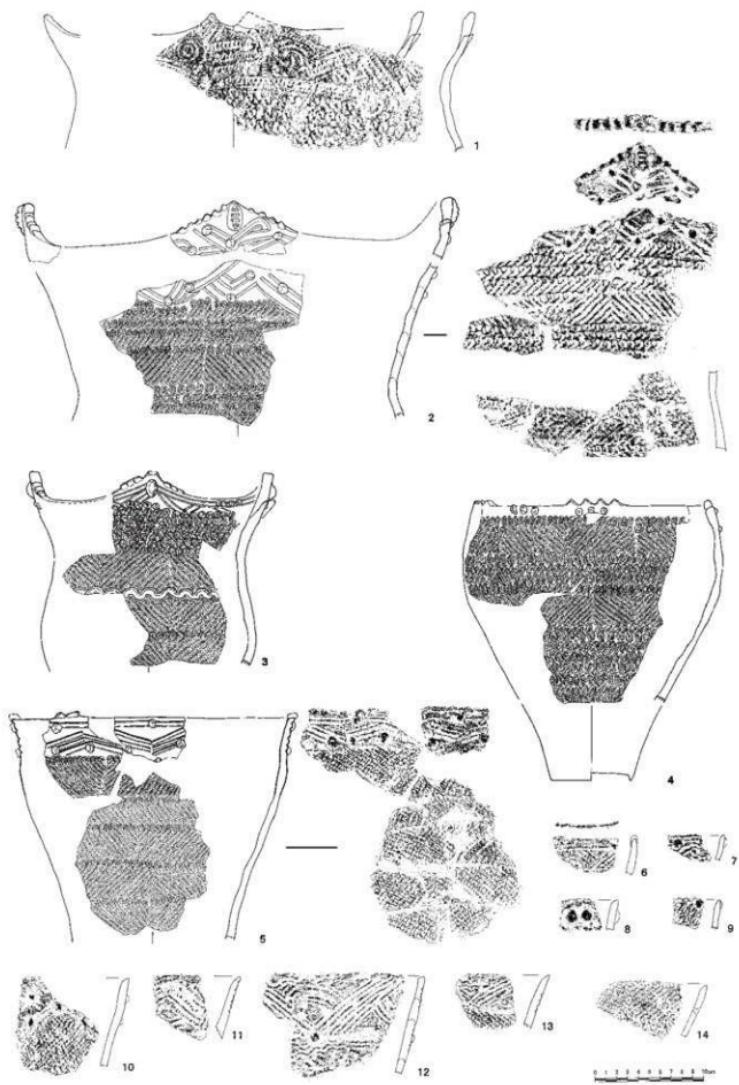
15は、胸部下半の破片で風化が激しい。胴下半部に端末ループを上にして1段ずつ施文して7~8段の多段化したものである。コンバス文を加えさらにもう3条のRLの端末ループを多段化したもの。その下にはコンバス文がある。16は15の同一破片か。図示した左側に補修孔がある。コンバス文の間に多段化したループ文で最下段にRLとLRの結節第1種の羽状繩文が施される。17は、器厚が5mm程度で薄い。4mm程度の白色の小砂利（石英）を含み、白色の砂を多量に含む。図示上半部は、細いRLとLRの継回転による羽状繩文が施され、下半部には太いRLの端末ループの多段化がうかがわれる。

18は、LRとRLによる結節第1種の羽状繩文。19は、Lの無節の斜繩文で半截竹管によるコンバス文を施す。20~23は0段3条で菱形繩文になるもので、いずれも0段3条のうち1本は細い。同一個体ではない。20・21は第1種結束、くびれ部に端末ループ文を施す。23には結束部の反対の原体端末を1mmの紐で縛った回転痕跡がある。

24と25は、正反の合による異条件繩文。26と27は0段による組組。28は、土器破片を利用した円形土製品で、文様はみられない。

29~33は底部の破片。29は、0段3条のRLと0段2条LRを図示のように交互に羽状繩文としたもので、端末ループ文で区画している。30は風化が著しいがループ文を多段化して底部端まで施したもの。31は、正反の合の縄を菱形文として底部端まで施したもの。32は0段3条のLRとRLで羽状繩文。33は、0段3条の原体で羽状繩文を造るが、細い紐で結束部が横位に付いているものと思われる。胎土には白色の砂が混じり内面と底部底は良好に研磨されている。34~38はループ文やコンバス文がみられないもの。34は、無節RIと単節RLによる菱形繩文で、RIは継回転、RLは横回転により菱形繩文を構成する。補修孔がつく。35は単節RLと無節Lrによる結節第1種による羽状繩文である。36・37は単節RLとRLによる羽状繩文で36は接合箇所が下半に上半の粘土が重なり段をなす。38には胎土に白色の砂が多量に混じる。

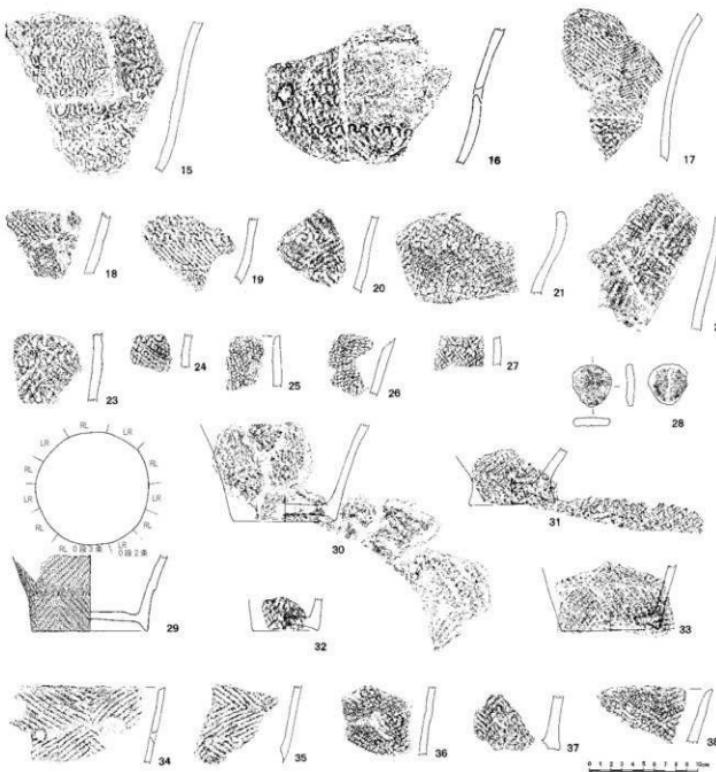
J9号住居跡出土土器は、全て胎土に纖維を含む。



第7図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物① (1/4)

第3表 長宮遺跡第34地点 J9号住居跡ピット一覧表（単位 cm）

| 番 | 平面形態 | 確定直径 | 底・側 | 深さ | 備考 | 番 | 平面形態 | 確定直径 | 底・側 | 深さ | 備考 |
|-----|-------|---------|-------|------|----|-----|------|---------|------|------|----|
| P1 | 楕円形 | 26×15 | 4×3 | 36.4 | | P11 | 楕円形 | 25×10 | 5×4 | 40.0 | |
| P2 | 円形 | 23×22 | 7×6 | 50.5 | | P12 | 円形 | 12×11 | 5×3 | 53.1 | |
| P3 | 円形 | 18×15 | 5×4 | 30.0 | | P13 | 円形 | 15×10 | 5×3 | 20.0 | |
| P4 | 楕円形 | 26×24 | 11×4 | 66.4 | | P14 | 円形 | 18×(8) | - | 40.0 | |
| P5 | 不規 | 30×21 | 7×6 | 34.6 | | P15 | 不規 | (16)×13 | 3×3 | 30.0 | |
| P6 | 不規 | 25×21 | 6×3 | 41.1 | | P16 | 円形 | 27×24 | 14×9 | 38.5 | |
| P7 | 不規 | (23)×21 | 6×3 | 41.1 | | P17 | 円形 | 25×24 | 14×9 | 35.0 | |
| P8 | 楕円形 | 26×25 | 5×3 | 61.0 | | P18 | 円形 | 12×11 | 3×3 | 24.0 | |
| P9 | △×△の形 | 25×22 | 12×9 | 75.0 | | P19 | 円形 | 13×10 | 3×2 | 26.0 | |
| P10 | 円形 | 25×20 | 6×3 | 34.4 | | P20 | 円形 | 25×(12) | 9×7 | 35.4 | |
| P11 | 円形 | 26×20 | 4×3 | 70.8 | | P21 | 円形 | 16×11 | 4×2 | 17.8 | |
| P12 | 円形 | 26×24 | 16×14 | 33.9 | | P22 | 円形 | 14×12 | 6×2 | 43.1 | |
| P13 | 不規 | 17×15 | 6×3 | 41.1 | | P23 | 円形 | 24×14 | 9×6 | 21.1 | |
| P14 | 円形 | 16×14 | 5×6 | 63.0 | | P24 | 円形 | 24×16 | 6×5 | 20.0 | |
| P15 | 不規 | 18×(10) | 6×3 | 26.0 | | P25 | 円形 | (16)×15 | 5×4 | 24.0 | |
| P16 | 円形 | 16×15 | 8×8 | 58.3 | | | | | | | |



第8図 長宮遺跡第34地点 J9号住居跡出土遺物② (1/4)

遺物の時期については 1 ~ 33 は関山式 I、34 ~ 38

は関山式から黒浜式のものとみられる。(笹森健一)

(2) 炉穴

炉穴は、C 区を除く各調査区とトレンド 3 から 15 基検出した。特に B・D・E 区に集中する。燃焼部の焼土層の他に、通称「足場」呼ばれる礎等のあるものや、炉穴 12 では周囲に小ピットを巡らせる。詳細は第 4 表のとおりである。

(3) 落とし穴

落とし穴は E 区で検出した。炉穴 11 と重複し、落とし穴が古い。平面形態は長楕円形を呈し、確認面径 250 × 50 cm、底径 266 × 22 cm、深さ 89 cm である。

(4) 井戸

井戸は 9 基検出した。平面形態はほぼ円形で素掘りである。覆土層の観察から中近世以降のものとみられる。詳細は第 5 表のとおりである。

(5) 土坑

土坑は 11 基検出した。土坑 1・2 は炉穴 14・15 に、土坑 3・7 は井戸 8・9 に変更し、土坑 4・11 は欠番である。詳細は、第 5 表のとおりである。

(6) ピット

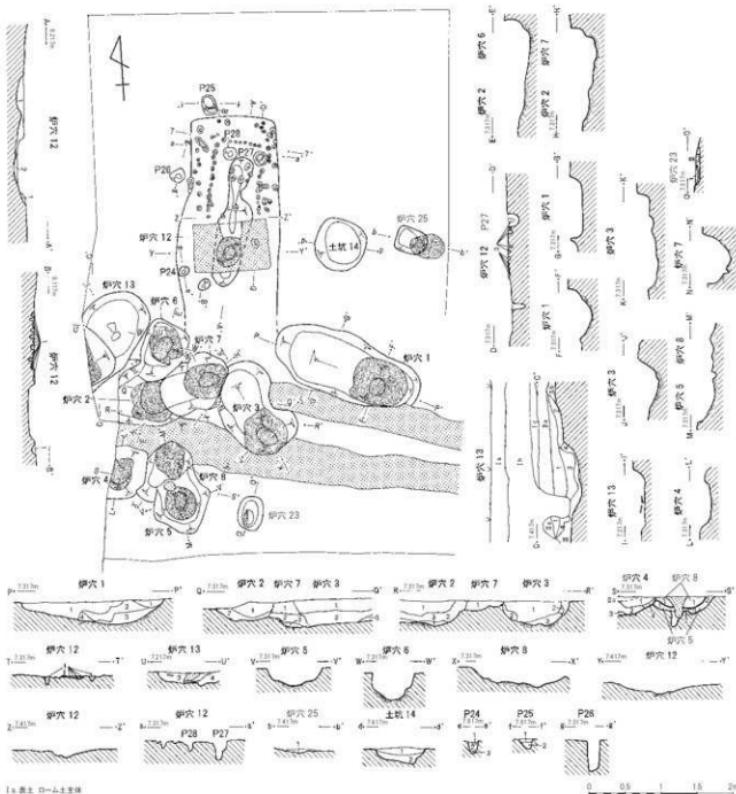
ピットは 31 基検出した。ピット 20 は土坑 15 に、ピット 22 は土坑 16、ピット 17 は土坑 23 に変更した。時期については縄文時代以降とみられるが不明である。詳細は第 5 表のとおりである。

第 4 表 長宮遺跡第 34 地点炉穴一覧表(単位 cm)

| No. | 平面形態 | 横・奥・幅 | 高さ | 深さ | 横・奥・幅 | 高さ | 横・奥・幅 |
|-------|------|--------------|-------------|---------|-----------|---------|---------|
| 炉穴 1 | 楕円形 | 210 × 85 | 24 × 18 | 34.5 | 77 × 61 | — | — |
| 炉穴 2 | 不規則 | 75 × 71 | (45) × 28 | 38.9 | 58 × (54) | — | — |
| 炉穴 3 | 六角形 | 134 × 80 | 31 × 25 | 33.2 | 59 × 59 | — | — |
| 炉穴 4 | 不規則 | 77 × (47) | 37 × (26) | 22.2 | 45 × 26 | — | — |
| 炉穴 5 | 楕円形 | 91 × 70 | 24 × 18 | 25.8 | 48 × 35 | — | — |
| 炉穴 6 | 楕円形 | 97 × 55 | 26 × 22 | 21.5 | 58 × 43 | — | — |
| 炉穴 7 | 六角形 | 109 × 72 | 29 × 18 | 35.0 | 60 × 49 | — | — |
| 炉穴 8 | 不規則 | 90 × (47) | 52 × 40 | 23.3 | 53 × 40 | — | — |
| 炉穴 9 | 楕円形 | 91 × 66 | 16 × 15 | 20.5 | 34 × 27 | — | — |
| 炉穴 10 | 不規則 | (96) × 68 | (77) × 55 | 18.7 | 43 × 18 | — | — |
| 炉穴 11 | 楕円形 | 135 × 77 | 30 × 31 | 27.4 | 42 × 35 | — | — |
| 炉穴 12 | 六角形 | 116 × 74 | 18 × 17 | 24.3 | 41 × 22 | — | — |
| 炉穴 13 | 不規則 | (116) × 85 | 68 × (62) | 37.5 | 58 × 15 | — | — |
| 炉穴 14 | 楕円形 | 173 × 88 | 117 × 42 | 37.3 | 39 × 35 | — | — |
| 炉穴 15 | 不規則 | (180) × (80) | (70) × 49 | 39.5 | 41 × 30 | 田代坂 1 | 田代坂 1 |
| 炉穴 16 | 不規則 | 68 × 42 | 33 × 23 | 9.1 | — | 前堀 1.1 | 前堀 1.1 |
| 炉穴 17 | 楕円形 | 98 × 54 | 40 × 28 | 13 | — | 前堀 1.2 | 前堀 1.2 |
| 炉穴 18 | 楕円形 | 65 × 43 | 6.9 | 29 × 20 | 田代坂 1.2 | 田代坂 1.2 | 田代坂 1.2 |
| 炉穴 19 | 楕円形 | 105 × 83 | 16 × 15 | 24.5 | 45 × 15 | 前堀 4 | 前堀 4 |
| 炉穴 20 | 不規則 | (102) × 69 | (95) × (87) | 19.1 | 63 × 26 | 前堀 5.5 | 前堀 5.5 |
| 炉穴 21 | 不規則 | (103) × (54) | (54) × (35) | 20 | 33 × 25 | 前堀 4.6 | 前堀 4.6 |
| 炉穴 22 | 楕円形 | 91 × 57 | 65 × 46 | 20.4 | 26 × 15 | 前堀 1.7 | 前堀 1.7 |
| 炉穴 23 | 楕円形 | 67 × 34 | 20 × 15 | 7.5 | 16 × (7) | 前堀 1.8 | 前堀 1.8 |
| 炉穴 24 | 円形 | 40 × 38 | 15 × 12 | 5.4 | 12 × 9 | 前堀 1.9 | 前堀 1.9 |
| 炉穴 25 | 不規則 | 68 × 35 | 25 × 23 | 4.6 | 49 × 34 | 前堀 1.10 | 前堀 1.10 |

第 5 表 長宮遺跡第 34 地点井戸・土坑・ピット一覧表(単位 cm)

| No. | 平面形態 | 横・奥・幅 | 高さ | 深さ | 横・奥・幅 | 高さ | 横・奥・幅 |
|-------|------|--------------|-------------|-------|--------------|----|-------|
| 井戸 1 | 円形 | 105 × 103 | 62 × 55 | 116.8 | — | — | — |
| 井戸 2 | 円形 | 92 × 78 | 53 × 50 | 109.1 | — | — | — |
| 井戸 3 | 円形 | 109 × 104 | 62 × 78 | 121.2 | — | — | — |
| 井戸 4 | 円形 | 82 × 73 | 52 × 52 | 90.8 | — | — | — |
| 井戸 5 | 円形 | 85 × 75 | 21 × 20 | 139.2 | — | — | — |
| 井戸 6 | 円形 | 75 × (48) | 23 × (40) | 67.0 | — | — | — |
| 井戸 7 | 円形 | 74 × 65 | 44 × 35 | 67.0 | — | — | — |
| 井戸 8 | 不規則 | 101 × (88) | 101 × (22) | 91.1 | — | — | — |
| 井戸 9 | 不規則 | 77 × (186) | 73 × (35) | 97.8 | — | — | — |
| 土坑 1 | — | — | — | — | SPW 14.1 に変更 | — | — |
| 土坑 2 | — | — | — | — | SPW 15.1 に変更 | — | — |
| 土坑 3 | — | — | — | — | 井戸 10 に変更 | — | — |
| 土坑 4 | — | — | — | — | — | — | — |
| 土坑 5 | 不規則 | 65 × (47) | 41 × (40) | 10.5 | — | — | — |
| 土坑 6 | 円形 | 93 × 84 | 72 × 69 | 37.5 | — | — | — |
| 土坑 7 | — | — | — | — | 井戸 9 に変更 | — | — |
| 土坑 8 | 不規則 | 85 × (25) | 23 × 9 | 94.6 | — | — | — |
| 土坑 9 | 不規則 | (87) × (83) | (83) × (55) | 43.6 | — | — | — |
| 土坑 10 | 不規則 | (201) × (84) | 62 × (35) | 29.3 | — | — | — |
| 土坑 11 | — | — | — | — | 井戸 15 に変更 | — | — |
| 土坑 12 | 円形 | 88 × 70 | 66 × 42 | 10.9 | — | — | — |
| 土坑 13 | 不規則 | 97 × 90 | 75 × 52 | 69.0 | — | — | — |
| 土坑 14 | 円形 | 72 × 71 | 55 × 48 | 10.4 | — | — | — |
| 土坑 15 | 円形 | 71 × 68 | 49 × 47 | 49.7 | — | — | — |
| 土坑 16 | 円形 | 60 × 55 | 44 × 43 | 74.0 | — | — | — |
| 土坑 17 | 円形 | 69 × 63 | 48 × 42 | 60.2 | — | — | — |
| P1 | 不規則 | 28 × (17) | 12 × (10) | 30.9 | — | — | — |
| P2 | 不規則 | 29 × 25 | 18 × 16 | 28.2 | — | — | — |
| P3 | 不規則 | 48 × (96) | 35 × (32) | 33.4 | — | — | — |
| P4 | 円形 | 31 × 27 | 20 × 12 | 35.4 | — | — | — |
| P5 | 円形 | 20 × 25 | 12 × 12 | 24.5 | — | — | — |
| P6 | 円形 | 27 × 25 | 10 × 10 | 36.8 | — | — | — |
| P7 | 円形 | 17 × 25 | 10 × 10 | 24.0 | — | — | — |
| P8 | 円形 | 26 × (12) | 14 × (8) | 22.0 | — | — | — |
| P9 | 円形 | 30 × 34 | 18 × 15 | 23.7 | — | — | — |
| P10 | 円形 | 29 × 24 | 14 × 13 | 26.0 | — | — | — |
| P11 | 円形 | 20 × 19 | 8 × 6 | 41.7 | — | — | — |
| P12 | 円形 | 33 × 28 | 18 × 14 | 34.3 | — | — | — |
| P13 | 円形 | 29 × 28 | 16 × 13 | 38.0 | — | — | — |
| P14 | 円形 | 29 × 32 | 22 × 22 | 31.0 | — | — | — |
| P15 | 円形 | 29 × (20) | 20 × (9) | 20.0 | — | — | — |
| P16 | 円形 | 25 × (12) | 15 × (5) | 37.7 | — | — | — |
| P17 | 円形 | 27 × (19) | 15 × (10) | 36.2 | — | — | — |
| P18 | 円形 | 43 × 28 | 7 × 7 | 15.0 | — | — | — |
| P19 | 円形 | 37 × 31 | 11 × 5 | 59.0 | — | — | — |
| P20 | 円形 | (45) × 42 | 25 × 21 | 29.3 | — | — | — |
| P21 | 円形 | 29 × 28 | 16 × 13 | 38.0 | 土坑 16 に変更 | — | — |
| P22 | 円形 | 29 × 28 | 16 × 13 | 38.0 | 土坑 17 に変更 | — | — |
| P23 | 円形 | 10 × 11 | 7 × 6 | 20.2 | — | — | — |
| P24 | 円形 | 25 × 19 | 14 × 5 | 12.0 | — | — | — |
| P25 | 円形 | 21 × 17 | 7 × 7 | 42.0 | — | — | — |
| P26 | 円形 | 17 × 19 | 8 × 5 | 26.0 | — | — | — |
| P27 | 円形 | 17 × 16 | 8 × 6 | 16.0 | — | — | — |



1. 土坑・ローム土主体

1. 黒褐色土・砂質土、中等黃褐色土や赤色土、2mm粒少く、粒径にロームを少し含む
2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm粒少すするからや少く

3. 黄褐色土・砂質土、和性有、明黄色土のローム土と黒褐色土とが混じる

伊穴 1

1. 粘土少い土で伊穴 4 の上に似る

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、シラカシシルト質の5mm以下地土、土質やや多く含む

3. 黑褐色土・砂質土、和性有、シラカシ土質を主とし、5mm以上地土を多く含む

4. 黑褐色土・砂質土、和性有、明黄色土の5mm層を含む、5mm以下地土やや多く含む

伊穴 2

1. 黑褐色土・砂質土、下限地土やや多く、下限より褐色地土あり、伊穴 2 は5mm以下地土少く含む

2. 黑褐色土・砂質土、5mm以下地土、3mm以下地土やや多く含む

3. 黑褐色土・砂質土、5mm以下地土多く含む、黑褐色土

4. 黑褐色土・砂質土、和性有、シラカシ 1m 以下明黄色土のロームブロック多く含む

伊穴 3

1. 伊穴 2 の 2 倍で膨らむ、1~3cmロームブロック少く含む

2. 伊穴 2 の 2 倍で膨らむ

3. 黑褐色土・砂質土、和性有、黑褐色土主体 1m 以下地土多く含む、シラカシ質の地土を多く含む

伊穴 4

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、シラカシに明黄色地土ロームやや多く、3mm以下ローム質多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、3mm以下地土やや多く含む

伊穴 5

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下黑褐色ローム質多く、3mm以下地土少しく含む

伊穴 12

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下ローム質少く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、黒褐色地土多く含む

3. 黑褐色土・砂質土、和性有、2mm以下ローム質少く含む

4. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 13

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、黒褐色地土多く含む

3. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 6

1. 黑褐色土・砂質土、和性有

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

3. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 7

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 8

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 14

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、2mm以下地土やや多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

伊穴 23

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

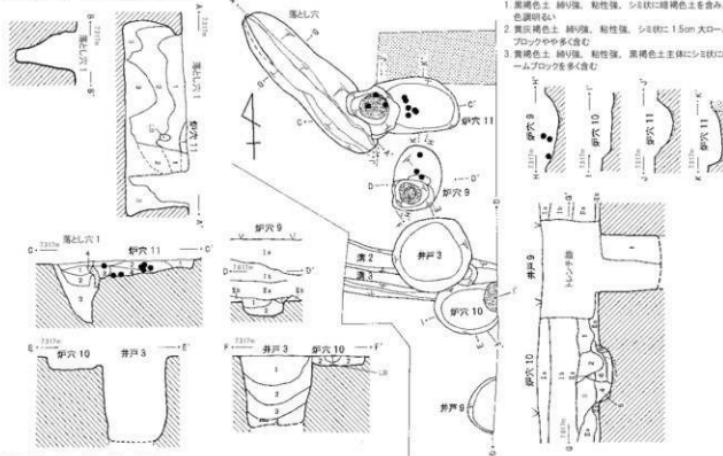
伊穴 25

1. 黑褐色土・砂質土、和性有、5mm以下地土やや多く含む

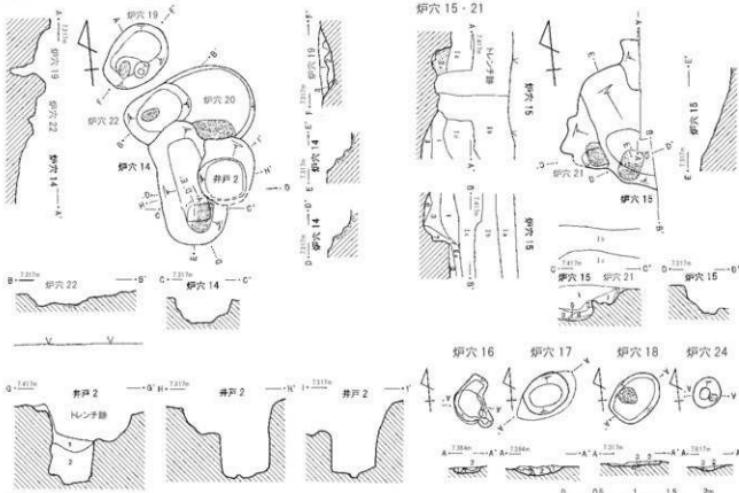
2. 黑褐色土・砂質土、和性有、1mm以下地土やや多く含む

第9図 長宮遺跡第34地点炉穴①・土坑① (1/60)

炉穴 9~11、井戸 3・9、落とし穴



炉穴 14~19、20~22、井戸 2



井戸 2

1. 黄褐色土 粘少強、粘性強。ローム土主体。

2. 黄褐色土 粘少強、5mm以下ローム粒少し含む、粘性強。やや灰色味が有る点で比較的新しい様相。

井戸 3

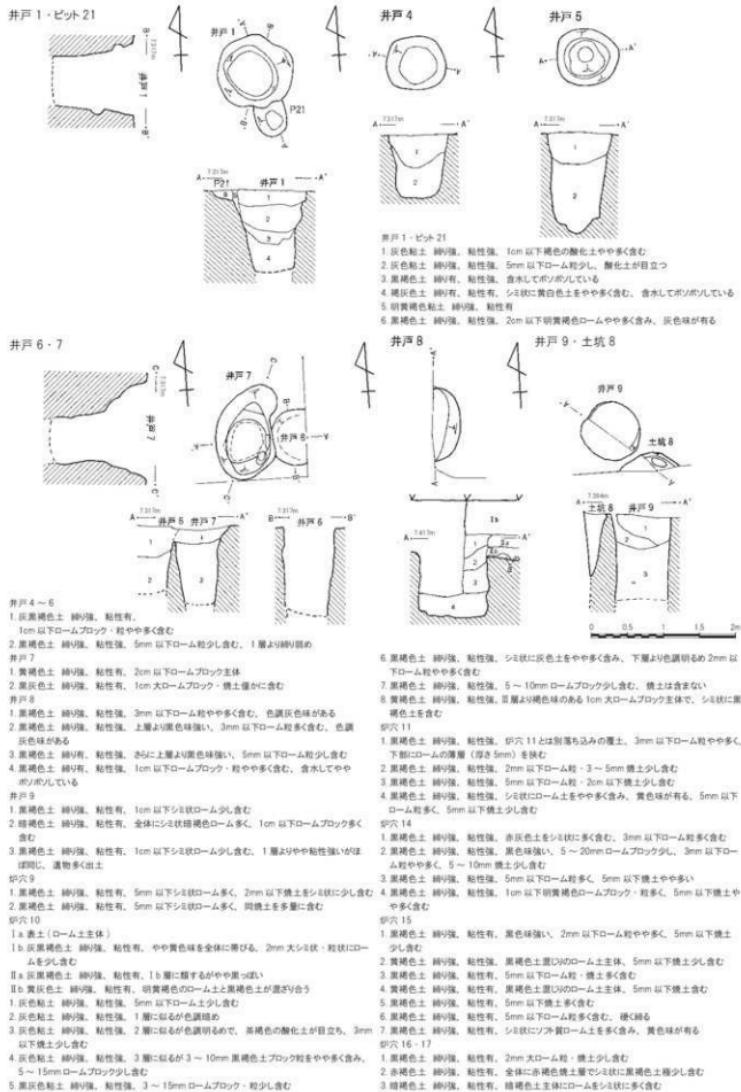
1. 黄褐色土 粘少強、粘性有。灰色味の有る黒色土に5mm以下ローム粒多く含む。シミ状酸化鉄多く含む

2. 黄褐色土 粘少強、粘性有。灰色味の有る黒色土に5mm以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1層より多く含む)

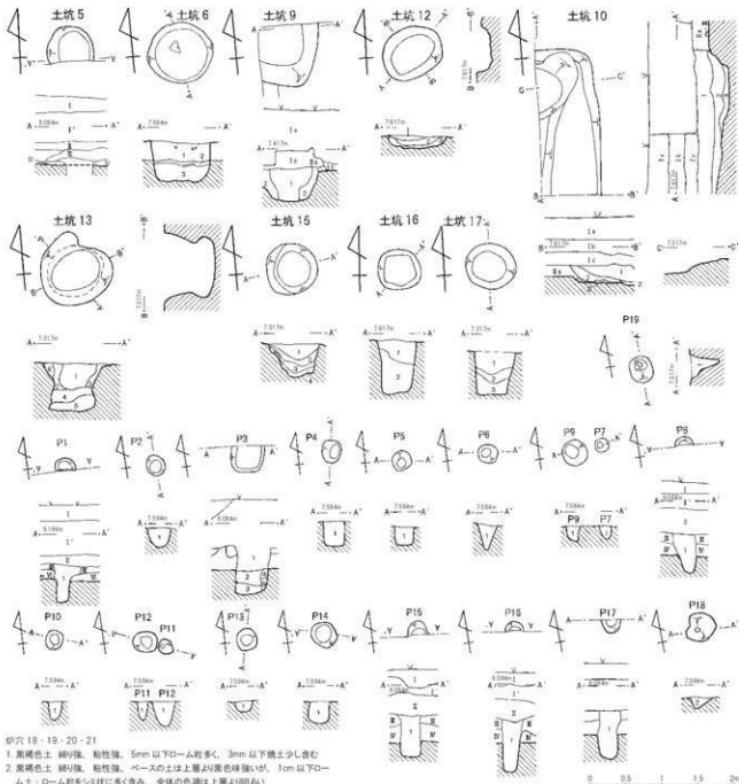
3. 黄褐色土 粘少強、粘性有。灰色味の有る黒色土に5mm以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1層に限る、ややローム粒を粒状に多く含む)

4. 黄褐色土 粘少強、粘性有。灰色味の有る黒色土に5mm以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1層に限る)

第10図 長宮遺跡第34地点炉穴③・井戸①・落とし穴 (1/60)



第11図 長宮遺跡第34地点井戸②・土坑②・ピット① (1/60)



(7) 溝

溝は4本検出した。試掘調査時に溝1としたものは、J9号住居跡の覆土層である。溝2は溝3より古く、共に近世以降の時期である。溝5は溝3より新しく、溝2との新旧関係は不明である。

(8) 炉穴・井戸・土坑・ピット・溝出土遺物

【炉穴・井戸出土遺物】(第14図1~26)

1・2は炉穴2出土、3は炉穴3出土、4は炉穴6出土、5・6は炉穴9、7~11は炉穴11出土、12・13は炉穴13、14~16は炉穴14出土、17は炉穴15出土土器である。

1~7、9~13は内外面に条痕文を施し、胎土には繊維を含む、早期後半の条痕文系土器である。3は器厚がやや薄く焼成良好で、胎土に繊維を含むか微妙である。5は厚手の土器で胴部から外反する頸部をへて口縁部に至る。口縁は波状口縁で、口唇部には竹管

状工具による押圧による刻目がみられる。

8はL型の撚糸文を施し胎土に繊維を含まない、早期前半の撚糸文系土器である。

12は口縁部で横位から斜位に条痕文を施す。

14は軸縫RLに2本のL型を付加する。15は胴部と底部に貝殻背莊痕を施す。14、15は前期黒浜式か。

16は砂岩製の打製石斧片で、重さ110.80gである。

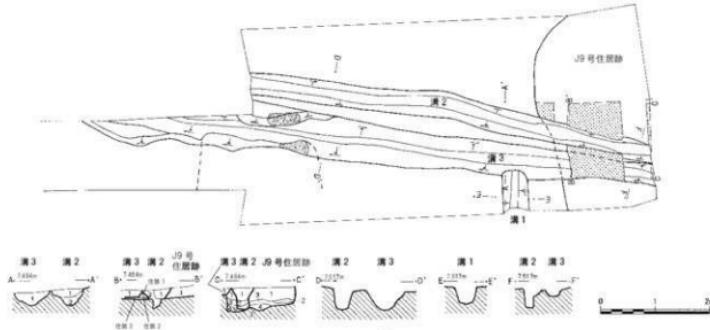
17は3段の文様帶がみられ、上段からRLに2本のL型を逆巻方向に付加したもの、中段は組紐LLRR、下段がRL繩文とみられる。前期開山式か。

【井戸・土坑・ピット・溝・遺構出土遺物】(第15図27~43)

18は口縁部に小突起を持ちLRとRL繩文で羽状繩文とする。20は上げ底の底部でLR、RL繩文を施す。18、20は関山式である。27は還付末端のLR繩文を施し胎土に繊維を含む関山式土器である。

第6表 長宮遺跡第34地点溝一覧表(単位cm)

| No. | 断面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|---------|------------|------------|------|----|
| 溝1 | 「U」字形 | 76×46 | 70×14 | 37.7 | |
| 溝2 | 「U」字形 | 1410×33~62 | 1410×12~27 | 50.1 | |
| 溝3 | 広い「U」字形 | 1315×35~85 | 1315×10~18 | 40.8 | |
| 溝4 | 「U」字形 | 223×38~71 | 223×16~45 | 39.9 | |



ビト1~18

1. 黄褐色土・紳介強、粘性有、2層間に、細緻褐色土主体に、シラ状褐色酸化鉄多く含む。

1cm以下シラ状褐色白色土少しあむ。

2. 黄褐色土・紳介強、粘性有、灰褐色粘土にシラ状褐色酸化鉄多く含む。

ビト19

1. 黄褐色土・紳介強、粘性強、黒色味強め、5mm以下ローム多く、5mm以下赤褐色土色や多含む。

住居跡

1. 黄褐色土・紳介強、粘性有、2mm以下ローム前・酸化鉄多く、1cm以下黒色土多く含む。

2. 黄褐色土・紳介強、粘性有、全体に弱い褐色(白く見える)を多く含み、ローム約は1層に間に

1. 黄褐色土質粘土Ⅱ層に對比か?紳介強、粘性有、全体に粘土質で2cm以下シラ状褐色酸化鉄多く含む。

2. 黄褐色土・紳介強、1mm以上ローム、赤褐色多く含む、土器片少し含む。

3. 细緻褐色土・1層にシラ状褐色酸化鉄を全体多く含むため、褐色色を呈するが1層にほぼ同じ。

4. 黄褐色土・紳介強、1cm以下赤褐色土少し含む以外は2層と同じ。

5. 黄褐色土・紳介強、1cm以下シラ状褐色酸化鉄多く含む。

6. 黄褐色土・紳介強、粘性有、赤褐色土・酸化鉄が多く含む。

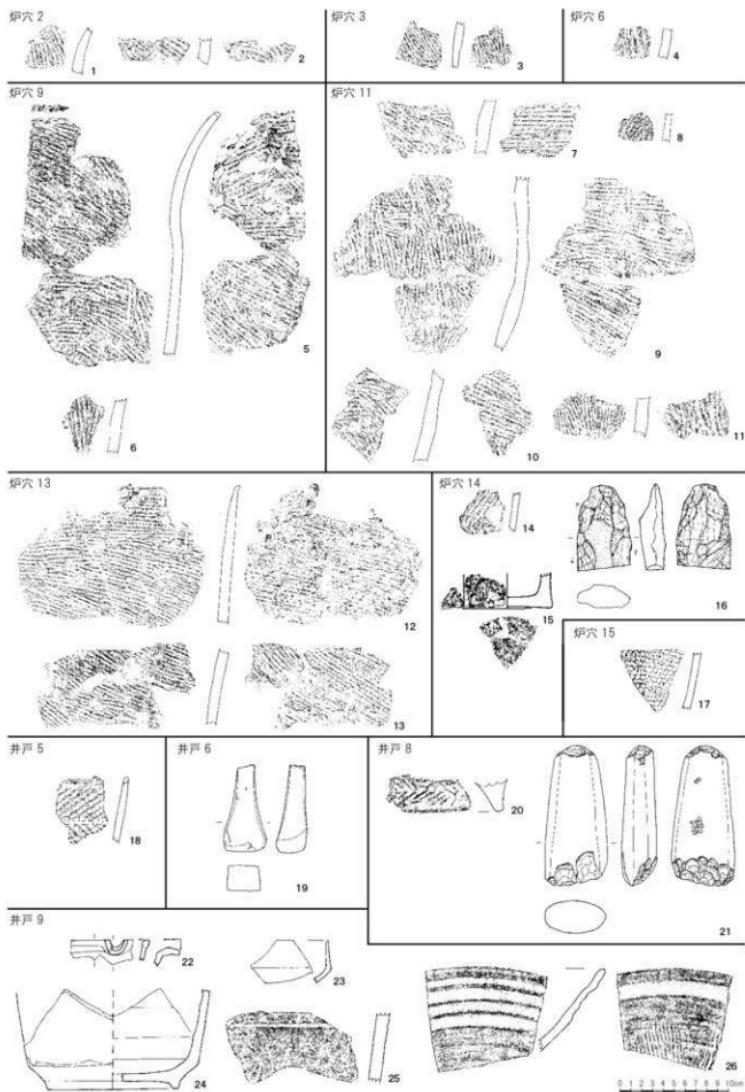
7. 黄褐色土・紳介強、粘性有、赤褐色土主体に2mm以下ローム多く含む。

8. 黄褐色土・紳介強、粘性有、赤褐色土主体に2mm以下ローム多く含む。

9. 黄褐色土・紳介強、粘性有、2層間にシラ状褐色酸化鉄多く含む。

10. 黄褐色土・紳介強、粘性有、2層間にシラ状褐色酸化鉄多く含む。

第13図 長宮遺跡第34地点溝(1/80)



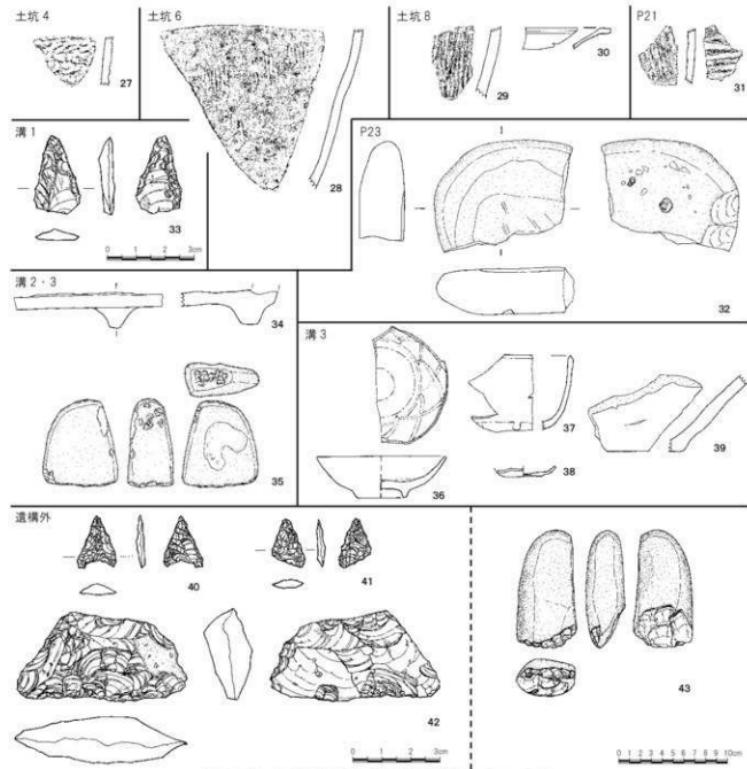
第14図 長宮遺跡第34地点出土遺物① (1/4)

29と31は表裏に条痕文を施し胎土に纖維を含む早
期後半の条痕文系土器である。井戸6・8・9、土坑

6・8、ピット23、溝、遺構外出土遺物については
第7表遺物観察表のことである。

第7表 長宮遺跡第34地点出土遺物観察表（単位cm・g）

| No. | 出土場所 | 種類・器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 厚さ | 法 法 文 標 そ の 他 | | | 推定产地 | 推定年代 |
|-----|--------------|-------------------|------|-----|------|----------|------------------------------|----|----|------|------------|
| | | | | | | | 内径 | 底厚 | 側面 | | |
| 21 | 土坑6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 21 | 井戸6 | 石器 / 磨擦剥離 | 12.0 | 6.1 | 3.2 | 0.44 | 直筒 / 扁平形、表面は白色地に黒褐色条痕文 | — | — | 新潟県 | 縄文時代 |
| 22 | 石器 / 片端 | — | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | 縄文時代 |
| 23 | 石器 / 磨 / ハサウ | — | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | 1720～1620年 |
| 23 | 井戸8 | 石器 / 磨 | 12.0 | 6.1 | 3.2 | 0.44 | 直筒形 / 扇形、口部に日本弓彌字形に黑色剥離多く含む | — | — | 新潟県 | 1720～1620年 |
| 25 | 土器 / 纖維 | — | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 26 | 石器 / 磨擦 | — | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 26 | 土器6 | 陶器 / 纖維 / 大腹、軋削剥離 | — | — | — | — | 扁平成形 / 扇形目録、内面に削れ口に擦痕有り、軋削剥離 | — | — | 新潟県 | 120年 |
| 27 | 土坑6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 27 | 井戸6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 28 | P23 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 29 | 土器6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 30 | 土坑8 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 31 | 井戸6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 32 | 溝1 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 33 | 溝2・3 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | — | — | — | 新潟県 | — |
| 34 | 溝2・3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | 7.8 | 6.9 | 2.1 | 0.21 | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 35 | 溝2・3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | 12 | 4.3 | 3.8 | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | 1650～1550年 |
| 36 | 溝2・3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | 1650～1550年 |
| 37 | 溝3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 38 | 溝3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 39 | 溝3 | 土器 / 纤維 / ハサウ | — | — | — | — | 直筒形 / 扇形 / 扇形 | — | — | 新潟県 | — |
| 40 | 土坑6 | 石器 / 破片 | 2.0 | 1.4 | 0.3 | 0.44 | 石器 / 斜面 | — | — | 新潟県 | — |
| 41 | 土坑6 | 石器 / 破片 | 1.6 | 1.3 | 0.25 | 0.45 | 石器 / 斜面 | — | — | 新潟県 | — |
| 42 | 土坑6 | 石器 / 破片 | — | — | — | — | 石器 / 斜面 | — | — | 新潟県 | — |
| 43 | 土坑6 | 石器 / 破片 | 10.3 | 5.3 | 4.6 | 2.97/0.5 | 石器 / 斜面 | — | — | 新潟県 | — |



第15図 長宮遺跡第34地点出土遺物② (1/4・2/3)

第3章 長宮遺跡第36地点の本調査

I 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年9月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年10月4日から17日まで行った。幅約1.5mのトレンチ8本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、縄文時代とみられるが跡や、中世以降の井戸、土坑、ピット、溝などを確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは30~40cmと浅いため、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。遺構密度の薄い南東部の約1/4を除く部分の本調査を実施した。

本調査は遺構の確認されたトレンチ2~トレンチ5までA調査区、トレンチ6~トレンチ8までB調査区として、2011年10月21日から11月14日まで、重機により表土層を除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の屋外焼土跡2基、中・近世以降の井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基である。遺物は縄文時代早期から中期の土器、石器、中・近世以降の陶磁器、石製

品、銭貨、板碑などである。

II 遺構と遺物

(1) 焼土

① 焼土1

平面形態は梢円形に近く100cm×(77)cmの浅い皿状を呈する。焼上の南側に平面が円形に近い27cm×22cm、深さ18.6cmのピットがある。焼土の範囲は70cm×64cm、厚さ10cmである。

② 焼土2

平面形態は不整形で54cm×45cmでほぼ平坦である。焼土の範囲は37cm×20cm、厚さ5cmである。

(2) 井戸

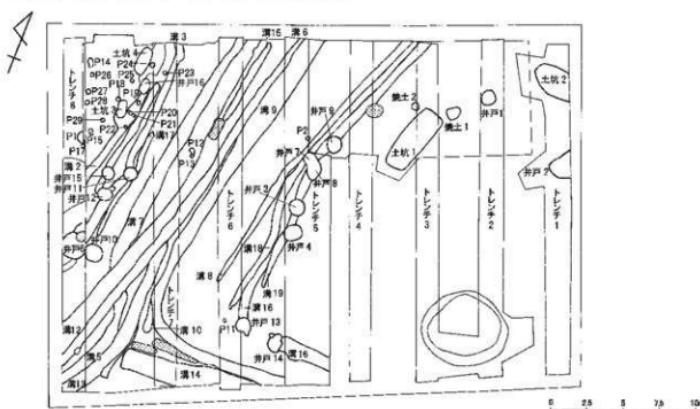
井戸は16基検出した。井戸1・7・10・11・13~15では遺物が出土しているが、特に井戸13からは板碑7点がまとめて出土した。詳細は第8表のとおりである。

(3) 土坑

土坑は4基検出した。土坑1・2は形態と規模から井戸や落とし穴などの可能性も考えられる。詳細は第8表のとおりである。

(4) ピット

ピットは20基検出した。詳細は第8表のとおりである。



第16図 長宮遺跡第36地点遺構配置図 (1/300)

(5) 溝

溝は16本検出した。ほぼ南北方向に延びるが、溝9、16は南北から東西方向に曲がる。溝14は東西方向に延び、断面が逆台形で深く堀状を呈する。各溝の詳細については第9表のとおりである。

(6) 出土遺物（第23図、第24図）

61～84は遺構外出土の縄文式土器である。

61・62は波状口縁の小突起で、61は細沈線、62は細沈線+刺突文を施す。63は細隆起線の区画内に沈線+刺突文、64は細隆起線の区画内に沈線を施す。65・71は沈線+条痕文、68・69・70は表裏に条痕文を施す。66は竹管状工具の押正で斜目状のある細隆起線+沈線文を施す。67は隆起線の幅が狭い括れ部分で上下の区画内には沈線文、66・67は裏面に条痕文を施す。

1～67は早期後半の野鳥式から鶴鳥台式である。

72～75・77は前期前半で、胎土に織維を含み地文はLRまたはLr縄文で、77は無文である。76はLrの木目状撚糸文土器である。78・79は沈線とLR縄文か又はLr縄文の加曾利E III式である。79は沈線とLR縄文か又はLr縄文の加曾利E III式である。80は沈線文を施す。81・82は胎土に雲母を含み、81は押引文、82は陰唇脛に押引文を施す阿玉台式である。83は横位沈線文、84は無文浅鉢で中期に含まれる。

85・86は口縁部から頸部に、87は胴部にハケ目を施し、胎土に2mm以下の白色粒子を含む土師器で五領式である。

その他の土器、石器、陶磁器、鉄貨、石製品、ガラス製品等については第10表のとおりである。

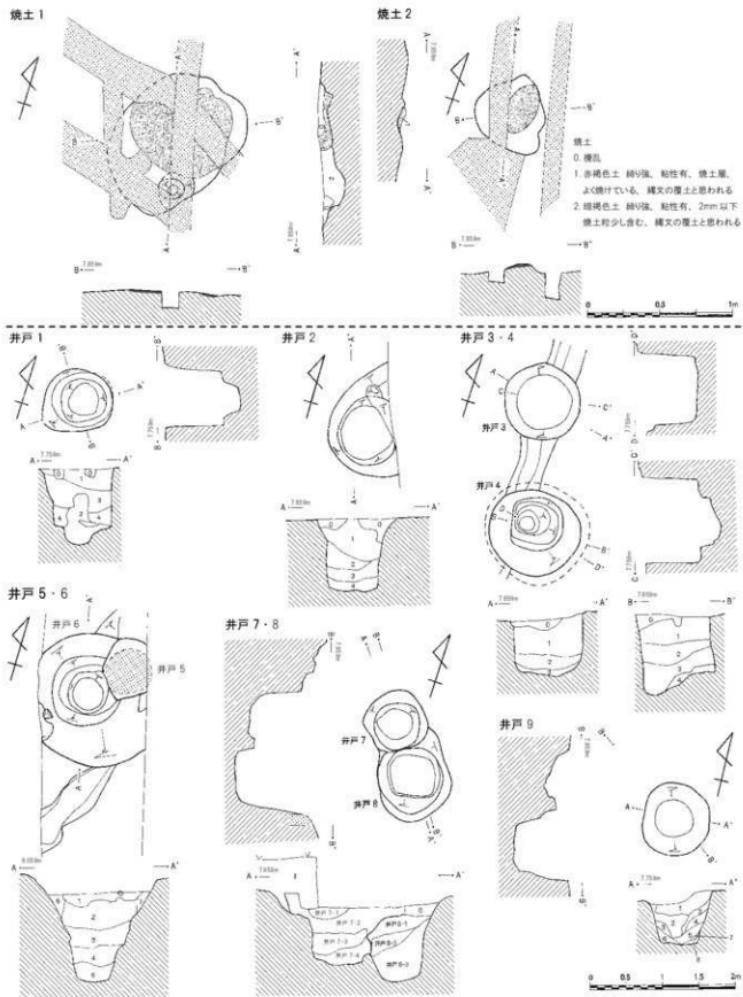
第8表 長宮遺跡第36地点井戸・土坑・ピット一覧表（単位cm）

| No. | 平面形態 | 縦 距 | 横 位 | 深 底 | 深 さ | 備 号 |
|------|------|-------------|------------|-------|-----|-----|
| 井戸1 | 円筒 | 96 × 85 | 44 × 41 | 109.2 | | |
| 井戸2 | 不規 | 157 × (91) | 73 × 68 | 110.5 | | |
| 井戸3 | 円筒 | 105 × 104 | 76 × 76 | 84.9 | | |
| 井戸4 | 円筒 | 137 × 117 | 20 × 18 | 116.4 | | |
| 井戸5 | 不規 | 60 × (60) | (84 × 59) | | | |
| 井戸6 | 不規 | 184 × (150) | 42 × 42 | 154.5 | | |
| 井戸7 | 円筒 | 84 × 80 | 43 × 43 | 75.8 | | |
| 井戸8 | 円筒 | 99 × 88 | 62 × 55 | 115.8 | | |
| 井戸9 | 円筒 | 101 × 91 | 54 × 51 | 75.6 | | |
| 井戸10 | 円筒 | 135 × 117 | 52 × 50 | 98.8 | | |
| 井戸11 | 円筒 | 91 × 88 | 83 × 62 | 94.2 | | |
| 井戸12 | 円筒 | 101 × 85 | 56 × 48 | 98.8 | | |
| 井戸13 | 不規形 | 101 × 101 | 49 × 32 | 137.4 | | |
| 井戸14 | 不規形 | 130 × 95 | 37 × 37 | 112.0 | | |
| 井戸15 | 円筒 | 89 × 79 | 29 × 27 | 72.8 | | |
| 井戸16 | 円筒 | 97 × 64 | 34 × 30 | 37.6 | | |
| 土坑1 | 墨刀形 | 458 × 165 | 447 × 143 | 77 | | |
| 土坑2 | 不規 | (229) × 160 | (190) × 85 | 99.5 | | |
| 土坑3 | 墨刀形 | 125 × 61 | 95 × 46 | 23.9 | | |
| 土坑4 | 墨刀形 | 190 × 87 | 141 × 60 | 58.3 | | |

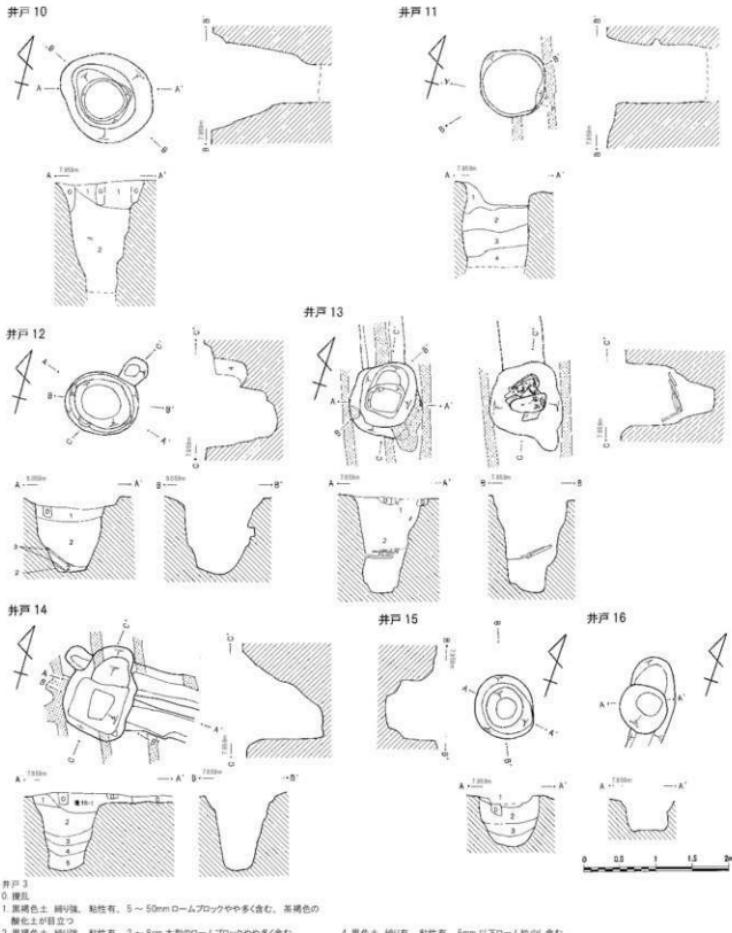
| No. | 平面形態 | 縦 距 | 横 位 | 底 | 深 さ | 備 号 |
|-----|------|-----------|---------|---|------|-----|
| P1 | 木柄 | 60 × (50) | 5×5 | | 25.6 | |
| P2 | 方形 | 33 × 26 | 10×8 | | 32.7 | |
| P11 | 円形 | 26 × 26 | 17 × 16 | | 60.7 | |
| P12 | 不規形 | 38 × 27 | 11 × 10 | | 19.3 | |
| P13 | 方形 | 24 × 22 | 19 × 8 | | 28.9 | |
| P14 | 方形 | 58 × 38 | 34 × 13 | | 36.2 | |
| P15 | 方形 | 42 × 27 | 9 × 8 | | 61.5 | |
| P17 | 不規 | 25 × (17) | 9 × 8 | | 97.2 | |
| P18 | 方形 | 27 × 26 | 16 × 14 | | 28.9 | |
| P19 | 方形 | 26 × 23 | 13 × 10 | | 26.7 | |
| P20 | 方形 | 39 × 27 | 13 × 13 | | 32.0 | |
| P21 | 方形 | 21 × 16 | 7 × 6 | | 24.0 | |
| P22 | 方形 | 24 × 21 | 14 × 13 | | 30.0 | |
| P23 | 方形 | 25 × 24 | 15 × 6 | | 29.4 | |
| P24 | 円形 | 36 × 32 | 13 × 7 | | 31.4 | |
| P25 | 方形 | 24 × 22 | 9 × 3 | | 51.7 | |
| P26 | 三角形 | 31 × 28 | 11 × 6 | | 68.8 | |
| P27 | 方形 | 31 × 29 | 11 × 7 | | 36.6 | |
| P28 | 方形 | 34 × 31 | 20 × 19 | | 37.0 | |
| P29 | 方形 | 25 × 23 | 10 × 6 | | 49.4 | |

第9表 長宮遺跡第36地点溝一覧表（単位cm）

| No. | 断面形態 | 縦 距 | 底 | 深 さ | 備 号 |
|-------|---------|-----------------|-----------------|-----|-----------------|
| 溝1 | | | | | |
| 溝2 | 無い「U」字形 | 1071 × 42 × 128 | 1056 × 9 × 104 | | 13.6 |
| 溝3 | 無い「U」字形 | 1786 × 46 × 76 | 1786 × 10 × 33 | | 31.5 |
| 溝4 | | | | | |
| 溝5・7 | 無い「U」字形 | 2738 × 50 × 110 | 2738 × 14 × 75 | | 欠番（溝6・12に変更） |
| 溝6 | 無い「U」字形 | 2803 × 52 × 84 | 2803 × 21 × 48 | | 25.6と溝7が1本になる |
| 溝8 | 無い「U」字形 | 2140 × 20 × 66 | 2114 × 10 × 38 | | 22 |
| 溝9・11 | 無い「U」字形 | 3228 × 58 × 155 | 3228 × 5 × 46 | | 33.3と溝11は同一 |
| 溝10 | 無い「U」字形 | 226 × 60 | 158 × 50 | | |
| 溝12 | 無い「U」字形 | 2842 × 72 × 200 | 2842 × 70 × 190 | | 38.6と溝4 |
| 溝13 | 無い「U」字形 | 1290 × 80 × 136 | 1290 × 38 × 72 | | 53.4とB6レンチモビツ |
| 溝14 | 無い逆台形 | 954 × 143 × 158 | 882 × 54 × 80 | | 76.4とB6・カレント溝5? |
| 溝15 | 無い | 844 × 33 × 60 | 828 × 14 × 38 | | 23とB6レンチ溝7b |
| 溝16 | 無い「U」字形 | 940 × 76 × 120 | 870 × 16 × 24 | | 14 |
| 溝17 | 無い「U」字形 | 809 × 23 × 40 | 791 × 7 × 22 | | 9 |
| 溝18 | 「U」字形 | 2130 × 31 × 50 | 2114 × 5 × 26 | | 36.4と溝8b |
| 溝19 | 無い「U」字形 | 2064 × 24 × 100 | 2056 × 8 × 58 | | 18.7と溝8c |



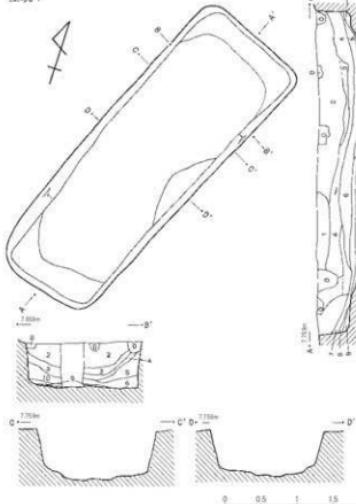
第17図 長宮遺跡第36地点焼土 (1/30)、井戸① (1/60)



- 井戸 3
0. 横丸。
1. 黒褐色土。縦り強。粘性有。5 ~ 50mmロームブロックや多く含む。茶褐色の
触毛土の目立つ。
2. 黒褐色土。縦り強。粘性有。2 ~ 8cm 大型のロームブロックやや多く含む
3. 黑褐色土。縦り強。粘性有。5mm以下ローム粒多く含む
井戸 4
0. 横丸。
1. 黑褐色土。縦り強。粘性有。5 ~ 20mmロームブロックや多く含む
2. 黑褐色土。縦り強。粘性有。色調上層より黒褐色が強く、5 ~ 20mmロームブロック
やや多く含む(上層より少くない)
3. 黑褐色土。縦り強。粘性有。5 ~ 30mmロームブロック少く含む
4. 黑褐色土。縦り強。粘性有。5 ~ 30mmロームブロック多く含む
井戸 6
1. 黑褐色土。縦り強。粘性有。1 ~ 4cmロームブロック少く含む
2. 黑褐色土主張。縦り強。粘性有。15cm以下大型ロームブロック主体
3. 褐褐色土。縦り有。粘性有。5cm大体少しある。シミ状に黒褐色土を含む
4. 黑褐色土。縦り有。粘性有。5mm以下ローム粒少しある
5. 黑褐色土。縦り有。粘性有。シミ状に褐褐色土を含む
井戸 7
0. 横丸。
1. 溝丸土。
2. 黑褐色土。縦り有。粘性有。2 ~ 5cm 大ロームブロック少く、2 ~ 10mmローム粒や多く含む
3. 黑褐色土。縦り有。粘性有。2 ~ 5cm 大ロームブロック少く、5mm以下ローム粒少しある
4. 黑褐色土。縦り有。粘性有。2 ~ 5cm 大ロームブロック少く、5mm以下ローム粒 1層程度含む
0. 横丸。
1. 黑褐色土。縦り有。粘性有。井戸 7 の 1 層に接する。やや色調深く、大型ロームブロック多く含む
2. 黑褐色土。縦り有。粘性有。黒色土主体に5cm 以下黒褐色土をブリッヂで多く含む
3. 黑褐色土。縦り有。粘性有。1cm以下ロームブロック少く、5cm 以下黒褐色土ブロック多く含む

第18図 長宮遺跡第36地点井戸②(1/60)

土坑 1



井戸 9

1. 黒褐色土 細かい強、粘性有、ロームブロックに 1cm 以下黒褐色土少し含む
2. 黒褐色土+黒褐色土 細かい強、粘性有、3cm 以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 細かい強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 細かい強、粘性有、1cm 以下ロームブロック多く含む(2 層より少ない)
5. 黑褐色土 細かい強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
6. 黑褐色土 細かい強、粘性有、4 層に層状(ロームブロックは層より少ない)

7. 極褐色土 細かい強、粘性有、ローム粒 90% 前後、黒褐色土少し含む

8. 黑褐色土 細かい強、粘性有、5 層に同じ(7 層がレンズ状の堆積)

井戸 10

0. 塵土

1. 黑褐色土 細かい強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む
2. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1 層より色々味濃く、5mm 以下シートローム粒少し含む

井戸 11

1. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1cm 大ローム少し含む、5mm 以下ローム粒少し含む
2. 黑褐色土 細かい強、粘性有、3cm 以下ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒多く含む(1 层より多く、黄褐色)

3. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1-2 層より少しある、3cm 大ローム少し含む、5mm 以下ローム粒少し含む

4. 極褐色土 細かい強、粘性有、5cm 以下ロームブロックと黒褐色土混在、ほぼ同程度含む

井戸 12

0. 塵土

1. 黑褐色土 細かい強、粘性有、5cm 大ローム少し含む、5mm 以下ローム粒少し含む
2. 黑褐色土 細かい強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む

3. 極褐色土 細かい強、粘性有、ローム主体に黒褐色土少し含む(部分的な箇所)

4. 極褐色土 細かい強、粘性有、1cm 以下ロームブロック主体で隣に黒褐色土を少し含む、これが約 10% する

井戸 13

0. 塵土

1. 黑褐色土 細かい強、粘性有、2mm 以下シートローム粒少し含む

2. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1cm 以下シートローム粒少し含む

3. 極褐色土 細かい強、粘性有、ローム主体で黒褐色土をシート状に少し含む

4. 黑褐色土 細かい強、粘性有、ローム主体で黒褐色土をシート状に少し含む

5. 黑褐色土 細かい強、粘性有、3 層に層状する。ほぼ同じ

6. 極褐色土 細かい強、粘性有、5mm 大ロームと黒褐色土を含む

7. 黑褐色土 細かい強、粘性有、2mm 以下シートローム粒少し含む

8. 黑褐色土 細かい強、粘性有、3 層に層状する。ほぼ同じ

9. 黑褐色土 細かい強、粘性有、黒褐色土に 1cm 以下ローム粒少し含む

10. 黑褐色土 細かい強、粘性有、ローム主体の土に 4-6 層褐色の黒褐色土を網状に 2 回程(?)して含む。5mm 以下シート状黒褐色土を少し含む

11. 黑褐色土 細かい強、粘性有、底面や中間層に 5mm 以下ローム粒少し含む

12. 黑褐色土 細かい強、粘性有、底面や中間層に 5mm 以下シート状黒褐色土が残っている

13. 黑褐色土 細かい強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む

14. 黑褐色土 黄褐色土 細かい強、粘性有、黒褐色土とノゾ賀のローム土が 3-6cm の層厚で互層する

15. 黑褐色土 細かい強、粘性有、底面や中間層に 5mm 以下シート状黒褐色土が残っている

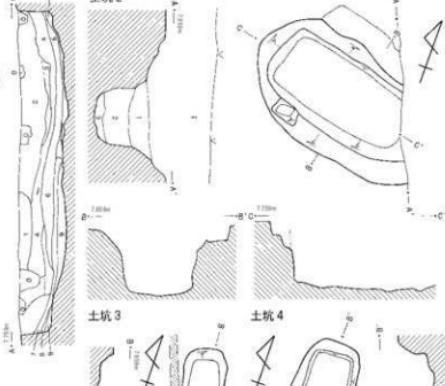
16. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1cm 大ローム少し、2mm 以下ローム粒多量に含む

17. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1cm 大ローム少し含む

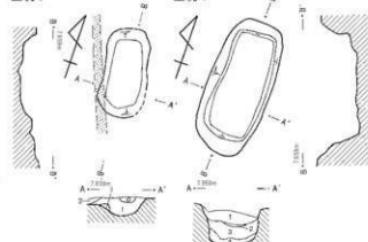
18. 黑褐色土 細かい強、粘性有、2mm 以下ローム少し、1cm 以下黒褐色酸化鉄多く含む

19. 黑褐色土 細かい強、粘性有、1cm 以下ローム粒少し含む

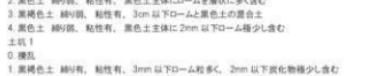
土坑 2



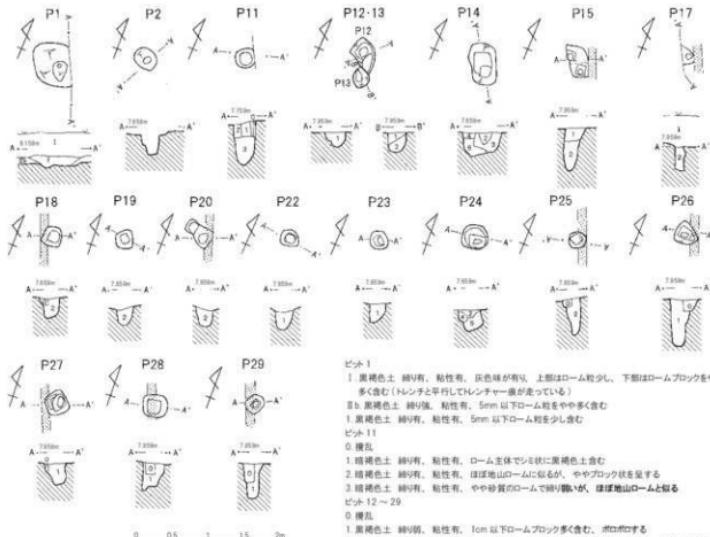
土坑 3



土坑 4



第 19 図 長宮遺跡第 36 地点土坑 (1/60)



ピット 1

I 黒褐色土 細砂質、粘性有、灰色味が有り、上部はローム粒少し、下部はロームブロックをやや多く含む（トレチナと平行でレンシチヤー層が走っている）

II 黒褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒をやや多く含む

III 黒褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒を少し含む

ピット 11

1. 粗褐色土 細砂質、粘性有、ローム主体でシミに黒褐色土含む

2. 粗褐色土 細砂質、粘性有、ほぼ地山ロームに似るが、ややブロック状を呈する

3. 粗褐色土 細砂質、粘性有、やや砂質のロームで細り颗粒が、ほぼ地山ロームと似る

ピット 12

1. 横乱

1. 黒褐色土 細砂質、粘性有、1cm 以下ロームブロック多く含む、ボロボロする

2. 黒褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む（上層多く下層少い）

3. 黒褐色土 細砂質、粘性有、1cm 大ローム粒多く、2mm 以下ローム粒多く含む

2. 横乱

1. 黒褐色土 細砂質、粘性有、1cm 以下ロームブロック多く含む、ボロボロする

2. 黒褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、層間に1cm 以下ローム粒多く含む

3. 黒褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以上1cm 大ローム粒多く含まない（後は同じ）

4. 粗褐色土 細砂質、粘性有、ボロボロのローム主体に、黒褐色土を少しあむ

A-A' - B-B' 濃 2

0. 横乱

1. 粗褐色土 細砂質、粘性有、

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、

3. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1cm 大ローム粒少し、2mm 以下ローム粒多量に含む

濃 3

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2cm 以下ロームブロックや含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒多く含む

濃 12

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、薄ら6mm 大ローム粒多く含む、やや黃褐色土

C-C' - D-D' - E-E' - F-F' - T-T' 濃 6

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒多量に含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1 層よりやや灰黑色ローム粒は1 層より1mm 程大き

T-T'

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下の黒褐色粒が多くなるが、難化粒多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2 層に難化して、2cm 大ロームブロックを下層にやや多

く含む、難化粒多く含む

C-C' - D-D' - E-E' 濃 9

0. 横乱

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2 層に色調同じで2cm 以下ロームブロック多量に、5mm

以下ローム粒多く含み、難化に見える

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、薄ら6mm 大ローム粒多く含む、1cm 大ロームブロック少し

2mm 以下ローム粒多く含む

D-D' - E-E' - T-T' 濃 12

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、難化粒多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒多く含む

3. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒 2 層より多く含む

E-E' - H-H' 濃 13

0. 横乱

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1cm 以下ロームブロック多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒多く含む（上層多く下層少い）

3. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1cm 大ローム粒多く、2mm 以下ローム粒多く含む

H-H' 濃 5

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒多量に含み、シミ状に難化粒多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、難化粒多く含み、難化粒の可逆性有、葉茎には無い

O-O' 濃 0

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、難化粒多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1.5cm 大ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒や多く含む

3. 黑褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒や多く含む

4. 黑褐色土 細砂質、粘性有、難化粒に加え、少しローム粒含むのが少ない

5. 黑褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒シミ状に少し含む

1 ~ 4 是ローム粒をブロック状に含むが、5 層はシミ状に含む

T-T' 濃 1 ~ 8

1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1 ~ 6cm ロームブロック多く含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロックや多く含む

3. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1 ~ 6cm ロームブロック少し含む

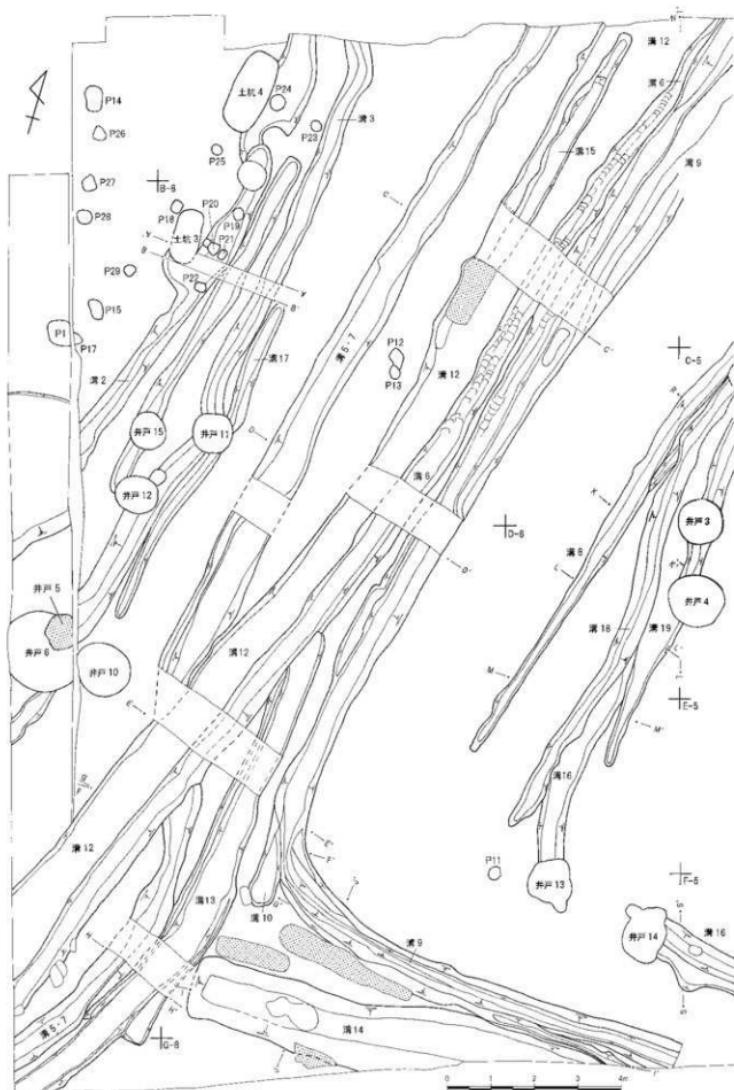
4. 黄褐色土 細砂質、粘性有、ロームの難化粒多く、5 ~ 20mm ロームブロックや多く含む

濃 9

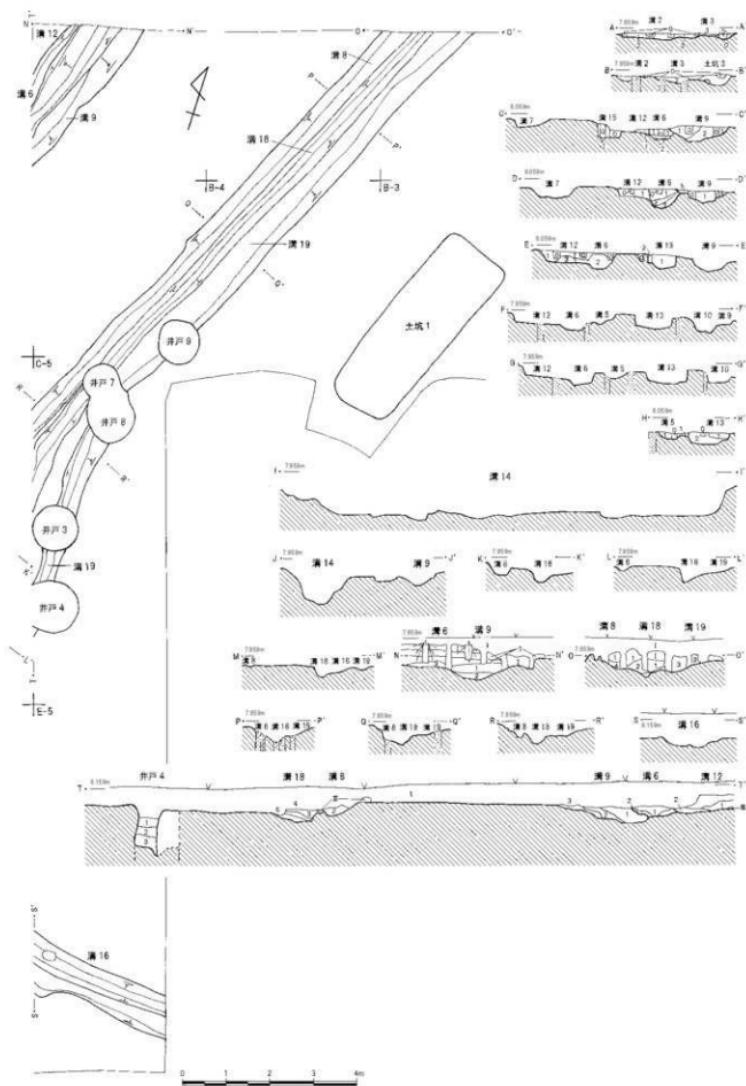
1. 黑褐色土 細砂質、粘性有、1 ~ 3cm ロームブロック少し含む

2. 黑褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む

第20図 長宮遺跡第36地点ピット (1/60)



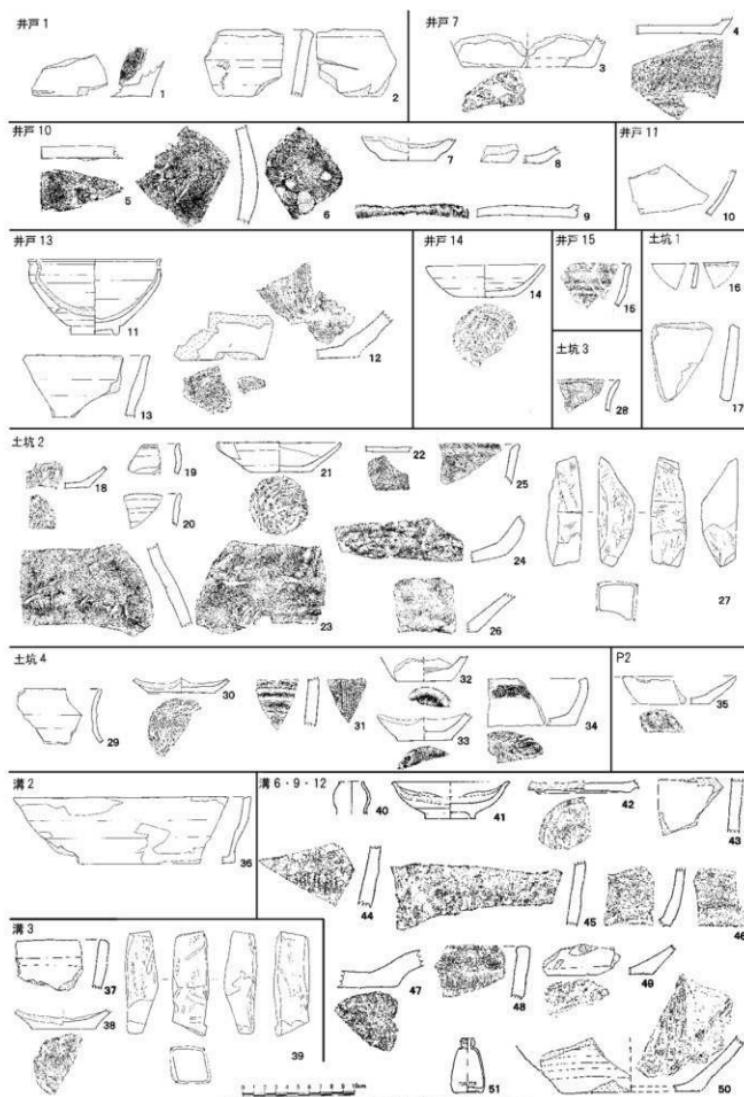
第21図 長宮遺跡第36地点溝① (1/100)



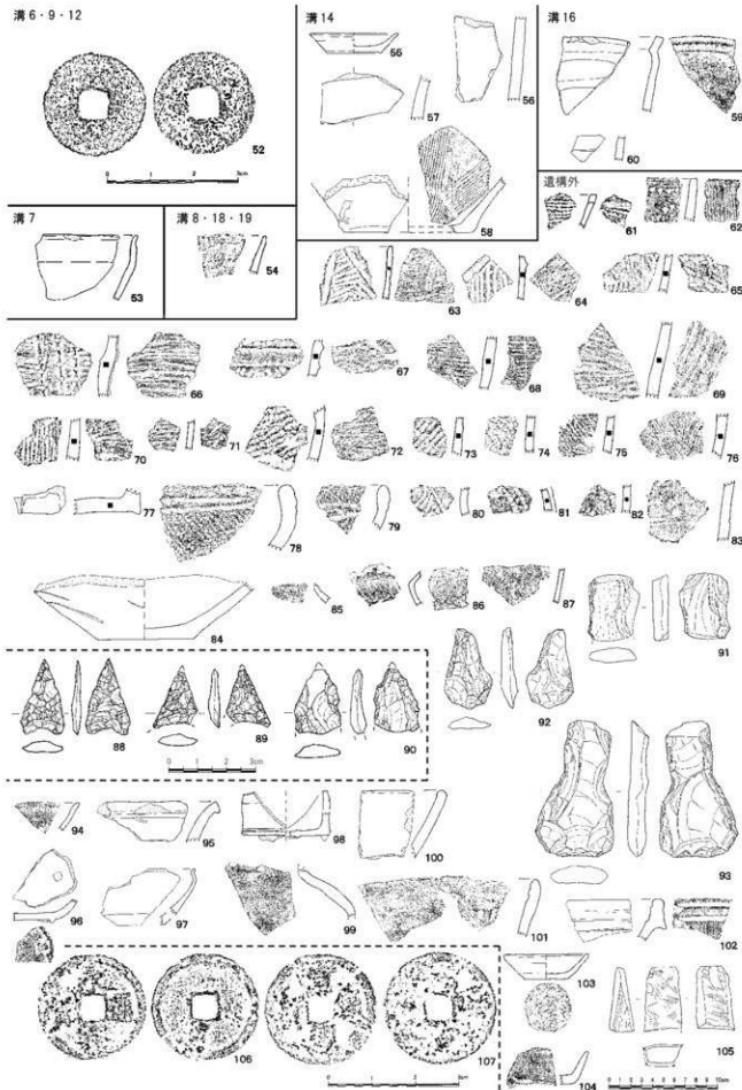
第22図 長宮遺跡第36地点溝② (1/100)

第10表 長宮遺跡第36地点出土遺物観察表（単位cm, g）

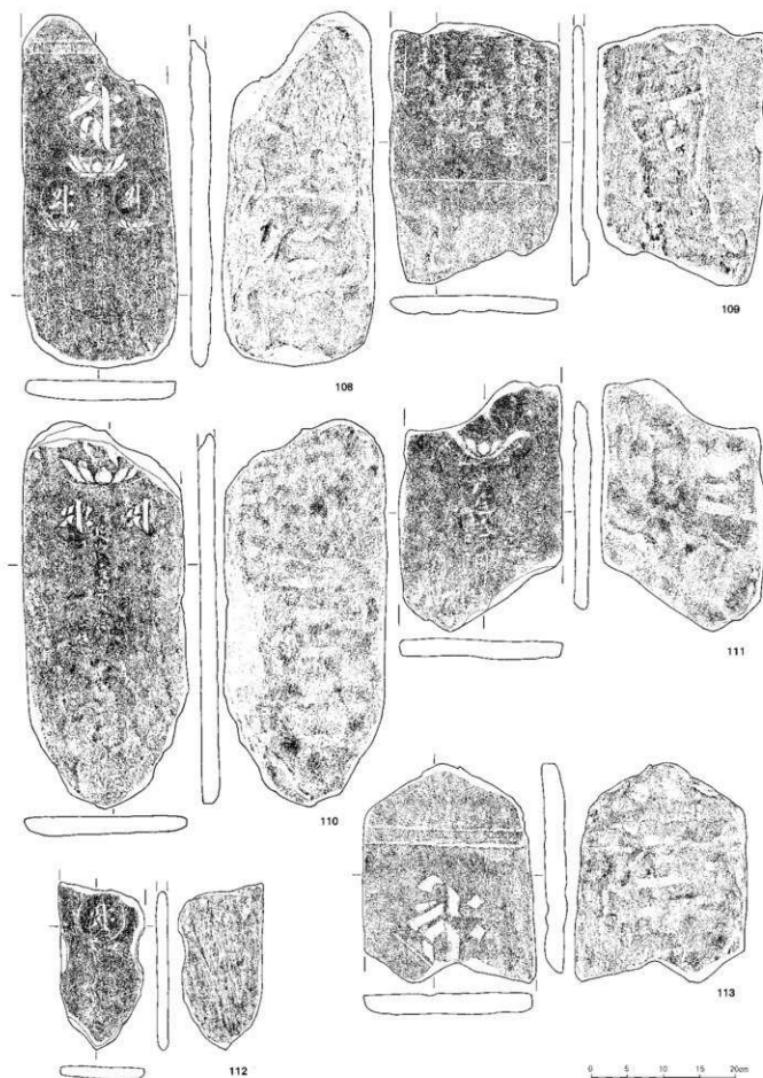
| No. | 出土位置 | 種別・器種 | 口径・高さ | 底径・幅 | 底面形状 | 表面形状 | 技法・文様・その他の特徴 | 推定产地 | 推定年代 | |
|-----|----------|----------|---------|--------|----------|-----------------|------------------------------|-------------|-------------|---------|
| 1 | 井戸1 | 陶器/粗陶 | — | — | 1.2 | 輪郭成型/瓦端 | — | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 2 | — | — | — | — | 0.95 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色 | 戸戸 | 14c~15c | |
| 3 | 井戸1 | 陶器/瓦質 | — | (12.2) | 1.05 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色 | 戸戸 | — | |
| 4 | 井戸1 | 陶器/粗陶 | — | — | 0.9 | 輪郭成型/ 瓦端 | 瓦黄色 | 戸戸 | — | |
| 5 | 井戸10 | 陶器/瓦質 | — | — | 1.2 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 6 | 井戸10 | 陶器/瓦質 | — | — | 1.2 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 7 | 井戸10 | 陶器/瓦質 | — | 4.6 | 0.9 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 8 | 井戸10 | 陶器/瓦質 | — | — | 1.05 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 9 | 井戸10 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.75 | 輪郭成型/ 扁平 | 外周に縦付帯・縫目 | 戸戸 | — | |
| 10 | 井戸11 | 陶器/瓶 | — | — | 0.5 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒・淡灰色 | 備前? | — | |
| 11 | 井戸11 | 陶器/瓶 | (12.2) | 4.4 | 6.9~0.5 | 輪郭成型/ 扁平 | 天目釉 | 戸戸/ 美濃 | 16c後半 | |
| 12 | 井戸13 | 陶器/埴輪 | — | — | 1.65 | 輪郭成型/ 扁平 | 赤系 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 13 | 井戸13 | 陶器/埴輪 | — | — | 1.1 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色 | 戸戸 | 16c | |
| 14 | 井戸13 | 陶器/埴輪 | 10.9 | 4 | 2.9~0.6 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色/ 外周に縦付帯 | 板根付底 | 戸戸 | — |
| 15 | 井戸15 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.4 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | 14c | |
| 16 | 井戸15 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.9 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸 | — | |
| 17 | 土坑1 | 陶器/瓶 | — | — | 1.2 | 輪郭成型/ 扁平 | 灰白色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 18 | 土坑1 | 陶器/瓶 | — | — | 0.65 | 輪郭成型/ 扁平 | 米切底 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 19 | 土坑1 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.5 | 輪郭成型/ 扁平 | 青石 | 戸戸/ 美濃 | 16c半~ | |
| 20 | 土坑1 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.65 | 輪郭成型/ 扁平 | 青石 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 21 | 土坑1 | 陶器/瓦質 | 11.4 | 5 | 2.7 | 輪郭成型/ 扁平 | 水切底 | 戸戸 | 15c~16c | |
| 22 | 土坑2 | 陶器/瓦質 | — | — | 0.45 | 輪郭成型/ 扁平 | 米切底 | 戸戸 | — | |
| 23 | 土坑2 | 陶器/瓦質 | — | — | 1 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 24 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.2 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色/ 外周に縦付帯 | 井戸1から同一個体 | 戸戸 | — | |
| 25 | 土器1 | 陶器/瓶 | — | — | 0.7 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒 | 戸戸 | — | |
| 26 | 土器1 | 陶器/瓦質 | — | — | 1.25 | 輪郭成型/ 扁平 | 灰白色 | 戸戸 | — | |
| 27 | 石器品/砾石 | — | 10 | 2.75 | 3 | 石質 | 火炎部・重量 133.81g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 28 | 土坑3 | 土器品/瓶 | — | — | 0.35 | 粘土器上口/ 口部附近に横模 | — | 戸戸 | — | |
| 29 | 土坑3 | 土器品/瓶 | — | — | 0.4 | 粘土器上口/ 口部附近に横模 | — | 戸戸 | — | |
| 30 | 土坑3 | 土器品/瓶 | — | 6 | 14.0~5 | 粘土器成型/ 瓦頭形斜面切底 | 栗子干 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 31 | 土坑4 | 陶器/埴輪 | — | — | 1 | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 32 | 土坑4 | 陶器/瓦質 | — | (5) | 0.7 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 33 | 土坑4 | 陶器/瓦質 | — | (5) | 0.6 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 34 | 土器1 | 陶器/火鉢 | — | — | 0.7 | 輪郭成型/ 足貼付・火鉢 | 輪脚同心円内 | 戸戸 | — | |
| 35 | P2 | 土器1 | 陶器/瓦質 | — | 0.65 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 36 | 第2 | 土器1 | 土器/他 | (44) | (28) | 0.9 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色/ 外周に縦付帯 | 戸戸 | 16c |
| 37 | 第2 | 土器1 | 土器/他 | — | — | 1.1 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦黄色 | 戸戸 | 14c~15c |
| 38 | 第3 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | 5.9 | 0.75 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — |
| 39 | 石器品/砾石類 | — | 8.6 | 3.3 | 2.15 | 石質 | 火炎部・重量 141.03g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 40 | 陶器/茶入・瓶 | — | — | — | 0.5 | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 41 | 陶器/瓶 | (10.7) | 4.5 | 34~0.7 | 輪郭成型/ 扁平 | — | — | — | — | |
| 42 | 陶器/瓶 | — | 8.3 | 0.75 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色/ 足込と底面に目皿 | 戸戸/ 美濃 | — | — | |
| 43 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.15 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒 | 戸戸 | — | — | |
| 44 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.05 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒 | 戸戸 | — | — | |
| 45 | 井戸6~9 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 0.95 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 46 | 井戸6~9 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 47 | 井戸6~9 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.45 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 48 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 1.1 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | 14c~15c | |
| 49 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 1.05 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、灰白色 | 戸戸 | — | |
| 50 | 陶器/埴輪 | — | (12.8) | 1.2 | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸/ 美濃 | — | — | |
| 51 | ガラス品/瓶底 | — | 1.3 | 3 | 5~0.5 | 斜面成型 | (D17.0) 瓶底、瓶身、瓶口(27.8) 瓶底V | — | — | |
| 52 | ガラス品/瓶底 | — | 2.35 | 2.35 | 0.1 | 斜面成型 | 瓶底 V字形、重量 2.53g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 53 | 漢1 | 陶器/茶入・瓶 | — | — | — | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸/ 美濃 | 16c後半 | |
| 54 | 井戸10~18 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.8 | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸 | — |
| 55 | 井戸14 | 陶器/瓶 | (8.1) | (5) | 1.0~0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓶出L・薄葉 | 戸戸/ 美濃 | 16c末 | |
| 56 | 井戸14 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.15 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒 | 戸戸 | — | |
| 57 | 井戸14 | 陶器の陶器/瓦質 | — | — | 1.05 | 輪郭成型/ 扁平 | 土色、(以)白粒 | 戸戸 | — | |
| 58 | 井戸14 | 陶器/埴輪 | — | (12) | 0.9 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 59 | 井戸16 | 陶器/埴輪 | — | — | 0.6 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | 16c末~17c 初頭 | |
| 60 | 井戸16 | 陶器/香炉 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | — | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 61 | 石器品/石鏡 | — | 2.6 | 1.5 | 0.3 | 石質 | 栗目石・重量 0.89g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 62 | 石器品/石鏡 | — | 2.05 | 1.2 | 0.35 | 石質 | 栗目石・重量 0.69g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 63 | 石器品/石鏡 | (2.2) | 1.5 | 0.4 | 石質 | チリモー・重量 1.54g | 戸戸/ 美濃 | — | 戸戸時代 | |
| 64 | 石器品/打削石棒 | (5.9) | 4.5 | 1.25 | 石質 | 修理痕有り・重量 66.89g | 戸戸/ 美濃 | — | 戸戸時代 | |
| 65 | 石器品/打削石棒 | — | 7.4 | 4.2 | 1.15 | 石質 | 修理痕有り・重量 37.69g | 戸戸/ 美濃 | — | 戸戸時代 |
| 66 | 石器品/打削石棒 | (12.35) | 7.2 | 1.4 | 1.1 | 石質 | フタフタ・重量 176.04g | 戸戸/ 美濃 | — | 戸戸時代 |
| 67 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.4 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 68 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 1.0 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 69 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 70 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.5 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 71 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 1.0 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 72 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 73 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 74 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 75 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 76 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 77 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 78 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 79 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 80 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 81 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 82 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 83 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 84 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 85 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 86 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 87 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 88 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 89 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 90 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 瓦色 | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 91 | 土器1 | 土器/瓦質 | (5.9) | 4.5 | 1.25 | 石質 | 修理痕有り・重量 66.89g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 92 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 93 | 土器1 | 土器/瓦質 | (12.35) | 7.2 | 1.4 | 石質 | フタフタ・重量 176.04g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 94 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 95 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 1.0 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 96 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 97 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 98 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 99 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 100 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 101 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 102 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 103 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 104 | 土器1 | 土器/瓦質 | — | — | 0.55 | 輪郭成型/ 扁平 | 栗目V | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 105 | 土器1 | 土器/瓦質 | (5.9) | 3.3 | 1.65 | 石質 | 浅腹器・重量 44.52g | 戸戸/ 美濃 | — | |
| 106 | 金銀新石/鍍金 | — | 2.5 | 2.4 | 0.1 | 石質 | 鍍金・孔径 5.75mm・重量 2.45g (朱唇透質) | 明 | 初期1402年 | |
| 107 | 金銀新石/鍍金 | — | 2.55 | 2.55 | 0.19 | 石質 | 鍍金・孔径 5.76mm・重量 3.07g (朱唇透質) | 明 | 初期1433年 | |



第23図 長宮遺跡第36地点出土遺物① (1/4)



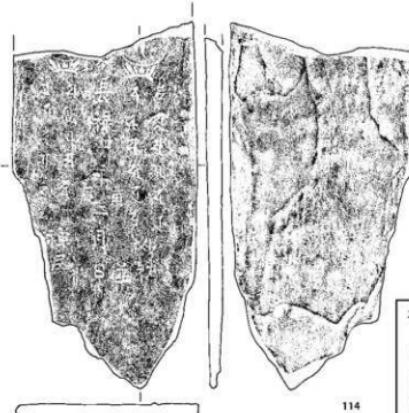
第24図 長宮遺跡第36地点出土遺物② (1/4・2/3・1/1)



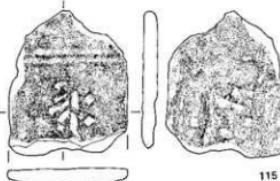
第25図 長宮遺跡第36地点出土遺物③ (1/6)

0 5 10 15 20cm

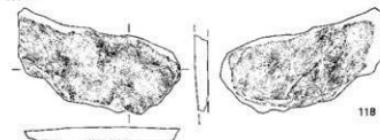
井戸 13



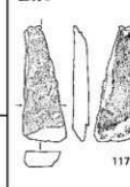
井戸 14



井戸 11



土坑 2



0 5 10 15 20cm

0 5 10 15 20cm

第 26 図 長宮遺跡第 36 地点出土遺物④ (1/6)

第 11 表 長宮遺跡第 36 地点出土板碑観察表 (単位 cm. g)

| 番 | 出土 遺物名 | 種別・ 特徴 | 高さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 技 法・文 標・そ の 他 | 推定产地 | 推定年代 |
|-----|-----------|-------------|------|------|-----|------|---|------|--------|
| 108 | 井戸 13 | 石 製 品 | 49.2 | 21.1 | 2.5 | 5.0 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 山形八幡平文 / 絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 主尊様子「阿弥陀三尊」、縫合様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 光別真言 / 紀年名 : 道慶碑(大寶正六年十二月一日)、乙酉 / 真言 / 3kg | — | 1465 年 |
| 109 | | | 36.8 | 22.7 | 2.1 | 3.61 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 上半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 主尊様子「阿弥陀三尊」、縫合様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 光別真言 / 紀年名 : 道慶碑(大寶正六年十二月一日)、乙酉 / 真言 / 2kg | — | 1465 年 |
| 110 | | | 54.1 | 22.3 | 2.5 | 5.0 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 山形八幡平文 / 絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 主尊様子「阿弥陀三尊」、縫合様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 光別真言 / 紀年名 : 道慶碑(大寶正六年十二月一日)、乙酉 / 真言 / 1kg | — | 1368 年 |
| 111 | | | 34.9 | 23.0 | 2.3 | 3.03 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 上半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 主尊様子「阿弥陀三尊」、主尊様子「キリ」と「阿弥陀如来」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 2kg | — | 1340 年 |
| 112 | | | 23.2 | 11.5 | 1.5 | 0.75 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 下半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 主尊様子「キリ」と「阿弥陀如来」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真門 / 0.5kg | — | — |
| 113 | | | 30.0 | 24.4 | 2.7 | 4.5 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 下半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 1kg | — | — |
| 114 | | | 51.2 | 25.8 | 2.1 | 5.0 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 上半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 2kg | — | 1460 年 |
| 115 | 井戸 14 | 石 質 品 | 19.9 | 16.7 | 2.0 | 1.25 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 下半側に縫合部 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 0.5kg | — | — |
| 116 | | | 30.6 | 9.8 | 1.8 | 1.25 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 一部残存 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 0.5kg | — | — |
| 117 | | | 16.0 | 5.9 | 2.2 | 0.30 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 一部残存 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 0.5kg | — | — |
| 118 | 井戸 11 | | 14.6 | 22.3 | 1.6 | 0.85 | 石質・絆泥片岩 / 独存 : 一部残存 / 石質・絆泥片岩 / 剥力方 / 網目形 / 葵摺 / 二条綾、主尊様子「サク(野里崩壊)」、縫合、薄底 / 細目名 : 道慶碑 / 真言 / 0.5kg | — | — |

第4章 松山遺跡第56地点の本調査

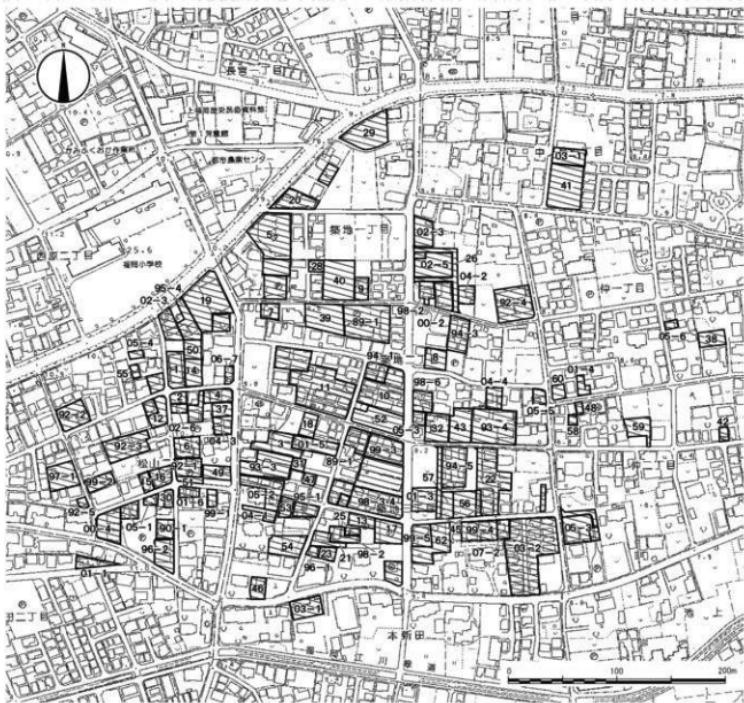
I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9~10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に烟が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期~後期、飛鳥時代および中世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鶴森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのがはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

2012年には第62地点の試掘調査で、本遺跡で初めて縄文時代中期の住居跡を検出した。江川流域の縄文時代中期前半の集落を考える上でも貴重である。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第12表 松山遺跡調査一覧表

| 地名 | 所在地 | 調査期間 | 面積(㎡) | 調査目的 | 確認された遺構に属する | 所持報告書 | 地名 | 所在地 | 調査期間 | 面積(㎡) | 所持報告書 | 調査対象 | 確認された遺構に属する | 所持報告書 |
|-----|-------------------|------------------|--------|----------|------------------|-------|--------|-------------------|--------------------|---------|-------|------------------|-------------|-------|
| 1次 | 松山2-5-4 | 1978.10.14～ | 479 | 住居跡2軒 | 唐(1) | | 01(3)1 | 松山1-1-23.14 | (2001.9.12) | 949.60 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 2次 | 松山2-6-7 | 1979.4.26～5-1 | 163 | 住居跡1、土器類 | 唐(3) | | 02(3)1 | 松山1-2-8 | (2002.5.20～22) | 917 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 3次 | 松山2-1-20 | 1979.8.7～16 | 723 | 住居跡3、土器 | 唐(3) | | 02(3)2 | 松山3-0-26.36 | (2002.7.11) | 248.09 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 4次 | 松山2丁目6-9 | 1982.9.13～24 | 277 | 住構なし、平土塗 | 唐(2) | | 29 | 松山1-2-86の一部 | (2002.7.24～8) | 368 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 5次 | 松山2丁目7-16 | 1982.4.20～28 | 148.5 | 土器類 | 唐(1) | | 02(3)3 | 松山2-5-7 | (2002.8.5) | 358.97 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 6次 | 松山2-1-18 | 1982.5.10～16 | 221 | 土器類 | 唐(1) | | 02(3)4 | 松山1-3-29 | (2002.8.20～21) | 479 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 7次 | 松山2-3-19 | 1988.1.20～21 | 221 | 個人所有 | 唐(1) | | 02(3)5 | 松山1-2-22.25.30 | (2002.6.22～28) | 640.65 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 8次 | 松山2-4-12 | 1988.7.1～8 | 319 | 個人所有 | 平土塗、土器類 | 唐(2) | 02(3)6 | 松山2-6-6 | (2002.8.8) | 147 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 9次 | 松山1-50 | 1987.10.1～3 | 200 | 個人所有 | GL | | 03(3)1 | #松山1-23 | (2003.4.16～21) | 1090.49 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 10次 | 松山2-3-4 | (1989.1.8.10) | 379 | 土器類 | 唐(1) | | 03(3)2 | 松山3-0-3他の事 | (2003.6.19～20) | 2578.02 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 11次 | 松山2-3-11 | (1989.6.27～30) | 1342 | 個人所有 | GL | | 30 | 松山2-2-3 | (2003.10.3～10) | 1424.7 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 12次 | 松山2-2-9 | (1990.9.7～12) | 304 | 個人所有 | GL | | 04(3)1 | 松山3-1-16.32 | (2004.4.22～23) | 976 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 13次 | 松山2-2-6 | 1991.10.14～18 | 452 | 個人所有 | 平土塗、土器類(部分) | 唐(1) | 04(3)2 | 松山1-3-7 | (2004.4.26) | 165 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 14次 | 松山1-10 | 1991.10.10～21 | 2029 | 地盤調査 | 平安土塗、土器類(部分) | 唐(1) | 04(3)3 | 松山2-2-11 | (2004.6.16) | 309 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 15次 | 松山2-6-2223 | (1992.4.17～24) | 583 | 土器類 | 唐(1) | | 04(3)4 | 松山2-3-12.25.27 | (2004.6.20～21) | 911 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 16次 | 松山2-4-8 | (1992.5.11～13) | 337 | 土器類 | 唐(1) | | 05(3)1 | 松山2-3-12 | (2004.6.6～8) | 911 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 17次 | 松山2-3-11 | 1992.5.31～20 | 321 | 個人所有 | 平安土塗1 | 唐(1) | 05(3)2 | 松山3-3-32.34.43 | (2005.4.18～21) | 549 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 18次 | 松山2-2-18 | 1992.5.31～30 | 224 | 個人所有 | 平安土塗1 | 唐(1) | 05(3)3 | 松山2-3-26 | (2005.4.28) | 132 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 19次 | 松山2-5-17 | (1992.6.21～30) | 432 | 個人所有 | 平安土塗2 | 唐(1) | 21 | 松山3-1-69 | (2005.6.14～23) | 120 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 20次 | 松山3-0-31-33 | (1992.6.13～18) | 671.9 | 個人所有 | GL | | 05(3)4 | 松山2-3-5 | (2005.6.19～20) | 567 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 21次 | 松山2-3-17 | (1992.6.13～18) | 671.9 | 個人所有 | 溝構、井戸遺構 | 唐(1) | 22 | 松山2-5-30～35 | (2005.8.9～13) | 132 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 22次 | 松山2-4-32 | (1993.6.20～25) | 784 | 個人所有 | GL | | 05(3)5 | 松山2-3-36 | (2005.10.1) | 125 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 23次 | 松山1-3-1 | (1993.4.5～16) | 569.13 | 個人所有 | GL | | 05(3)6 | 松山2-3-36 | (2005.10.1) | 125 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 24次 | 松山2-3-41 | 1993.4.19～28 | 349 | 個人所有 | 平安土塗1 | 唐(1) | 05(3)7 | 松山2-3-36 | (2005.10.1) | 125 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 25次 | 松山2-2-19 | 1993.5.30～24 | 387 | 個人所有 | 古墳周辺施設1 | 唐(1) | 05(3)8 | 松山2-2-40～48 | (2005.6.7～11) | 313 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 26次 | 松山2-3-4344 | 1993.7.2～15 | 1516 | 個人所有 | 平安土塗1 | 唐(1) | 05(3)9 | 松山3-3-27 | (2005.4.18～21) | 150 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 27次 | 松山1-1731 | (1993.10.13～26) | 9942 | 個人所有 | GL | | 37 | 松山2-2-10～13 | (2006.4.13) | 229 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 28次 | 松山2-5-20～48 | (1993.10.22～26) | 12645 | 個人所有 | GL | | 38 | 松山1-4-39.12.13.24 | (2006.5.29) | 276 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 29次 | 松山2-1-16 | 1993.12.1～7 | 290 | 個人所有 | 平土塗 | 唐(1) | 39 | 松山2-2-10 | (2001.1.10～20) | 837 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 30次 | 松山2-5-9 | 1994.1.17～2-3 | 1531 | 個人所有 | 平安土塗2、溝 | 唐(1) | 40 | 松山1-3-5 | (2007.2.21～9) | 1047 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 31次 | 松山2-2-3 | (1994.5.30) | 31048 | 個人所有 | GL | | 41 | 松山1-2-1 | (2007.2.2～8) | 1281 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 32次 | 松山1-2-4 | 1994.6.24～28 | 5517 | 個人所有 | 古墳周辺施設1、土器類、溝(1) | 唐(1) | 42 | 松山2-3-15 | (2007.2.13) | 108 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 33次 | 松山2-4-7 | (1994.8.3～12) | 332.96 | 個人所有 | GL | | 43 | 松山2-205号 | (2007.4.11～24) | 660.13 | 少部分 | 土1、土2、土3、土4 | 個人所有 | なし |
| 34次 | 松山1-1-9-10 | (1994.9.5～19) | 156.76 | 個人所有 | GL | | 44 | 松山3-2-10-14 | (2008.6.9～11) | 132 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 35次 | 松山2-3-2 | (1995.6.15) | 542 | 個人所有 | 古墳周辺施設1 | 唐(1) | 45 | 松山3-4-7-10の一部 | (2008.10.1～23) | 390 | 通過 | なし | 個人所有 | なし |
| 36次 | 松山2-2-23 | (1995.10.20～21) | 1525 | 個人所有 | GL | | 46 | 松山3-1-32の一部 | (2008.2.17) | 309 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 37次 | 松山2-2-23 | (1995.10.17～20) | 1785 | 個人所有 | 古墳周辺施設1 | 唐(1) | 47 | 松山3-1-32 | (2008.11.13) | 121 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 38次 | 松山2-2-21 | (1995.10.22～26) | 413 | 個人所有 | なし | | 48 | 松山2-2-34 | (2008.7.1) | 67 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 39次 | 松山2-2-1 | (1996.7.22～24) | 409 | 個人所有 | GL | | 49 | 松山2-6-1-14.22 | (2008.10.17～22) | 449 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 40次 | 松山1-4-17 | (1997.9.11～18) | 593 | 個人所有 | GL | | 50 | 松山2-5-31 | (2009.1.12.7～12.1) | 791 | 個人所有 | なし | 個人所有 | なし |
| 41次 | 松山2-1-4-17 | (1997.9.11～18) | 593 | 個人所有 | 溝(1) | | 51 | 松山2-6-22.23.24 | (2010.5.10～13) | 360 | 分譲住宅 | なし | 個人所有 | なし |
| 42次 | 松山3-2-12.24 | (1998.4.16) | 240 | 個人所有 | 23回測定解説 | 唐(2) | 52 | 松山2-2-1 | (2010.8.28～9.3) | 694 | 分譲住宅 | 土1、土2、土3、土4 | 個人所有 | なし |
| 43次 | 松山2-2-23.25.26.27 | (1998.4.20～25) | 165.6 | 個人所有 | 中近世1ほか | 唐(2) | 53 | 松山3-1-11 | (2010.9.10～21) | 205 | 個人所有 | 古代の溝の土1、土2、土3、土4 | 個人所有 | なし |
| 44次 | 松山2-3-1 | (1998.4.20～25) | 620 | 個人所有 | 中近世1ほか | 唐(2) | 54 | 松山2-1-4.7-8の一部 | (2010.4.11～5/9) | 540 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 45次 | 松山2-2-18.24～26 | (1998.5.11～14) | 1259 | 個人所有 | 平安古墳中近世1 | 唐(2) | 55 | 松山2-4-24～26の一部 | (2011.8.17)1.18 | 558.7 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 46次 | 松山2-3-1 | (1998.5.17) | 1676 | 個人所有 | なし | | 56 | 松山2-4-24～26 | (2011.8.26～27) | 186.31 | 個人所有 | 土1～3、土2、土3 | 個人所有 | なし |
| 47次 | 松山2-3-5～6 | (1998.6.4～10) | 363 | 個人所有 | GL | | 57 | 松山3-1-2.7.5 | (2011.4.1～15) | 482.53 | 分譲住宅 | なし | 個人所有 | なし |
| 48次 | 松山2-2-23.25.27 | (1998.6.3～12) | 240 | 個人所有 | 溝(1) | | 58 | 松山3-1-2.7.5 | (2011.4.1～15) | 241 | 分譲住宅 | なし | 個人所有 | なし |
| 49次 | 松山1-1-10 | (1998.6.3～16) | 169 | 個人所有 | 溝(1) | | 59 | W-TB2-5 | (2011.6～8) | 114.54 | 個人所有 | 1、2、3 | 個人所有 | なし |
| 50次 | 松山2-3-3 | (1998.6.8～12) | 345 | 個人所有 | 溝(1) | | 60 | W-TB2-3.5 | (2011.8～11) | 558.7 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 51次 | 松山3-1-14.15 | (1998.6.22～24) | 7879 | 個人所有 | GL | | 61 | W-TB2-3.5 | (2011.9.10～15) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 52次 | 松山2-4-24.27 | (1998.6.24～26) | 7455 | 個人所有 | 溝(1) | | 62 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.10～10) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 53次 | 松山2-1-17.18 | (1998.6.25～28) | 3313 | 個人所有 | 溝(1) | | 63 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.11～15) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 54次 | 松山2-2-20～25 | (1998.6.25～6.28) | 165.6 | 個人所有 | 溝(1) | | 64 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.12～16) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 55次 | 松山2-3-21 | (1998.6.25～6.28) | 6279 | 個人所有 | 溝(1) | | 65 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.13～17) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 56次 | 松山2-1-17.18 | (1998.6.25～6.28) | 612 | 個人所有 | 溝(1) | | 66 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.14～18) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 57次 | 松山2-1-17.18 | (1998.6.25～6.28) | 912 | 個人所有 | 溝(1) | | 67 | 松山2-4-2.7.5 | (2012.8.15～19) | 12.29 | 宅地造成 | なし | 個人所有 | なし |
| 58次 | 松山2-2-5 | (1998.6.25～6.28) | 982 | 個人所有 | GL | | 68 | W-TB2-31 | (2011.6～8) | 114.54 | 個人所有 | 1、2、3 | 個人所有 | なし |
| 59次 | 松山2-1-28 | (2001.2.8～21) | 165.6 | 個人所有 | 溝(1) | | 69 | W-TB2-3.5 | (2011.8～11) | 558.7 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 60次 | 松山2-1-28 | (2001.2.21～23) | 634 | 個人所有 | GL | | 70 | W-TB2-3.5 | (2011.9.10～15) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 61次 | 松山2-1-8～17 | (2001.3.21～31) | 1749 | 個人所有 | GL | | 71 | W-TB2-3.5 | (2011.9.11～15) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 62次 | 松山2-1-10 | (2001.4.17～31) | 2045.1 | 個人所有 | GL | | 72 | W-TB2-3.5 | (2011.9.12～16) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 63次 | 松山2-1-10 | (2001.5.10～18) | 169 | 個人所有 | 溝(1) | | 73 | W-TB2-3.5 | (2011.9.13～17) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |
| 64次 | 松山2-1-10 | (2001.5.10～18) | 434.9 | 個人所有 | GL | | 74 | W-TB2-3.5 | (2011.9.14～18) | 112.13 | 個人所有 | 土1～3 | 個人所有 | なし |

注釋：上総市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、土調課：上総市埋蔵文化財調査報告書、市内：ふじみ野市埋蔵文化財調査報告書

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は集合住宅建設に伴うもので、原因者により2011年3月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年4月6日から15日に行った。幅約1.5mのトレーニングを5本と、幅約2mのトレーニングを設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、土坑や溝などを確認した。遺跡確認面までの深さは約50cmで、遺跡への影響が避けられないと申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2011年4月11日から15日まで行い、掘立柱建物跡とみられるピット13基、土坑1基、溝2本などを検出した。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

本地点で新たに確認された遺構は土坑と掘立柱建物跡の可能性があるピットである。H35号住居跡の一部を再確認したが、『市内遺跡群6』2011.10で既に報告済みであるため、今回は平面的範囲を確認したのみで、再検出は行っていない。

(1) 土坑

土坑は1基検出した。調査区中央部の南寄りに位置する。平面形態は隅丸の方形を呈する。規模は南北200cm×東西220cm、深さ65.6cmである。底面は5~10cmの貼り床状を呈する。覆土層からは多数の須恵器や土器片が出土する。

(2) ピット（掘立柱建物跡）

ピットは調査区の南部と東部に集中しておりピットの一部は掘立柱建物跡の可能性がある。

ピット1・3~5・10は、東側に隣接する第45地点の調査で、3号掘立柱建物跡（P1~4）としたものの続きと考えられる。

ピット2・5・11~13・16で一棟、ピット6~8で一棟と考えられる。各ピットの詳細は第10表のとおりである。

(3) 溝

調査区の中央部を東西に横切り、東側に隣接する第45地点に延びる。第45地点の調査で溝9・10とし

たものの続きである。

(4) 出土遺物（第31図1~19）

1~5は、須恵器蓋。肩部に回転削り痕あり。1~3・6~7は白色針状物質を多量に含む。1はほぼ完形。径14.0cm、高3.5cm。色調灰褐色。胎土は精鍊され1mmほどの石英、黒色粒子を多量に含む。2・3は小破片。4は、1/2現存。径14cm、高3.3cm。胎土の小砂利は3mm程度でやや大きい。

5は、1/4現存。（推）径14.5cm、高3.3cm。色調青灰色。器面は滑らかで、胎土はよく精鍊されている。6~8は須恵器蓋の破片で、いずれも1/6から1/8が現存。灰褐色で白色針状物質を含む。このうち6の口唇部が他とは違い、先端が平坦に作り口径も推定であるが、16cmと大きい。

9は、高台付き环。1/2現存。口径14.2cm、高台径8.3cm、器高4.7cm。底部から直線的に体部が立ち上がる。高台内側の底面中央に回転糸切り痕あり。高台の貼り付け、底面周辺のなぞり痕が著しい。

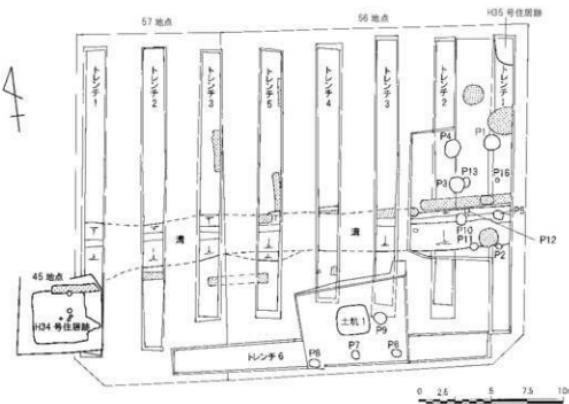
10~12は須恵器环。10は1/6現存。口径13cm、底径完存で7.6cm。色調茶褐色。黒粒子・白色針状物質を多量に含む。底部は手持ちヘラ削り。11は完形、径13.2cm、底径8.2cm、器高4.1cm。回転糸切りの後、手持ちヘラ削り、周辺を2回転のヘラ削り。口唇部外側に重ね焼きによる、青黒い自然釉がかかり、その下部は茶褐色である。12は完形、径13.0cm、底径7.2cm、器高3.6cm。回転糸切りの後、周辺部幅2.5cmの回転ヘラ削り。石英4mmから1mmが多量に混じる。

13は口径1/3現存13.6cm、底部完存8.5cm。器高3.8cm。白色針状物質を多量に含む。回転糸切りの後、周辺部幅2.5cmの回転ヘラ削り。体部表面は、下段にロクロ痕跡が強く表れ、先端は外湾する。体部内面に煤が付着し灯明皿に使用されたものと思われる。

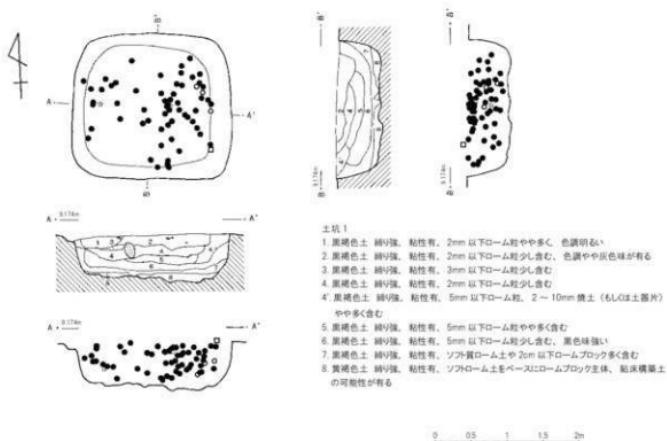
14は、須恵器環の底部で墨書きがみられる。白色針状物質を含む。（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団で赤外線撮影したところ『入』と読めそうであったが、入りの又の下に『=』のような記述がある。

15は須恵器壺の破片か。青灰色で器面は滑らかで、石英5mmなどを含む。

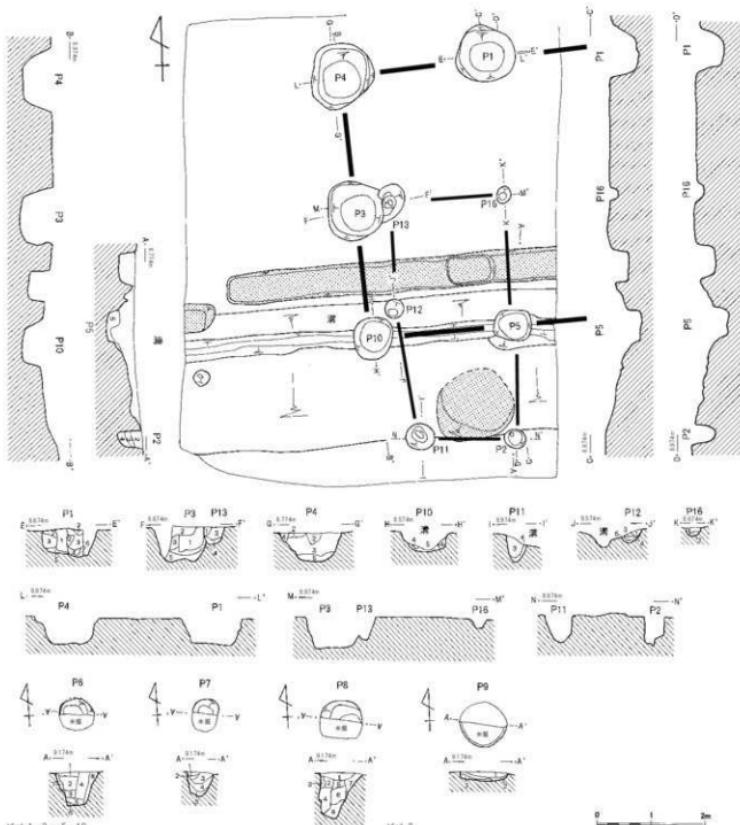
16は、須恵器の獸脚部分である。獸脚のつく本体は不明。脚の接合面から剥がれたもので、接合面は、10cmに及ぶことから、本体の高さは10cm以上になると。脚は、正面・側面とも非常に鋭利な工具で面取り。正面の面取りは幅1cmほどで狭く5回以上、側



第28図 松山遺跡第56・57地点遺構配置図(1/300)



第29図 松山遺跡第56地点土坑1遺物出土状況図(1/60)



ピット1・3～5・10

- 1 黒褐色土、練り有、粘性有、シミ状の3cm以下灰色粘土ブロックと5mm以下ローム粒多く、3cm以下ローム粒多く含む(柱塗か)
- 2 黒褐色土、練り有、ソフトローム土をやや多く含み、色調斑状色味がある。3mm以下ローム粒や多く含む
- 3 黒褐色土、練り有、2cm以下ロームブロック・3mm以下でローム粒少し含む
- 4 黒褐色土、練り有、粘性有、1cm以下ロームブロック 粒多く含む
- 5 黒褐色土主体、練り有、粘性有、ロームブロック主体で転圧を受けている。黒色土粒を含む
- 6 黒褐色土、練り有、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
- 7 黒褐色土、練り有、粘性有、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
- 8 黒褐色土、練り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
- 9 黒褐色土、練り有、粘性有、2mm以下ローム粒や多く、他より練り弱め、柱塗か
- 10 黒褐色土、練り有、粘性有、黒色斑塊、2mm以下でローム粒少し含む
- 11 黑褐色土、練り有、粘性有、2mm以下ロームブロック主体
- 12 黒褐色土、練り有、粘性有、3mm以下ローム粒や多く含む
- 13 黑褐色土、練り有、粘性有、5mm以下ローム粒や多く含む
- 14 黒褐色土、練り有、柱に間に
- 15 ピット1の2層に同じ
- 16 ピット1の3層に同じ
- 17 黒褐色土、練り有、粘性有、ソフローム土を多く含む

第30図 松山遺跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝 (1/60)

面は1回である。足の指の表現を加えている。面取り後、先端をえぐり指の表現をし、さらに、鋭利な工具で、線を加えて長い指としている。指數ははっきりしないが5本で右足のようである。

17は、管状土錐の破片である。直径1.1cm、重さ1.79gで、両端部共に欠損している。

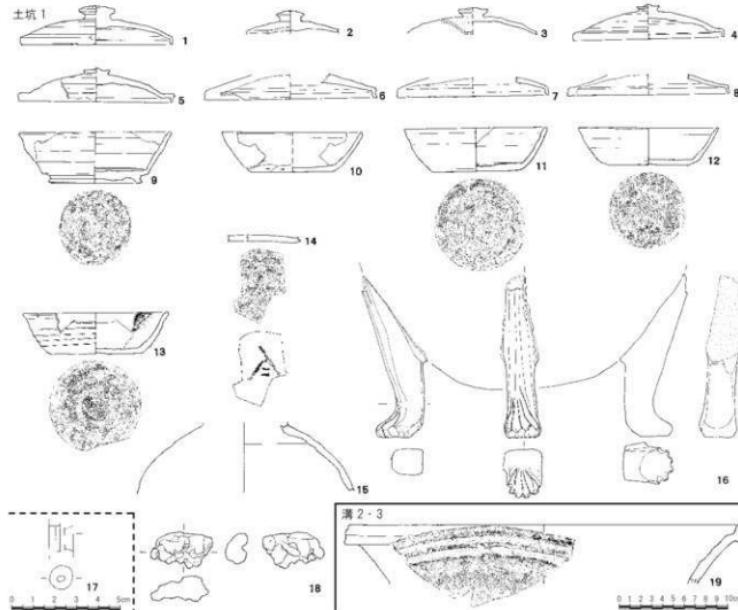
18は、鉄滓である。表面に土が付着している。重さ38.30g、長さ5.8cm、厚さ2.3cm、時期は不明。

19は須恵器壺形土器の破片で、現存1/8、推定口径36cm。頸部表面に櫛目工具による波状文が施され、櫛歯は8本である。

土坑出土遺物は、獸脚が注目される。須恵器杯の口径が13~14cmで、底部の調整は、回転系切り後周辺部へラ削りが施されているもので、8世紀第4四半期を中心としたものであろう。(笹森健一)

第13表 松山遺跡第56地点土坑・ピット一覧表(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面積 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----------|---------|---------|---------|------|----|
| P坑1 | 方形 | 220×190 | 175×167 | 65.6 | |
| P1 | 円形 | 109×103 | 64×54 | 54.9 | |
| P2 | 円形 | 42×34 | 7×5 | 52.0 | |
| P3 | 楕丸方形 | 110×99 | 70×64 | 60.8 | |
| P4 | 楕丸方形 | 120×114 | 68×68 | 53.4 | |
| P5 | 円形 | 68×56 | 54×49 | 25.6 | |
| P6 (楕丸方形) | 65×(31) | 35×(17) | | 71.0 | |
| P7 不明 | 46×(26) | 28×(14) | | 46.7 | |
| P8 (楕丸方形) | 75×(35) | 39×(12) | | 83.9 | |
| P9 (楕丸方形) | 86×(43) | 79×(38) | | 18.3 | |
| P10 円形 | 76×70 | 58×55 | | 36.2 | |
| P11 円形 | 53×46 | 16×7 | | 59.8 | |
| P12 円形 | 34×34 | 17×13 | | 25.1 | |
| P13 不明 | 66×(40) | 15×8 | | 43.8 | |
| P16 | 円形 | 30×25 | 14×13 | 16.9 | |



第31図 松山遺跡第56地点出土遺物(1/4・1/2)

第5章 西ノ原遺跡第150地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武藏野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

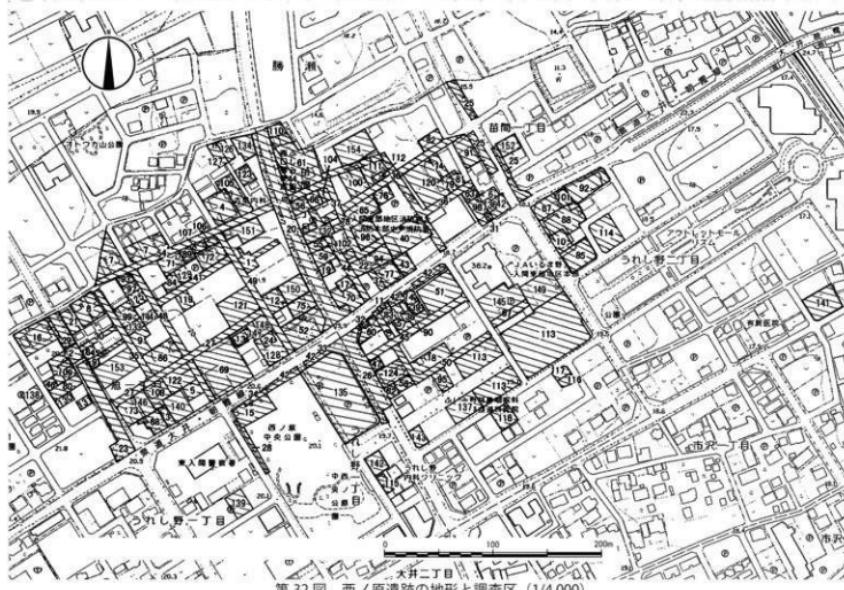
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃まで武藏野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊

が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2013年12月現在で158地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、200軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通じ良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 本調査に至る経過と調査の概要

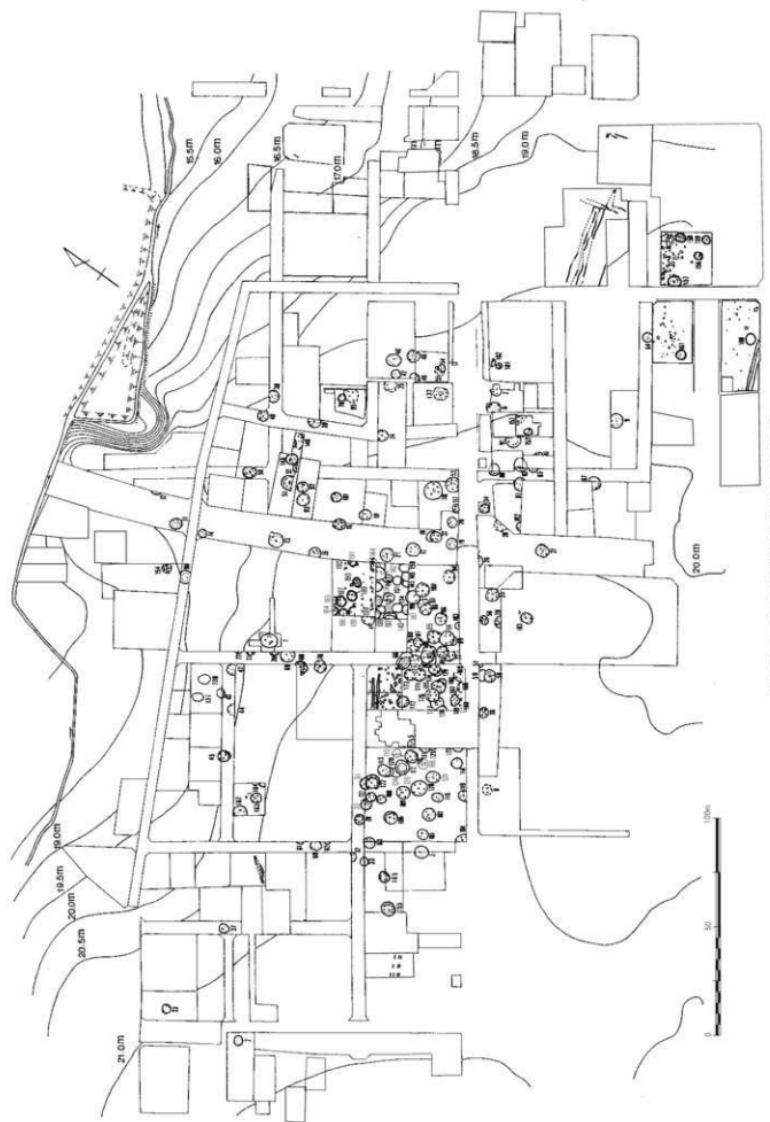
申請地は西ノ原遺跡の中央部に位置するため、2012年1月16日付けで、原因者より宅地造成に伴う「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年1月23日から2月16日まで、幅約1.5mのトレーニング5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から遺構確認面までの深さは



第32図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 14 表 西ノ原遺跡調査一覧表

| 遺跡 | 所在 | 調査年 | 測量 | 測量範囲 | 確認された遺跡の種類 | 判明する遺跡 | 表面状況 | | 被破られた遺跡の種類 | 付記 |
|-----|----------|------------------|-----|------|---------------|------------|------|-------|------------|----|
| | | | | | | | 地名 | 標高(m) | | |
| 1 | | 1871 | | | | | | | | |
| 2 | 伊勢原東3 | 1978.12.6～12.28 | 270 | 伊勢原東 | 石器遺跡、土器・瓦、陶器灰 | 1979.7.22 | | | | |
| 3 | | 1979.3. | | | | | | | | |
| 4 | 伊勢原125-1 | 1979.7.7～7.8 | 600 | 伊勢原西 | 土器の底面 | 1979.7.8 | | | | |
| 5 | | 1979.8.1～8.14 | | | | | | | | |
| 6 | 伊勢原130-1 | 1980.6.17～6.27 | 450 | 伊勢原東 | 石器、土器、穿孔加工土器 | 1980.7.22 | | | | |
| 7 | 伊勢原130-1 | 1980.7.8～7.11 | 600 | 伊勢原東 | 土器、石器、穿孔加工土器 | 1980.7.11 | | | | |
| 8 | 伊勢原130-1 | 1980.10.23～11.14 | 600 | 伊勢原東 | 土器文様、土器、石器 | 1980.11.14 | | | | |
| 9 | 伊勢原130-1 | 1981.8.4～8.23 | 600 | 伊勢原東 | 土器、石器、土器文様 | 1981.8.23 | | | | |
| 10 | 伊勢原130-1 | 1981.11.8～11.13 | 600 | 伊勢原東 | 土器 | 1981.11.13 | | | | |
| 11 | 伊勢原130-1 | 1982.5.25～5.27 | 600 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1982.5.27 | | | | |
| 12 | 伊勢原130-1 | 1982.7.8～7.11 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1982.7.11 | | | | |
| 13 | 伊勢原134-8 | 1983.9.13～9.18 | 250 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1983.9.18 | | | | |
| 14 | 伊勢原143 | 1983.10.24～11.7 | 240 | 伊勢原東 | 土器、石器、毛器、工具 | 1983.11.7 | | | | |
| 15 | 伊勢原143 | 1984.1.1～1.5 | 400 | 伊勢原東 | 土器 | 1984.1.5 | | | | |
| 16 | 伊勢原143-4 | 1984.5.25～5.27 | 600 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1984.5.27 | | | | |
| 17 | 伊勢原143-4 | 1984.7.8～7.11 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1984.7.11 | | | | |
| 18 | 伊勢原143-4 | 1985.3.13～3.22 | 180 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1985.3.22 | | | | |
| 19 | 伊勢原143-4 | 1985.7.7～7.10 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1985.7.10 | | | | |
| 20 | 伊勢原143-4 | 1985.7.24～7.27 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1985.7.27 | | | | |
| 21 | 伊勢原143-4 | 1986.1.1～1.4 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.4 | | | | |
| 22 | 伊勢原143-4 | 1986.1.11～1.14 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.14 | | | | |
| 23 | 伊勢原143-4 | 1986.1.18～1.21 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.21 | | | | |
| 24 | 伊勢原143-4 | 1986.1.28～2.1 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.1 | | | | |
| 25 | 伊勢原143-4 | 1986.2.14～2.17 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.17 | | | | |
| 26 | 伊勢原143-4 | 1986.3.1～3.4 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.4 | | | | |
| 27 | 伊勢原143-4 | 1986.3.11～3.14 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.14 | | | | |
| 28 | 伊勢原143-4 | 1986.3.28～3.31 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.31 | | | | |
| 29 | 伊勢原143-4 | 1986.4.11～4.14 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.14 | | | | |
| 30 | 伊勢原143-4 | 1986.4.18～4.21 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.21 | | | | |
| 31 | 伊勢原143-4 | 1986.5.5～5.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.8 | | | | |
| 32 | 伊勢原143-4 | 1986.5.12～5.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.15 | | | | |
| 33 | 伊勢原143-4 | 1986.5.19～5.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.22 | | | | |
| 34 | 伊勢原143-4 | 1986.6.5～6.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.8 | | | | |
| 35 | 伊勢原143-4 | 1986.6.12～6.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.15 | | | | |
| 36 | 伊勢原143-4 | 1986.6.19～6.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.22 | | | | |
| 37 | 伊勢原143-4 | 1986.6.26～6.29 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.29 | | | | |
| 38 | 伊勢原143-4 | 1986.7.3～7.6 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.6 | | | | |
| 39 | 伊勢原143-4 | 1986.7.10～7.13 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.13 | | | | |
| 40 | 伊勢原143-4 | 1986.7.17～7.20 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.20 | | | | |
| 41 | 伊勢原143-4 | 1986.7.24～7.27 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.27 | | | | |
| 42 | 伊勢原143-4 | 1986.8.1～8.4 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.4 | | | | |
| 43 | 伊勢原143-4 | 1986.8.8～8.11 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.11 | | | | |
| 44 | 伊勢原143-4 | 1986.8.15～8.18 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.18 | | | | |
| 45 | 伊勢原143-4 | 1986.8.22～8.25 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.25 | | | | |
| 46 | 伊勢原143-4 | 1986.8.29～9.1 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.1 | | | | |
| 47 | 伊勢原143-4 | 1986.9.5～9.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.8 | | | | |
| 48 | 伊勢原143-4 | 1986.9.12～9.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.15 | | | | |
| 49 | 伊勢原143-4 | 1986.9.19～9.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.22 | | | | |
| 50 | 伊勢原143-4 | 1986.9.26～9.29 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.29 | | | | |
| 51 | 伊勢原143-4 | 1986.10.3～10.6 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.6 | | | | |
| 52 | 伊勢原143-4 | 1986.10.10～10.13 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.13 | | | | |
| 53 | 伊勢原143-4 | 1986.10.17～10.20 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.20 | | | | |
| 54 | 伊勢原143-4 | 1986.10.24～10.27 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.27 | | | | |
| 55 | 伊勢原143-4 | 1986.11.7～11.10 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.10 | | | | |
| 56 | 伊勢原143-4 | 1986.11.21～11.24 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.24 | | | | |
| 57 | 伊勢原143-4 | 1986.11.28～12.1 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.1 | | | | |
| 58 | 伊勢原143-4 | 1986.12.5～12.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.8 | | | | |
| 59 | 伊勢原143-4 | 1986.12.12～12.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.15 | | | | |
| 60 | 伊勢原143-4 | 1986.12.19～12.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.22 | | | | |
| 61 | 伊勢原143-4 | 1986.12.26～12.29 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.29 | | | | |
| 62 | 伊勢原143-4 | 1986.1.2～1.5 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.5 | | | | |
| 63 | 伊勢原143-4 | 1986.1.9～1.12 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.12 | | | | |
| 64 | 伊勢原143-4 | 1986.1.16～1.19 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.19 | | | | |
| 65 | 伊勢原143-4 | 1986.1.23～1.26 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.26 | | | | |
| 66 | 伊勢原143-4 | 1986.1.29～1.32 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.1.32 | | | | |
| 67 | 伊勢原143-4 | 1986.2.5～2.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.8 | | | | |
| 68 | 伊勢原143-4 | 1986.2.12～2.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.15 | | | | |
| 69 | 伊勢原143-4 | 1986.2.19～2.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.22 | | | | |
| 70 | 伊勢原143-4 | 1986.2.26～2.29 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.2.29 | | | | |
| 71 | 伊勢原143-4 | 1986.3.5～3.8 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.8 | | | | |
| 72 | 伊勢原143-4 | 1986.3.12～3.15 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.15 | | | | |
| 73 | 伊勢原143-4 | 1986.3.19～3.22 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.22 | | | | |
| 74 | 伊勢原143-4 | 1986.3.26～3.29 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.3.29 | | | | |
| 75 | 伊勢原143-4 | 1986.4.2～4.5 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.5 | | | | |
| 76 | 伊勢原143-4 | 1986.4.9～4.12 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.12 | | | | |
| 77 | 伊勢原143-4 | 1986.4.16～4.19 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.19 | | | | |
| 78 | 伊勢原143-4 | 1986.4.23～4.26 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.4.26 | | | | |
| 79 | 伊勢原143-4 | 1986.4.30～5.3 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.3 | | | | |
| 80 | 伊勢原143-4 | 1986.5.6～5.9 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.9 | | | | |
| 81 | 伊勢原143-4 | 1986.5.13～5.16 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.16 | | | | |
| 82 | 伊勢原143-4 | 1986.5.20～5.23 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.23 | | | | |
| 83 | 伊勢原143-4 | 1986.5.27～5.30 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.5.30 | | | | |
| 84 | 伊勢原143-4 | 1986.6.3～6.6 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.6 | | | | |
| 85 | 伊勢原143-4 | 1986.6.10～6.13 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.13 | | | | |
| 86 | 伊勢原143-4 | 1986.6.17～6.20 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.20 | | | | |
| 87 | 伊勢原143-4 | 1986.6.24～6.27 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.6.27 | | | | |
| 88 | 伊勢原143-4 | 1986.6.30～7.3 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.3 | | | | |
| 89 | 伊勢原143-4 | 1986.7.7～7.10 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.10 | | | | |
| 90 | 伊勢原143-4 | 1986.7.14～7.17 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.17 | | | | |
| 91 | 伊勢原143-4 | 1986.7.21～7.24 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.24 | | | | |
| 92 | 伊勢原143-4 | 1986.7.28～7.31 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.7.31 | | | | |
| 93 | 伊勢原143-4 | 1986.8.4～8.7 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.7 | | | | |
| 94 | 伊勢原143-4 | 1986.8.11～8.14 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.14 | | | | |
| 95 | 伊勢原143-4 | 1986.8.18～8.21 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.21 | | | | |
| 96 | 伊勢原143-4 | 1986.8.25～8.28 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.8.28 | | | | |
| 97 | 伊勢原143-4 | 1986.8.32～9.1 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.1 | | | | |
| 98 | 伊勢原143-4 | 1986.8.30～9.3 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.3 | | | | |
| 99 | 伊勢原143-4 | 1986.9.6～9.9 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.9 | | | | |
| 100 | 伊勢原143-4 | 1986.9.13～9.16 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.16 | | | | |
| 101 | 伊勢原143-4 | 1986.9.20～9.23 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.23 | | | | |
| 102 | 伊勢原143-4 | 1986.9.27～9.30 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.9.30 | | | | |
| 103 | 伊勢原143-4 | 1986.10.4～10.7 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.7 | | | | |
| 104 | 伊勢原143-4 | 1986.10.11～10.14 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.14 | | | | |
| 105 | 伊勢原143-4 | 1986.10.18～10.21 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.21 | | | | |
| 106 | 伊勢原143-4 | 1986.10.25～10.28 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.10.28 | | | | |
| 107 | 伊勢原143-4 | 1986.11.1～11.4 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.4 | | | | |
| 108 | 伊勢原143-4 | 1986.11.8～11.11 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.11 | | | | |
| 109 | 伊勢原143-4 | 1986.11.15～11.18 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.18 | | | | |
| 110 | 伊勢原143-4 | 1986.11.22～11.25 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.11.25 | | | | |
| 111 | 伊勢原143-4 | 1986.11.29～12.2 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.2 | | | | |
| 112 | 伊勢原143-4 | 1986.12.6～12.9 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.9 | | | | |
| 113 | 伊勢原143-4 | 1986.12.13～12.16 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.16 | | | | |
| 114 | 伊勢原143-4 | 1986.12.20～12.23 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.23 | | | | |
| 115 | 伊勢原143-4 | 1986.12.27～12.30 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1986.12.30 | | | | |
| 116 | 伊勢原143-4 | 1987.1.3～1.6 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1987.1.6 | | | | |
| 117 | 伊勢原143-4 | 1987.1.10～1.13 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1987.1.13 | | | | |
| 118 | 伊勢原143-4 | 1987.1.17～1.20 | 300 | 伊勢原東 | 土器文様 | 1987.1.20 | | | | |
| 119 | 伊勢 | | | | | | | | | |

第33図 西ノ原遺跡第150地点の本調査
西ノ原遺跡分布図 (1/2,000)

第15表 西ノ原遺跡住居跡一覧表

30～50 cmで、縄文時代中期の住居跡 12 軒の他、土坑 2 基、ピットらしきプランを多数確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

試掘調査の結果、原因者と再度協議を行い原因者負担による本調査を実施した。本調査の範囲は、開発区域内に築造される道路部分である。

本調査は 2012 年 2 月 20 日から 3 月 4 日まで、重機により表土を除去し、人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代中期住居跡 12 軒（うち 3 軒を本調査）、炉穴 1 基、集石土坑 2 基、ピット 35 基である。遺物は縄文時代早期末から中期の土器、石器などである。

III 遺構と遺物

(1) 住居跡

① 189 号住居跡

調査区中央部に位置する。試掘調査で住居の南側半分を検出、さらに道路部分に掛かる住居跡の東側半分を検出した。なお平成 12 年度の調査で北西側 1/4 を検出し、ほぼ住居跡全体を検出した。

【形状・規模・時期】 平面形態は円形から梢円形を呈する。規模は上端 (4.2) × (4.0) m、深さは 26 cm を測る。住居跡の時期は加曾利 E III 期である。

【炉】 住居中央部に位置する。平面形態は梢円形で北側の底部が被熱し焼土となっている。ピット 12 と重複するがピット 12 が新しい。規模は確認面積 (52) × 56 cm、底径 (44) × 44 cm、深さは 10 cm である。焼土範囲は 29 × 18 cm である。

【柱穴】 主柱穴は配置と深さから P 1～5・13 である。P 12 は炉より新しくいため本住居跡に伴うものか不明である。ピットの詳細は第 16 表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】 住居床面から覆土層にかけて土器片や石器が出土するが、復元可能なものは少ない。

【189 号住居跡出土遺物】(第 38 図 1～11)

1 は平縁深鉢の口縁部で隆帯による梢円形区画を配し、隆帯に円形の刺突がみられる。胎土には雲母を含む。2 は隆帯の区画内に沈線文と沈線間に連続刺突を施す。3 は波状口縁で沈線の区画内に縱位の沈線文を施す。4・6 は地文 R L 繩文に沈線間を磨り消し、6 は沈線の懸垂文間を幅広に磨り消す。5 は地文条線で口脣部直下に横位の沈線を施し、その間は磨り消す。

7 は無文の浅鉢、8 は器台で穿孔がみられる。9 は砂岩製の切目石鍤で先端部に 1 ヶ所、下端部に 2 ヶ所の切込みがみられ、重さ 23.54 g である。10 は焼き粘土塊で重さ 61.81 g である。11 はホルンフェルスの打製石斧で重さ 60.07 g である。1 は阿玉台 I b～II、2・8 は勝坂Ⅲ、3～6 は加曾利 E III、7 は不明である。

② 190 号住居跡

調査区中央部、189 号住居跡の西側 2.8 m に位置する。

【形状・規模・時期】 平面形態は梢円形を呈する。規模は上端 4.36 × 3.02 m、深さは 21.6 cm である。住居跡の時期は加曾利 E III 期である。

【炉】 住居中央部やや北よりに位置する。平面形態は梢円形で南側の底部が被熱し焼土となっている。規模は確認面積 88 × 56 cm、底径 79 × 51 cm、深さは 26.3 cm である。焼土範囲は 44 × 31 cm である。

【柱穴】 柱穴は P 1～9 である。ピットの詳細は第 16 表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】 住居床面から覆土層と、炉の覆土層からまとまった土器片や石器が出土するが、復元可能なものは少ない。

【190 号住居跡出土遺物】(第 38 図 12～38)

12・13 は同一個体の口縁部文様帶と胸部文様帶を沈線で配する。口縁部文様帶は梢円形区画、胸部文様帶は「匂」字状の区画を配し、区画内の地文は L R 繩文である。14 は地文 L R 繩文で沈線の懸垂文間を磨り消す。15 は波状口縁で、口脣部に隆帯で長梢円形区画を配し、頭部から胸部の地文は撚糸文を施す。16 は沈線文を施す。17 は口縁部で、地文撚糸文に 2 本組みの隆帯で横「S」文様を配する。18 は波状口縁の波頭部で隆帯の区画内に L r 撚糸文を施す。19・20 は隆帯の区画内に沈線を巡らす。地文は L R 繩文。21 は口縁部直下に列点文を巡らせ、沈線の区画内に L r の撚糸文を施す。22 は地文 L r 撚糸文に 2 本組みの隆帯の懸垂文と斜位の隆帯を貼り付ける。23 は地文条線文に横位の隆帯から 2 本組み半隆帯の懸垂文を施す。24 は地文 R L 繩文に幅広の沈線間を磨り消す。25・26 は地文条線で、25 は連弧文とみられる沈線文を施す。27 は地文 L r の撚糸文に隆帯の蛇行懸垂文を貼り付ける。28 は地文に沈線で 2 本組みの懸垂文を施す。29 は地文繩文、30 は地文条線文に沈線の懸垂文を施す。31～33 は浅鉢の口縁部で内外面に赤

色の塗彩を施す。35・36は浅鉢の脇部で内面に赤色の塗彩を施す。32・33は同一個体とみられる。34は浅鉢の底部、37は深鉢の底部である。38は細粒砂岩製の打製石斧で重さ 83.36g である。12～14・19・20・24は加曾利 E III、15・17・18・22・23・27は加曾利 E I、16は勝坂、21・25は連弧文系、28～30は加曾利 E II で、それ以外も加曾利 E I～IIIに属する。

③ 191 号住居跡

調査区東部に位置する。道路部分に掛かる住居跡の西側半分を検出した。東側半分は調査区外に延びるが、区画整理事業に伴う発掘調査では確認されていない。住居南側で理縫を検出したが、炉は確認されなかった。【形状・規模・時期】平面形態は半円形を呈する。規模は上端 (3.92) × (2.2) m、深さは 22.5 cm である。住居跡の時期は加曾利 E III 期である。

【埋甕】住居内の南部に位置する。平面形態が円形の土坑に加曾利 E III式土器を正位に埋設する。底部から脇部上半まで残存するが、口縁部は耕作などの掘削により欠損する。振り方の規模は確認面径 33 × 28 cm、底径 8 × 8 cm、深さは 14 cm である。

【柱穴】柱穴は 4 本検出したが、主柱穴は配置と深さから P 1・2 とみられる。ピットの詳細は第 16 表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居中央部の P 2・3 周辺と埋甕周辺で、床面から覆土層にかけて土器片が出土する。

【191 号住居跡出土遺物】(第 39 図 39～58)

39 は地文 R L 繩文に 3 本組み沈線の懸垂文を施し、沈線間を磨り消す。40 は口縁部の突起である。41 は地文繩文に沈線の区画内を広く磨り消す。42 は地文繩文に微隆起線文と沈線文を施す。43 は 4 本の沈線の懸垂文で、沈線間は丁寧に磨り消す。44 は無文の口縁部である。45 は波状口縁の波頂部で隆帯と沈線で渦巻文を配する。46 は口唇直下の沈線間に列点文を施す。47 は頸部に環状の把手と、半截竹管の内側による半隆帯による区画文を配し、中に沈線文を施す。48 は隆帯を貼り付ける。49 は地文条線に隆帯文の懸垂文を貼り付ける。50 は地文燃系文に隆帯を貼り付け、52 は地文 L r 燃系文に沈線文を施す。51 は地文 R L 繩文、53 は地文 R L R 複節斜繩文で、沈線の懸垂文は磨り消す部分もみられる。54 は地文繩文で幅広の懸垂文は磨り消す。55・56 は地文燃系文である。57・58 は底部付近で 57 は地文条線である。

39・43・45・53・54 は加曾利 E III、41・42 は加曾利 E IV。40・47 は勝坂。50・55・56 は加曾利 E I。46・52 は連弧文系、49・57 は曾利系である。

(2) 炉穴

炉穴は調査区の中央部に位置し、190 号住居跡と重複し本遺構が古い。焼土等の硬化面はみられないが、住居跡より古く、覆土層に焼土粒および炭化物が多く含まれるため炉穴とした。また本調査区周辺では繩文時代早期の炉穴が多数検出されている。

平面形態は梢円形で、規模は確認面径 116 × 84 cm、底径 95 × 64 cm、深さは 24.6 cm である。

(3) 集石土坑

集石土坑 1 は調査区の東部、191 号住居跡の南側に位置する。集石土坑 2 は調査区中央部、190 号住居跡の北側に位置する。時期についてはとともに繩文時代中期とみられる。詳細については第 17 表西ノ原遺跡第 150 地点集石土坑出土標観察表のとおりである。

【集石土坑 1 出土遺物】(第 39 図 59～75)

59 は口縁部の突起で接合部は橋脚状を呈す。60 は細い隆帯を貼り付ける。61 は地文 R L 繩文、62 は L r 繩文を施す。63 は沈線の区画内に条線文を施す。64 は刻目隆帯脇に沈線を巡らせ、区画内に沈線文を施す。65 は刻目のある低い隆帯を境に燃系文と沈線文を施す。66 は地文繩文に刻目隆帯と沈線文、67 は燃系文、68 は地文繩文に細い隆帯を貼り付ける。70 は沈線文に磨り消しを施す。69・71 は地文繩文に沈線文を施す。72 は沈線の区画内に条線を施す。73 は燃系文、74 は条線文を施す。75 は口縁部の環状把手で低い隆帯脇に沈線を施す。

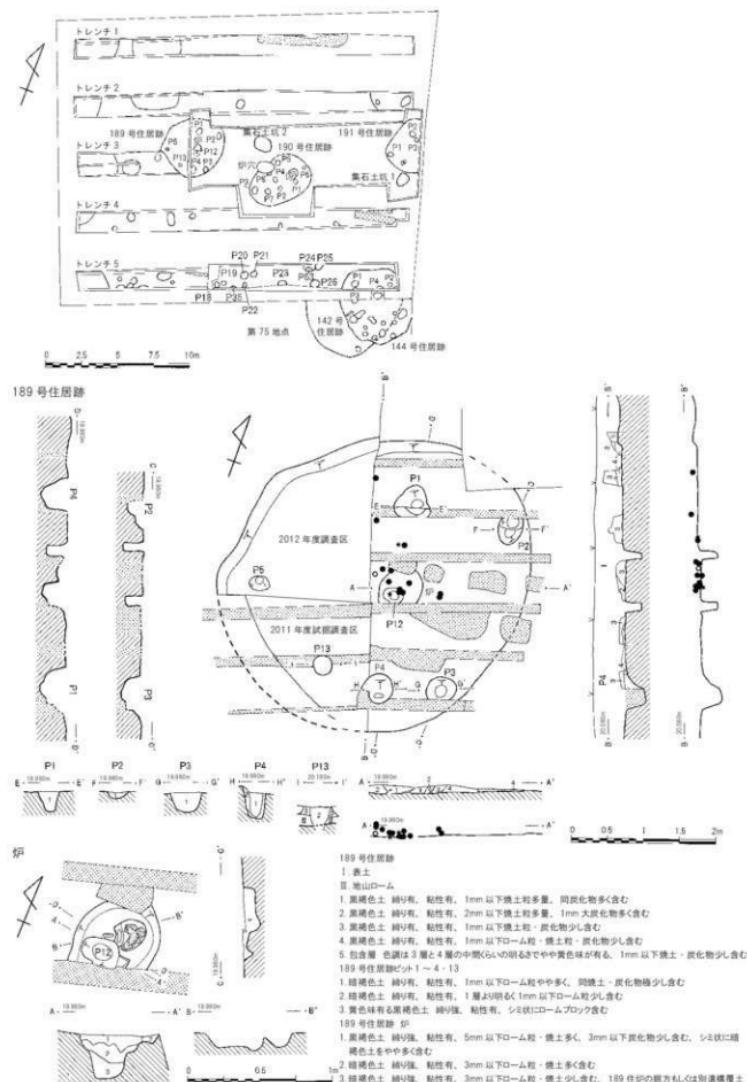
60・65・66 は勝坂、64 は勝坂 II、75 は加曾利 E I、その他は加曾利 E II～IV である。

【集石土坑 2 出土遺物】(第 39 図 76～82)

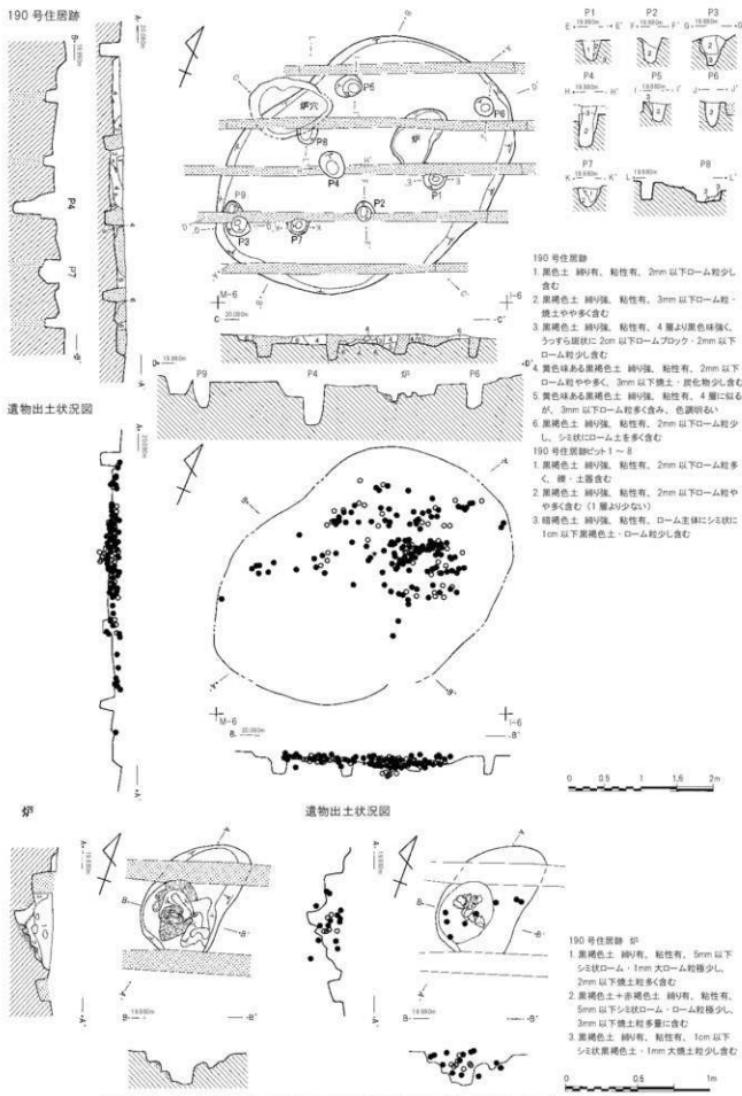
76・77 は地文 L r 燃系文、79 は地文繩文を施す。78 は地文繩文に沈線を、80 は地文繩文に沈線間を磨り消す。81 は沈線の懸垂文、82 は地文繩文の底部附近である。76～82 は加曾利 E I～III である。

(4) 遺構外出土遺物 (第 39 図 83～85)

83 は隆帯と沈線で口縁部区画を配し、中に L R 繩文を施す。84 無文、85 は 2 本組みの沈線の懸垂文を施す。83～85 は加曾利 E II～III である。



第34図 西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)、189号住居跡(1/60)、炉(1/30)



第35図 西ノ原遺跡第150地点 190号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)

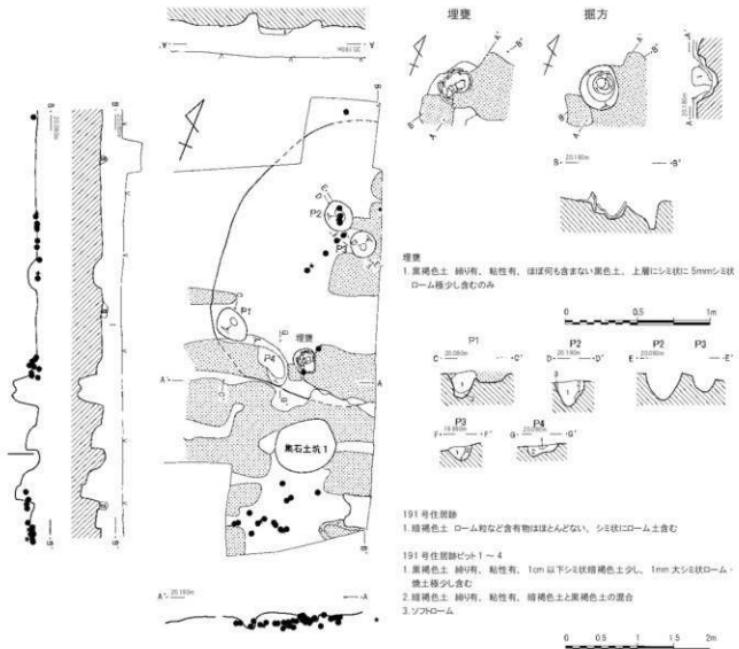
第 16 表 西ノ原遺跡 189 ~ 191 号住居跡ピット一覧表（単位 cm）

| No. | 平面形態 | 確認面積 | 底 面 | 深さ | 備考 |
|---------|------|-----------|---------|------|----|
| 189地P1 | 不規 | 49 × (44) | 15 × 12 | 36.0 | |
| 189地P2 | (円柱) | (35) × 34 | 16 × 12 | 25.0 | |
| 189地P3 | (円柱) | 41 × (33) | 16 × 15 | 26.0 | |
| 189地P4 | 円柱 | 42 × 41 | 15 × 6 | 35.0 | |
| 189地P5 | 椭円形 | 28 × 21 | 11 × 10 | 27.0 | |
| 189地P12 | 椭円形 | 27 × 19 | 14 × 11 | 23.0 | |
| 189地P13 | 円柱 | 27 × 25 | — | 25.0 | |
| 190地P1 | 不規 | 33 × (23) | 10 × 7 | 30.0 | |
| 190地P2 | 不整形 | 29 × 26 | 14 × 10 | 36.0 | |
| 190地P3 | 椭円形 | 50 × 31 | 8 × 7 | 41.0 | |
| 190地P4 | 円柱 | 39 × 33 | 10 × 15 | 59.0 | |

| No. | 平面形態 | 確認面積 | 底 面 | 深さ | 備考 |
|--------|------|-----------|-----------|------|----|
| 190地P5 | 円柱 | 35 × 31 | 15 × 13 | 34.0 | |
| 190地P6 | 円柱 | 25 × 24 | 14 × 10 | 48.0 | |
| 190地P7 | 不規 | 30 × (22) | 8 × 8 | 29.0 | |
| 190地P8 | 不規 | 29 × (20) | 15 × (15) | 14.0 | |
| 191地P1 | 円柱 | 43 × 37 | 12 × 8 | 38.0 | |
| 191地P2 | 円柱 | 45 × 37 | 19 × 10 | 36.0 | |
| 191地P3 | 円柱 | 36 × 34 | 10 × 10 | 30.0 | |
| 191地P4 | 不規 | (75) × 38 | 44 × 25 | 11.0 | |

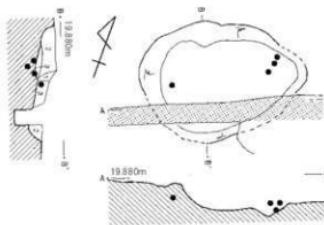
第 17 表 西ノ原遺跡第 150 地点集石土坑出土礫觀察表（単位 cm・個数・g (%)）

| 集石地No. | 平面形態 | 確認面積 | 底 面 | 深さ | 確認面積 | 底面面積 | 平均深度 | 集成面積 | 集成面積 | ターゲット面積 | 採取面積 |
|--------|------|-----------|---------|------|----------|------|------------|-------|------------|-----------|-----------|
| 1 | 不規 | 92 × (81) | 15 × 10 | 29.2 | 93 × 57 | 237 | 7.07(7.42) | 28.67 | 20H(87.76) | 29(12.24) | 49(20.68) |
| 2 | 椭円形 | 130 × 87 | 74 × 46 | 38.5 | 100 × 67 | 89 | 307(2.81) | 44.53 | 43(82.32) | 26(37.68) | 27(39.13) |



第 36 図 西ノ原遺跡第 150 地点 191 号住居跡・ピット (1/60)、埋甕 (1/30)

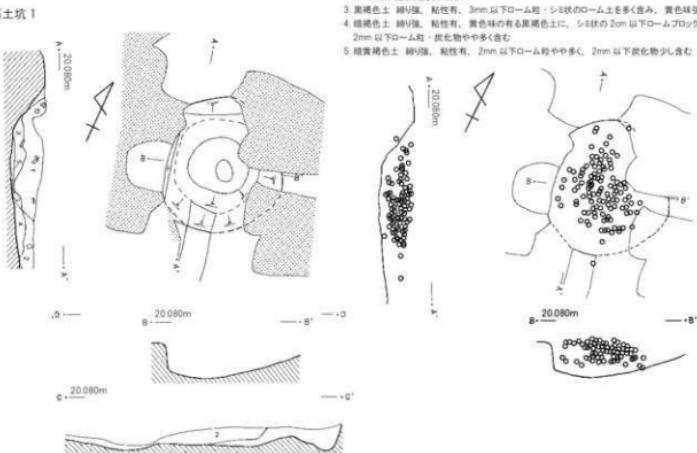
炉穴



190号住居跡 炉穴

1. 黒褐色土 粘性有、粒性有、2cm以下ロームブロック少し、1mm大ローム粒多く、同焼土粒少し、同焼化物微少し含む、全体に赤色帯びる
2. 黑褐色土 粘性有、粒性有、1mm大ローム粒多く、同焼土粒少し、同焼化物微少し含む、全体に赤色帯びる
3. 黑褐色土 粘性有、粒性有、2cm以下ロームブロック主体に、1mm大ローム粒程少し含む、燒土・灰化物含まない

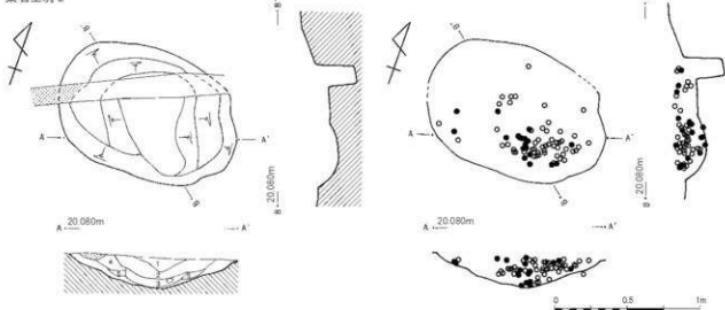
集石土坑 1



5. 黑褐色土 粘性有、粒性有、種多く含み、1mm以下焼土粒少し、ローム・灰化物微少し含む、2cm以上ローム層多く含む
6. 黑褐色土 粘性有、粒性有、1層より多く、1mm以下ローム粒・燒土・灰化物微少し含む
7. 黑褐色土 粘性有、粒性有、2層より多く、1mm以下ローム粒・燒土・灰化物微少し含む、2cm以下ローム粒少し含む
8. 黑褐色土 粘性有、粒性有、2層より多く含む、ローム粒・燒土・灰化物はほとんど含まない
9. シラコマヨリ黒褐色土 粘性有、燒土含む
10. 烧土+黑褐色土 3層よりローム多く含む、ローム粒・燒土は3層より少ない

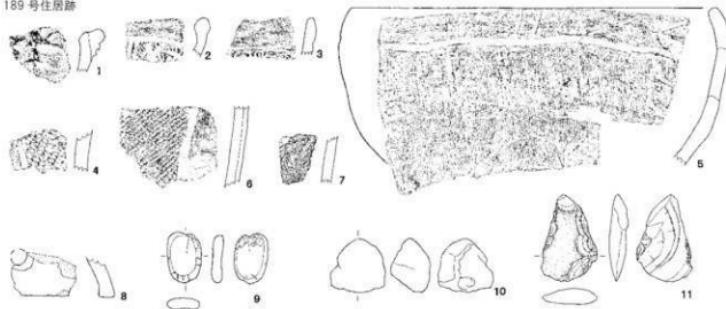
集石土坑 2

集石土坑 2

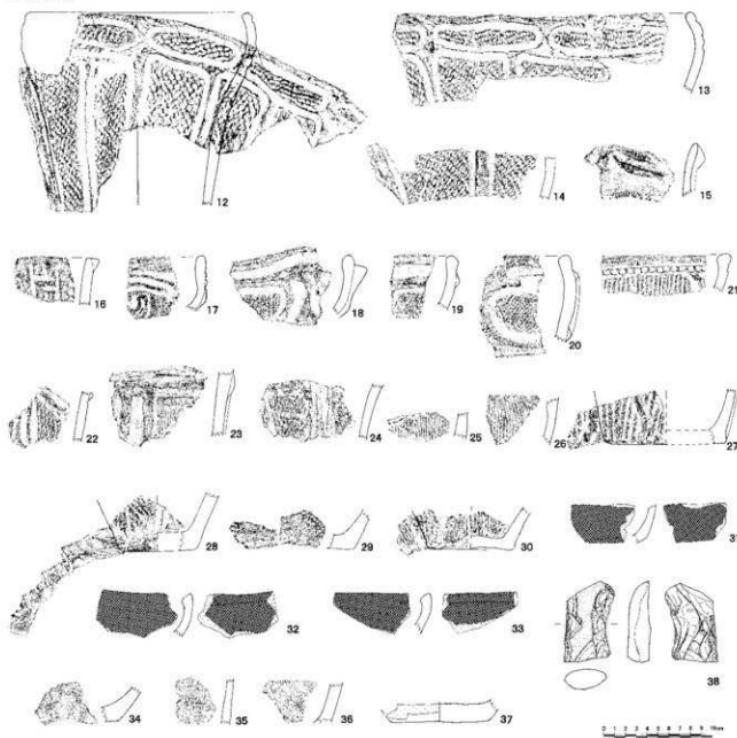


第37図 西ノ原遺跡第150地点炉穴・集石土坑1・2 (1/30)

189号住居跡

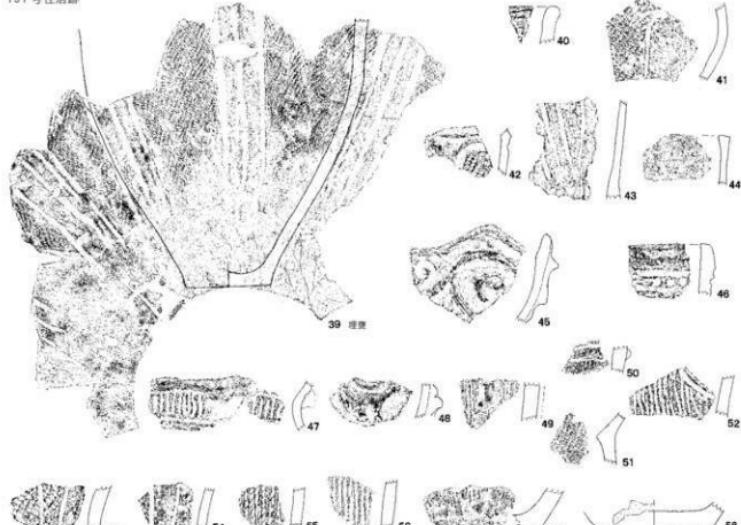


190号住居跡



第38図 西ノ原遺跡第150地点189・190号住居跡出土遺物①(1/4)

191号住跡跡



集石土坑 1



集石土坑 2



遺構外



第39図 西ノ原遺跡第150地点191号住跡集石土坑・遺構外出土遺物② (1/4)

第6章 まとめ

2011(平成23)年度の埋蔵文化財調査は、63件の試掘調査のうち、15件の本発掘調査を実施した。本発掘調査の内訳は、個人住宅に伴うもの8件、公共工事1件、民間開発6件である。

民間開発に伴う本発掘調査のうち、4件の報告を本書に掲載した。開発種別の内訳は分譲住宅2件、共同住宅と宅地造成に伴うものが各1件である。

以下、本書に掲載した報告の内、時期別に主な遺構と遺物について概観する。

【縄文時代】長宮遺跡第34地点の調査で、縄文時代早期の炉穴15基を検出した。各遺構から、胎土に織維を含む貝殻条痕文系土器が出土しており早期後半のものとみられる。特に注目されるのは、炉穴12としたものである。炉穴の周囲に、「コ」の字状に直径2~10cmで深さ2~7cmの小ピット73基を配する。祭祀的または調理・加工施設的な遺構の可能性が考えられる。西ノ原遺跡第150地点でも早期とみられる炉穴を1基検出したが遺物は出土していない。

縄文時代前期では、長宮遺跡第34地点で閑山I式の住居跡1軒を確認し、全体の約60%を検出した。閑山式土器は、昭和12年に山内清男先生が上福岡貝塚から発掘し、重要文化財に指定されている片口土器が有名で、現在も上野の国立博物館に展示されている。しかし近年では、長宮遺跡で閑山式期の住居跡が相次いで検出されている。分布を見ると、長宮氷川神社の北側あたりに湧水資源をもち、南東方向に流れ新河岸川に合流する小河川がかつては存在しており、その右岸沿いに広がる。小河川の作り出す微高地に分布するものと考える。滝遺跡の位置する左岸方向では現在の所は確認されていない。今後も新たな住居跡の発見に期待するとともに、閑山I式、II式の時期的な分布による集落の広がり等も検討して行きたい。

今回のJ9号住居跡は消失窓穴建物の可能性も考えられる。また住居覆土層の白色・灰色の粘土層は、2013(平成25)年度に調査した第44地点J16号住居跡でも類似する粘土層がみられ、同時期における何らかの自然現象が、窓穴建物の覆土層の堆積に影響した可能性が考えられる。河川を原因とするものか、または縄文海進等の影響によるものか、堆積物の分

析を行うなど今後の課題としておきたい。

中期では、西ノ原遺跡第150地点で11軒の住居跡を確認し、3軒(189~191号住居跡)を本書に掲載した。2軒は加曾利EⅢ期でもう1軒も加曾利EⅡ~Ⅲ期とみられる。西ノ原遺跡ではこれまでに、200軒を超す中期の住居跡が確認されている。全体として双環状を呈する集落配置も、中期初頭から前葉は西側に分布しその後東側に移動する傾向がみられる。

【古代】松山遺跡第56地点では8世紀後半の土坑1基と掘立柱建物跡2棟を検出した。うち1棟は隣接地の第45地点で調査した3号掘立柱建物跡と同一である。土坑1からはまとまった須恵器が出土し、中でも獸脚(第31図16)は市内で初めての出土である。胎土に海綿状骨針を含むため南比企産と考えられる。松山遺跡第15次調査では9世紀初頭の須恵器の鉄鋳も出土しており、集落の性格を考える上でも興味深い。

【中近世】長宮遺跡第34地点では井戸9基を検出した。井戸9から出土した遺物は、18世紀以降の時期である。溝は17世紀以降の近世期である。

長宮遺跡第36地点で井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基を検出した。井戸や土坑からは陶磁器の他に、板碑や石製品などが出土した。7基の井戸と土坑2から出土した陶磁器の年代は14世紀から16世紀後半までで、溝は14世紀から17世紀初頭までの時期である。井戸13から7点の板碑が重なるように出土した。年代の分かれる板碑は1340年から1469年の間であるが、井戸の使用年代かどうか不明である。本調査区周辺で検出した井戸は、第30地点の井戸8から近世の軒丸瓦が出土する以外は、近世陶磁器が出土していない。第30地点は第36地点の北側約20mに位置し、井戸7基、溝2本等を検出し、井戸2からは板碑2点が出土した。今回の調査成果とほぼ同様の傾向がみられ、板碑と井戸の埋没課程(廃棄)に何らかの意図を感じられる。第30・36地点の溝は土層の堆積状況などから近世期の遺構と考えていたが、井戸と近い時期の遺構である可能性が高い。

最後に、本書に掲載した遺跡の開発関係者の皆様、各地権者の皆様には発掘調査から整理作業、報告書刊行に至るまで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。